



## **高齢者や介護保険制度の現状等**



## 1 高齢者や介護保険制度の概況

### (1) 介護保険制度の実施状況

介護保険制度の制度創設以来 20 年が経過し、本市では 65 歳以上被保険者数が約 1.77 倍に増加するなかで、サービス利用者数は約 3.37 倍に増加しています。

#### ①65歳以上被保険者の増加

	平成12年4月末		令和2年4月末	
第1号被保険者数	7万4200人	⇒	13万1488人	1.8倍

#### ②要介護（要支援）認定者の増加

	平成12年4月末		令和2年4月末	
認定者数	9800人	⇒	2万8393人	2.9倍

#### ③サービス利用者の増加

	平成12年4月末		令和2年4月末	
在宅サービス利用者数	4700人	⇒	1万6547人	3.5倍
施設サービス利用者数	2300人	⇒	3038人	1.3倍
地域密着型サービス利用者数	—		3980人	
計	7000人	⇒	2万3565人	3.4倍

※平成12年(2000)年4月末は、市町村合併前の倉敷市・船穂町・真備町を合計したものの。

### (2) 保険給付費と保険料の推移

介護保険料は高齢化の進展により月額 6,050 円まで上昇しています（参考 全国 5,869 円，岡山県 6,064 円）。

事業運営期間		事業計画		保険給付費	保険料	全国平均 (参考)
平成12年度	第一期	第一期		129億円	3,366円	2,911円
平成13年度				161億円		
平成14年度				183億円		
平成15年度	第二期	第二期		198億円	3,920円	3,293円
平成16年度				210億円		
平成17年度				224億円		
平成18年度	第三期	第三期		227億円	4,760円	4,090円
平成19年度				240億円		
平成20年度				251億円		
平成21年度	第四期	第四期		268億円	4,700円	4,160円
平成22年度				281億円		
平成23年度				298億円		
平成24年度	第五期	第五期		312億円	5,430円	4,972円
平成25年度				327億円		
平成26年度				344億円		
平成27年度	第六期	第六期		355億円	5,850円	5,514円
平成28年度				356億円		
平成29年度				365億円		
平成30年度	第七期	第七期		379億円	6,050円	5,869円
令和元年度				392億円		
令和2年度				418億円		

※令和2(2020)年度の保険給付費は第7期介護保険事業計画における推計値。

※データの制約上平成12(2000)年度から平成17(2005)年度までは保険給付費，保険料については旧船穂町，真備町のものを含まない。

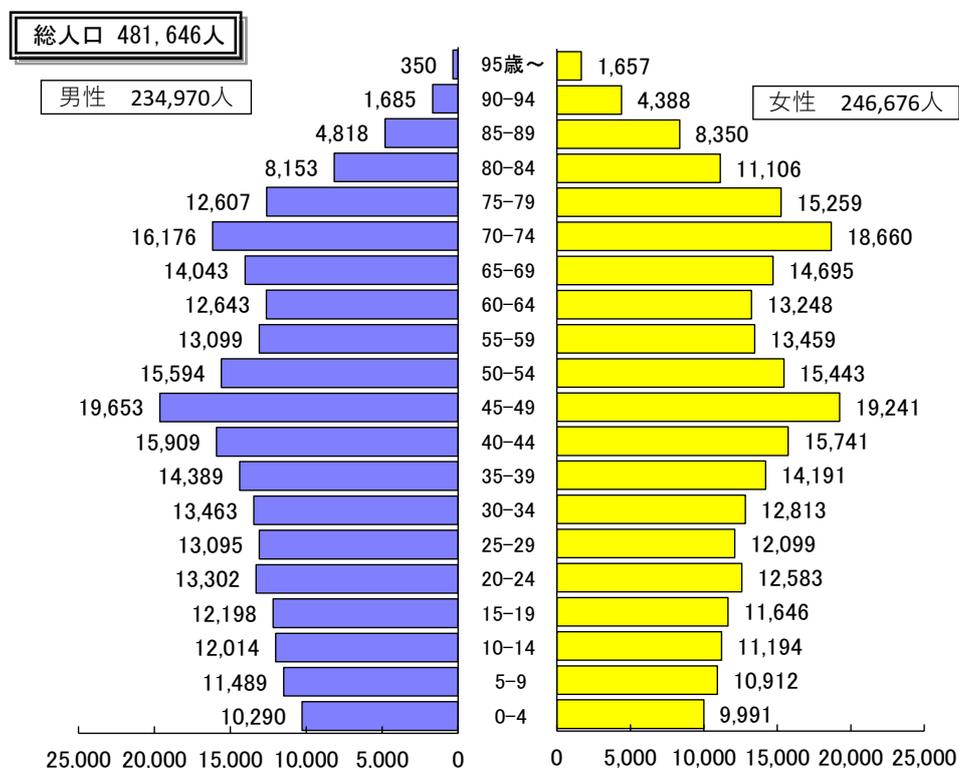
## 2 高齢者，要介護者等の現状

### (1) 人口ピラミッド（令和2(2020)年9月末現在）

本市の人口は，令和2(2020)年9月末現在で，男性 234,970 人，女性 246,676 人，合計 481,646 人です。

年齢階層別にみると，第一次ベビーブーム世代の 70～74 歳と第二次ベビーブーム世代の 45～49 歳が多く，国と同じ2つのピークがある「つぼ型」の人口ピラミッドとなっています。

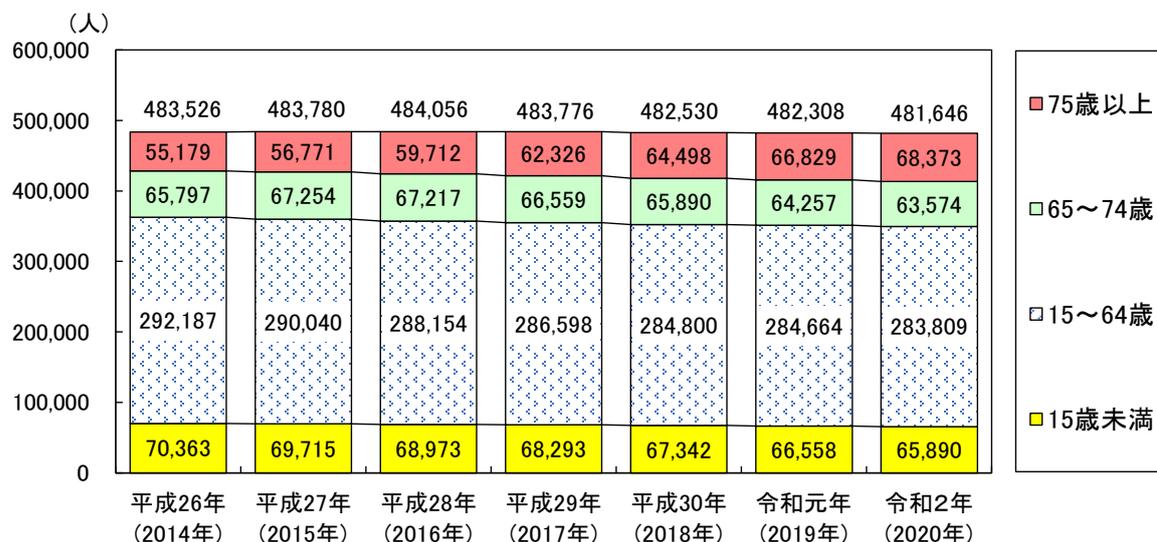
今後5年間で，70～74 歳の階層が順次後期高齢期に達することから，本計画期間中は後期高齢者（75 歳以上）の増加が見込まれます。



資料:住民基本台帳

## (2) 年齢4区分別人口の推移

年齢4区分別人口の推移をみると、平成26(2014)年から令和2(2020)年にかけて、15～64歳の生産年齢人口は8,378人、2.9%、65～74歳の前期高齢者は2,223人、3.4%減少しているのに対して、75歳以上の後期高齢者は13,194人、23.9%増加しています。



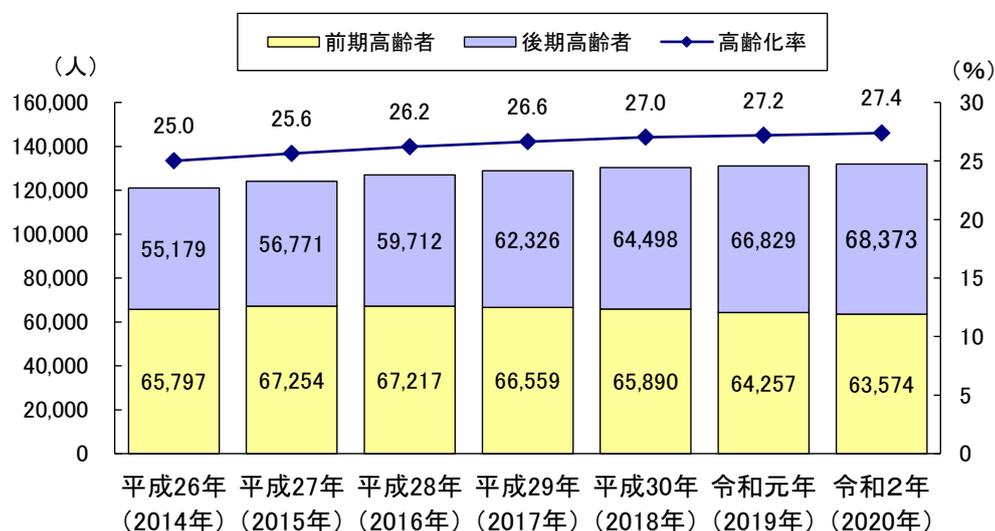
(各年9月末現在)

資料:住民基本台帳

## (3) 高齢者人口の内訳と高齢化率の推移

前期高齢者人口と後期高齢者人口の平成26(2014)年から令和2(2020)年までの推移をみると、後期高齢者は一貫して増加傾向にあるのに対し、前期高齢者は平成27年をピークに減少に転じています。

高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)は、平成26(2014)年の25.0%から令和2(2020)年には27.4%へと、6年間で2.4ポイント上昇しています。



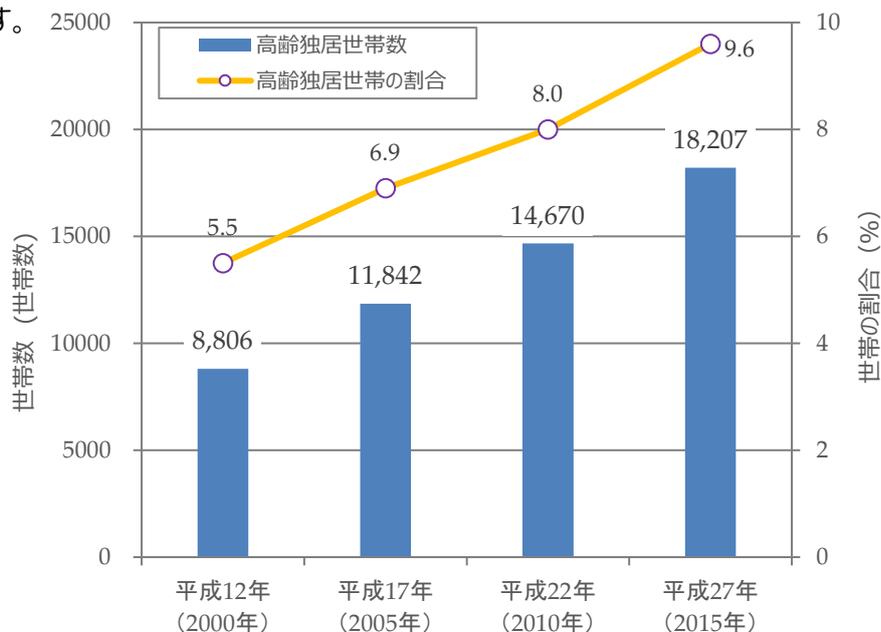
(各年9月末現在)

資料:住民基本台帳

#### (4) 高齢者がいる世帯の状況

##### (ア) 高齢独居世帯数・割合の推移

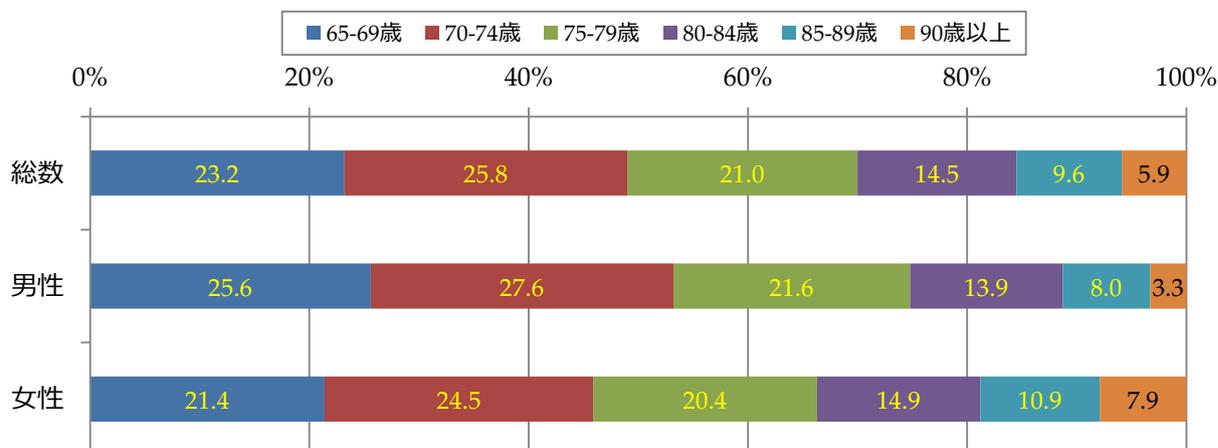
平成12(2000)年から平成27(2015)年までの15年間で、独居高齢者は8,806人から18,207人に増加(増加率106.8%)しており、一般世帯に占める高齢独居世帯割合は、平成12(2000)年の5.5%から平成27(2015)年時点で9.6%にまで増加しています。



資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

##### (イ) 性別年齢階層別にみた高齢者数の構成割合(令和元(2019)年9月時点)

高齢者に占める65~74歳の割合は、「男性」53.2%、「女性」45.9%、75~84歳の占める割合は、「男性」35.5%、「女性」35.3%、85歳以上の占める割合は、「男性」11.3%、「女性」18.8%となっています。

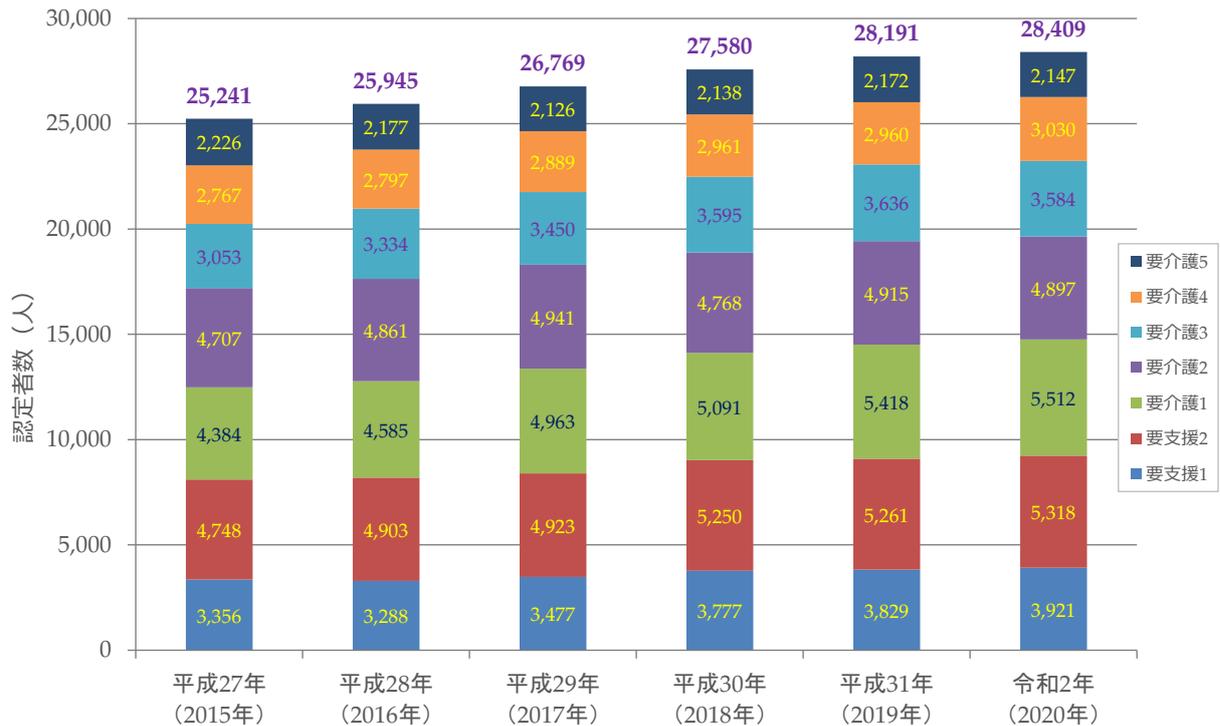


資料:住民基本台帳

## (5) 要支援・要介護認定者数の状況

## (ア) 要支援・要介護認定者数の推移

平成 27(2015)年から令和 2(2020)年までの 5 年間で、要支援・要介護認定者は 25,241 人から 28,409 人 (1.13 倍) に増加しています。また、令和 2(2020)年 3 月末時点の要支援者は 9,239 人で、認定者の 32.5%を占めています。



資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年 3 月末。  
認定者には第 2 号の認定者を含んでいる。

(イ) 性別年齢階層別に見た認定率

令和 2(2020)年 3 月末時点の 65 歳以上認定率は 21.2%で、性別では、「男性」15.3%、「女性」25.9%となっています。

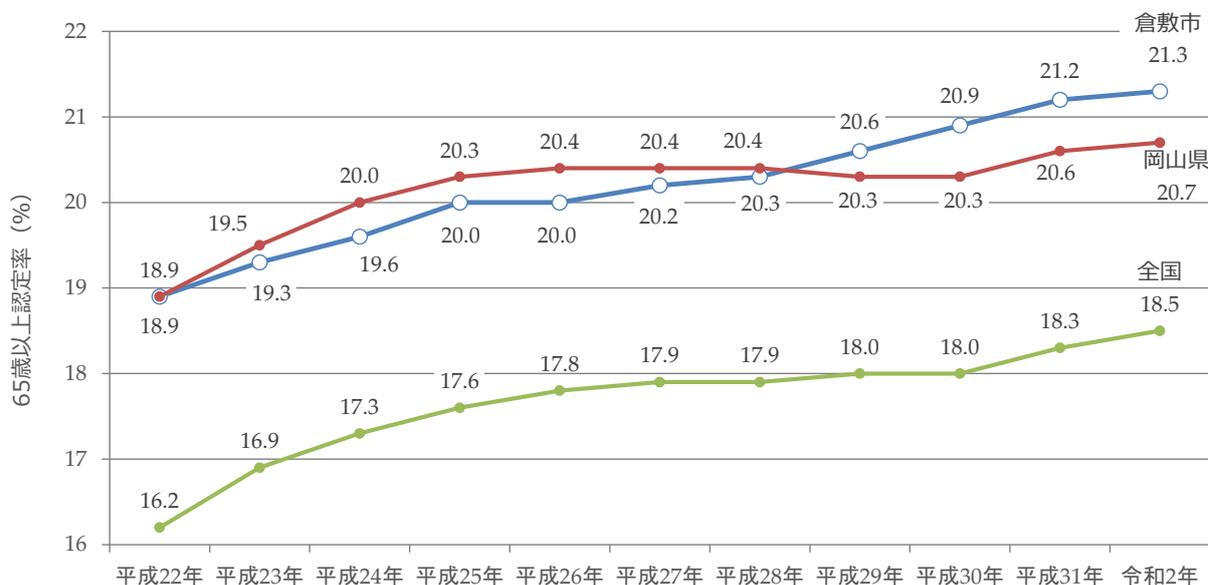
また、認定率は 75 歳を過ぎると急激に上昇し、65 歳から 69 歳の年齢階層を除き、女性の方が高くなっています。



資料:厚生労働省「介護保険事業状況報告」令和 2 年 3 月分、倉敷市人口データをもとに作成

(ウ) 高齢者の認定率の推移及び全国・県平均との比較（実績ベース）

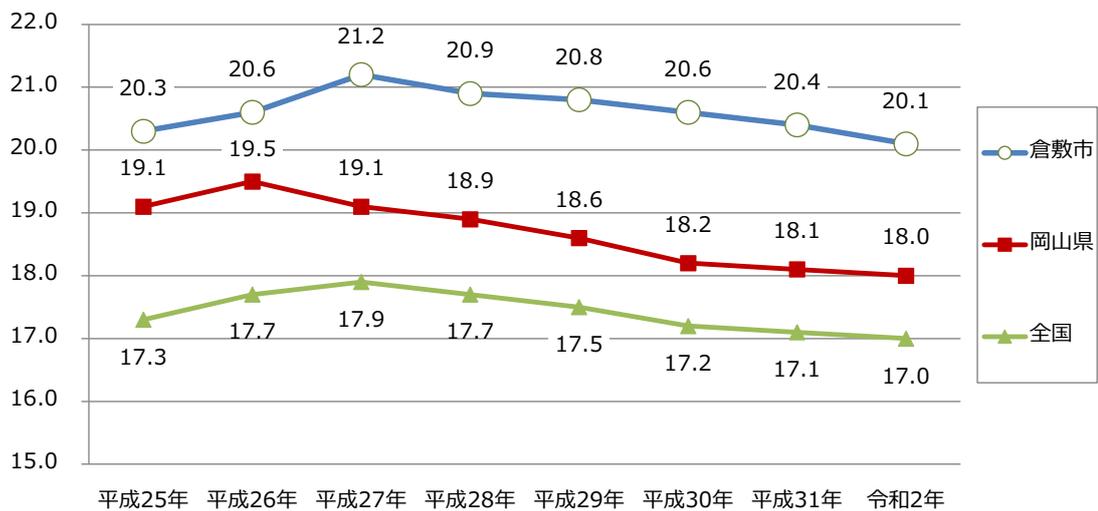
認定率（=65 歳以上認定者数／第 1 号被保険者数）は全国平均を上回る水準で推移しており、平成 22(2010)年以降、上昇が続いており、令和 2(2020)年 3 月末時点で 21.3%となっています。



資料:厚生労働省「地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年 3 月末。

(工) 調整済み認定率の推移及び全国・県平均との比較

令和 2(2020)年 3 月末時点の実績ベースの認定率は、「全国」18.5%、「岡山県」20.7%、「倉敷市」21.3%と、倉敷市の認定率は全国を 2.8 ポイント、岡山県を 0.6 ポイント上回る水準となっています。ここで、年齢構成を調整すると、倉敷市の認定率は全国を 3.1 ポイント、岡山県を 2.1 ポイント上回る水準となっています。

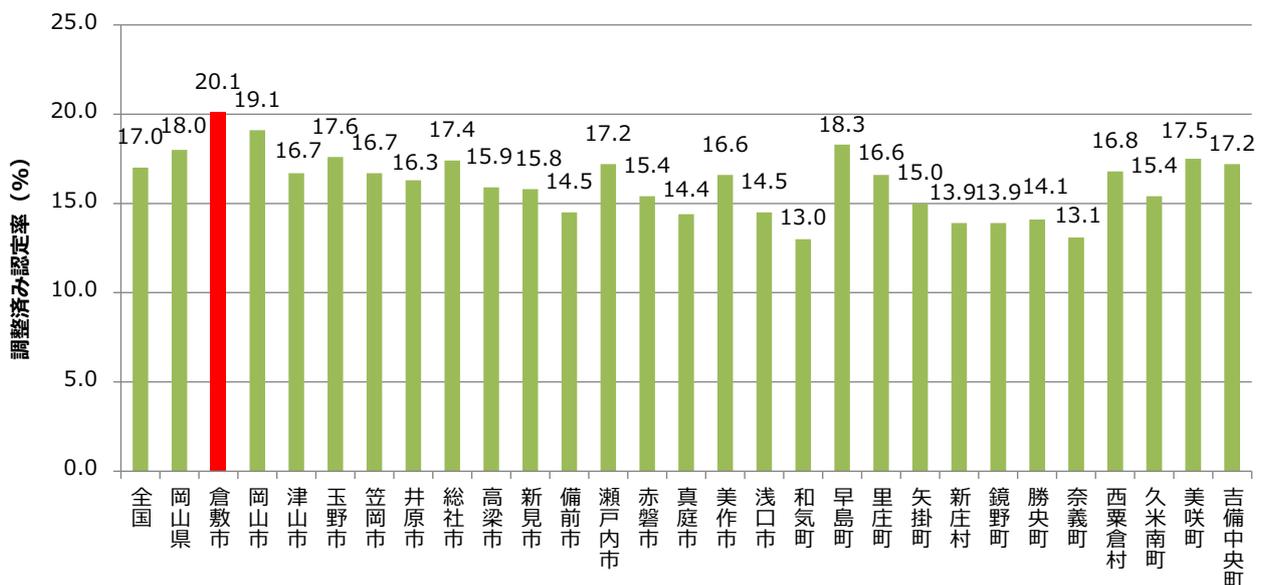


資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年 3 月末時点。

(オ) 調整済み認定率の市町村間比較

令和 2(2020)年 3 月時点の年齢構成の違いを調整した後の認定率(※)は、「倉敷市」が 20.1%で最も高く、次いで「岡山市」19.1%、「早島町」18.3%の順となっています。

(※)調整済み認定率とは、認定率の大小に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢別人口構成」の影響を除外した認定率を意味します。

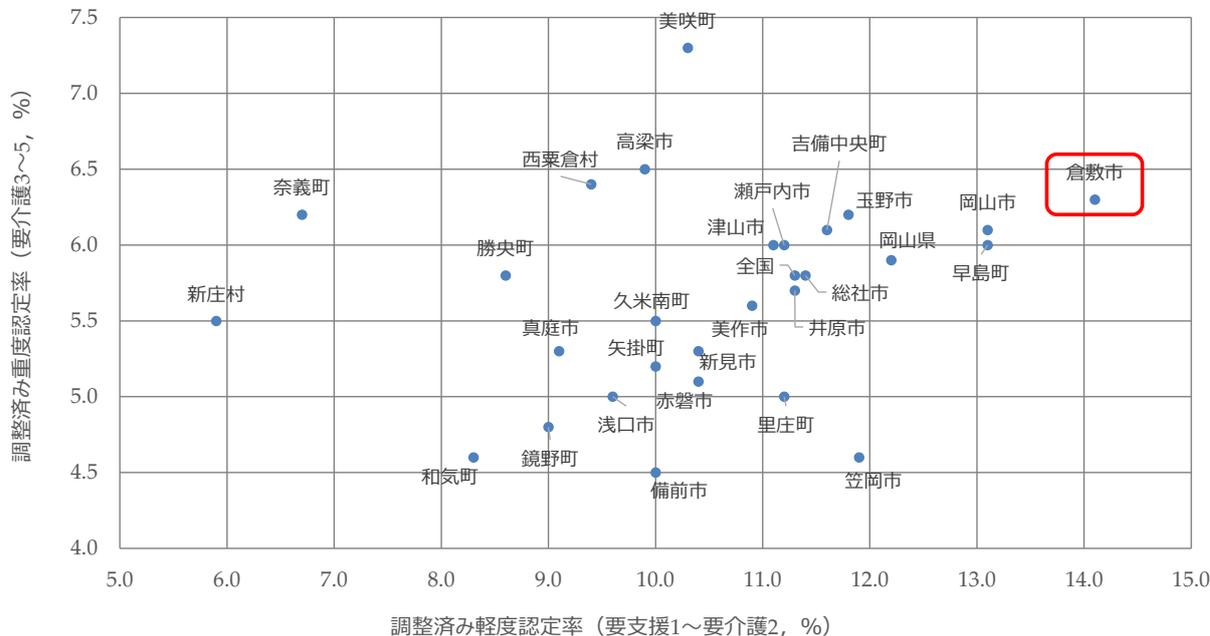


注:令和 2(2020)年 3 月時点。

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

(カ) 調整済み軽度・重度認定率の市町村間比較

調整済み軽度認定率は、「倉敷市」が最も高く、調整済み重度認定率では、倉敷市は4番目となっています。

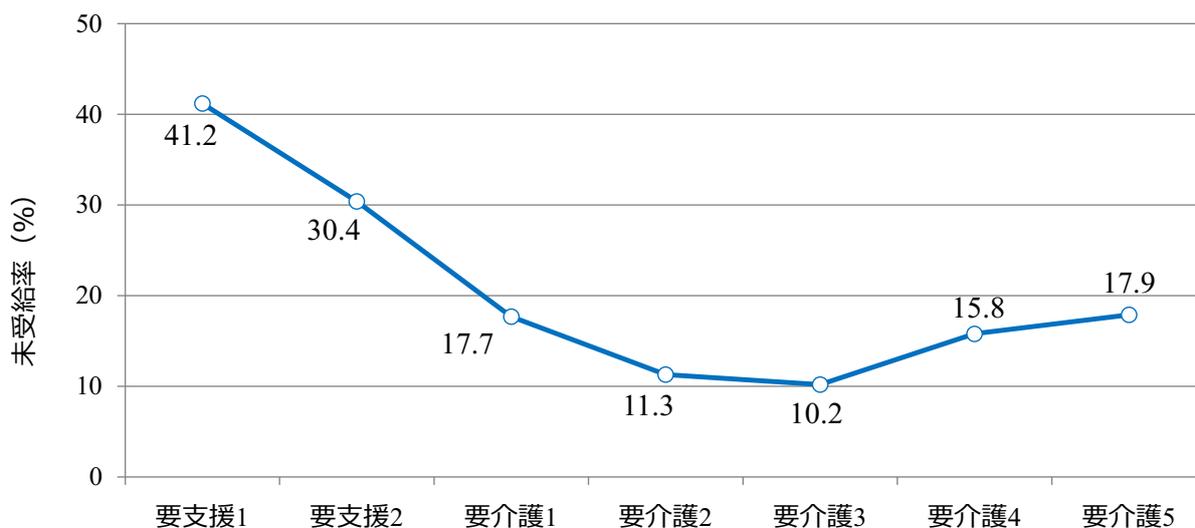


注:平成 31(2019)年 3 月時点。

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

(キ) 要介護度別にみたサービス未受給率

令和元(2019)年 9 月の介護サービス未受給率は、「要支援 1」が 41.2%と最も高く、次いで「要支援 2」30.4%、「要介護 5」17.9%の順となっています。

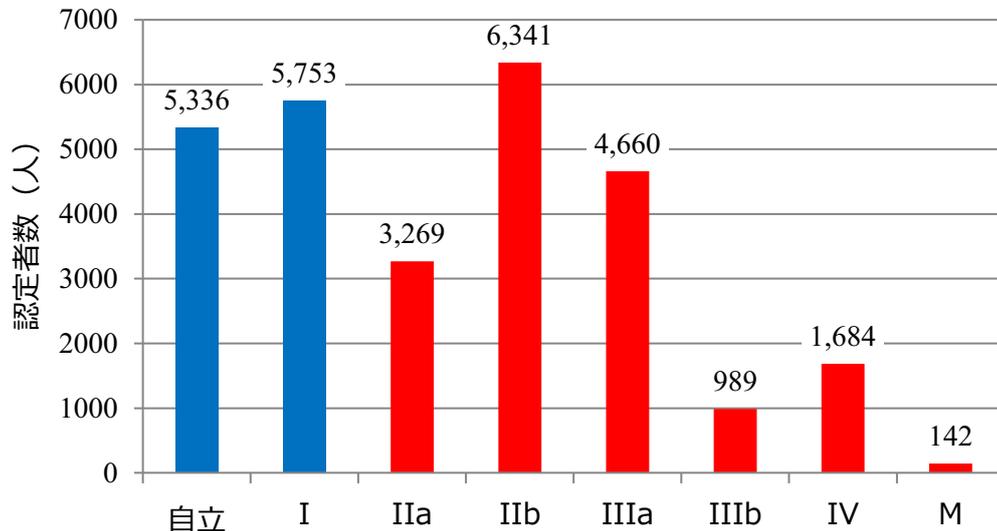


資料: 要介護認定データ(2019.9), 給付データ(2019.9)をもとに作成

## (6) 認知症高齢者の状況

## (ア) 認知症自立度別にみた認定者数（令和元(2019)年9月末時点）

令和元(2019)年9月末時点の認定者数は28,174人で、うち「認知症高齢者の日常生活自立度ランクⅡ以上」の者（認知症者）は17,085人（60.6%）となっています。



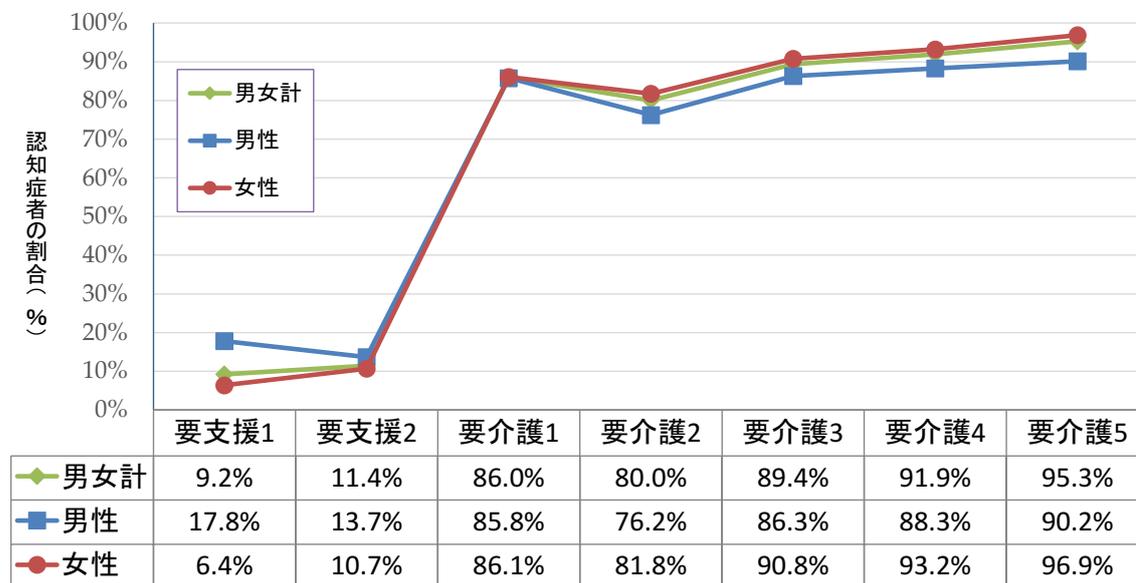
資料：倉敷市要介護認定データ(令和元(2019)年9月)をもとに作成

## 認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
IIa	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
IIb	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
IIIa	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行動等
IIIb	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

(イ) 性別要介護度別にみた認知症者の割合（令和元(2019)年9月末時点）

認知症認定者の割合（総数 60.6%）を要介護度別にみると、「要支援 1-2」では 1割程度にとどまっていますが、要介護では、約 8~9 割が認知症となっています。

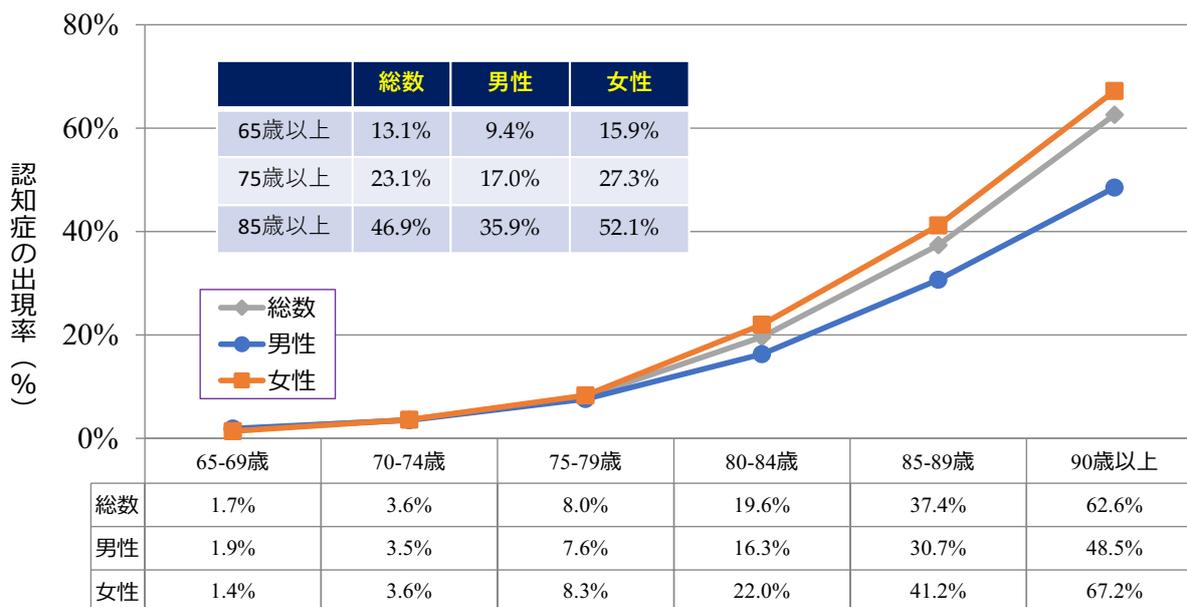


注: 認知症者の割合は、要介護認定者のうち、認知症自立度がⅡ以上の者の割合を指す。

資料: 倉敷市要介護認定データ(令和元(2019)年9月)をもとに作成

(ウ) 性別年齢階層別にみた認知症者の出現率（令和元(2019)年9月末時点）

令和元(2019)年9月末時点の65歳以上の認定者の認知症出現率は13.1%（男性9.4%、女性15.9%）であり、80歳以降で急激に上昇しています。

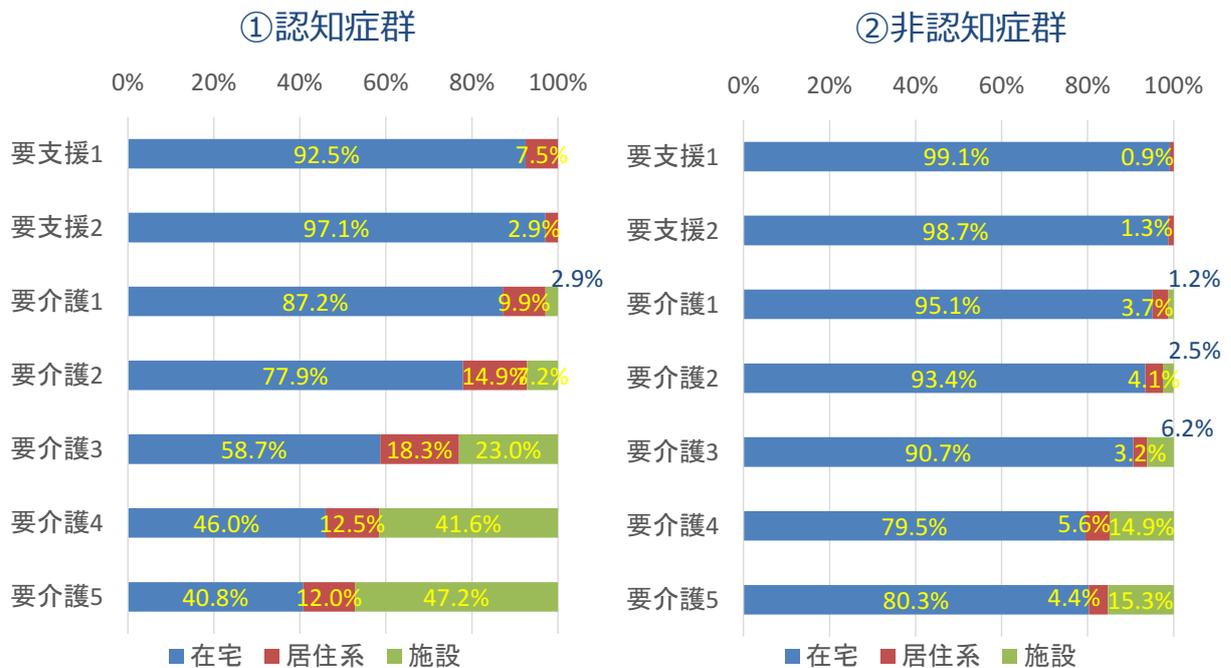


注: 認知症の出現率は、各年齢階層別人口のうち、認定を受けて認知症自立度がⅡ以上であった者の割合を指す。

資料: 倉敷市の人口データ(令和元(2019)年9月)、要介護認定データ(令和元(2019)年9月)をもとに作成

## (工) 認知症群と非認知症群間の特性比較（療養場所）

認知症群（認知症自立度Ⅱ以上）では、要介護度の重度化とともに居住系、施設サービス受給者の比率が高くなり、要介護5では認定者の6割が居住系・施設サービス受給者となっています。一方、非認知症群（認知症自立度Ⅰ以下）では、最も重い要介護5でも施設・居住系受給者は認定者の2割程度にとどまっています。



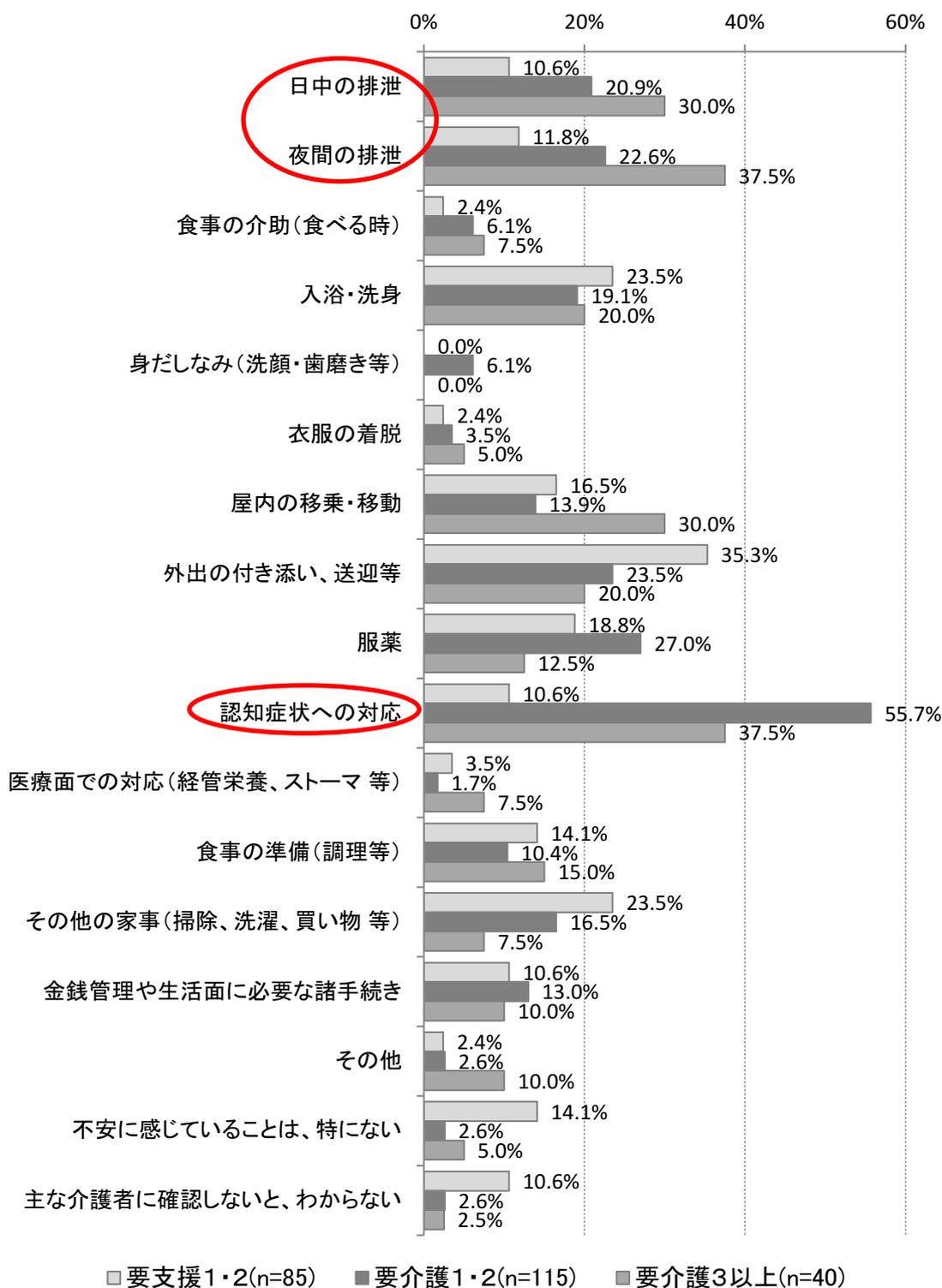
注1：認知症群（認知症自立度Ⅱ以上）は17,051人、非認知症群（認知症自立度Ⅰ以下）は11,087人である。

注2：「在宅」は認定者のうち居住系・施設サービスを利用していないものを指す。

資料：倉敷市要介護認定データ（令和元（2019）年9月）をもとに作成

(オ) 介護者が不安に感じる介護（要介護度別）

介護者が不安に感じる介護については、要介護1・2、要介護3以上の両方で「認知症状への対応」が最も多く、また要介護3以上の介護者では「日中の排泄」「夜間の排泄」も多くあげられています。



資料：倉敷市在宅介護実態調査結果

### 3 高齢者保健福祉サービスの現状

前計画において目標指標として数値を掲げた項目について、計画値と実績値の比較を行いました。

重点施策の目標指標を、令和元(2019)年度について見ると、100%以上（目標を達成したもの）が16件、70%以上100%未満が22件、50%以上70%未満が4件、進捗率50%未満が3件となっています。また、一般施策（個別事業）の目標指標については、100%以上（目標を達成したもの）が7件、70%以上100%未満が13件、50%以上70%未満が1件、進捗率50%未満が1件となっています。

おおむね計画どおり事業が進捗していますが、進捗率が低い事業等については、事業内容や計画値の検証等を行い、今期の計画の掲載に際して、必要な見直し等を行いました。さらに多くの方が事業を利用いただけるように、今後も引き続き、関係機関への周知や広報等による市民への情報提供に努めていきます。

#### ① 重点施策の目標指標

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
通いの場	実施か所数	か所	平成30	520	600	115.4%
			令和元	540	705	130.6%
			令和2	560	700	125.0%
	参加者数	人	平成30	9,360	9,600	102.6%
			令和元	9,720	11,831	121.7%
			令和2	10,080	11,900	118.1%
ふれあいサロン (市が援助する住民主体のサロン)	実施か所数	か所	平成30	250	263	105.2%
			令和元	260	275	105.8%
			令和2	270	280	103.7%
	参加者数	人	平成30	4,500	5,129	114.0%
			令和元	4,700	5,375	114.4%
			令和2	4,900	5,550	113.3%
	週1回以上開催するふれあいサロンの実施か所数	か所	平成30	80	97	121.3%
			令和元	90	105	116.7%
			令和2	100	110	110.0%
自立支援・重度化 予防の取組	短期集中健幸アップ教室への参加者数	人	平成30	180	41	22.8%
			令和元	198	32	16.2%
			令和2	217	25	11.5%
	自立支援に繋がる個別ケア会議での検討事例件数	件	平成30	100	98	98.0%
			令和元	125	124	99.2%
			令和2	150	150	100.0%

(令和2(2020)年度は見込み)

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
高齢者の孤独防止	いきいきポイント登録者数	人	平成30	825	747	90.5%
			令和元	950	735	77.4%
			令和2	1,075	590	54.9%
	身近で相談できる人がいると思っ ている高齢者の割合	%	平成30	83.6	74.1	88.6%
			令和元	84.8	73.3	86.4%
			令和2	86.0	-	-
	高齢者支援センターを知って いる人の割合(ニーズ調査)	%	平成30			
			令和元	80%以上	60.4	75.5%
			令和2			
役割を持って活躍 できる地域づくり	週1回以上スポーツや趣味を 行っている高齢者の割合	%	平成30	65.8	53.3	81.0%
			令和元	67.4	55.1	81.8%
			令和2	69.0	-	-
	自らが社会参加していると思っ ている高齢者の割合	%	平成30	53.0	30.2	57.0%
			令和元	55.0	30.3	55.1%
			令和2	57.0	-	-
	スポーツや趣味を楽しむ等、 生きがいを持って活動してい る高齢者の割合	%	平成30	52.2	40.2	77.0%
			令和元	54.6	42.8	78.4%
			令和2	57.0	-	-
健康状態を「とてもよい」又は「ま あよい」と自覚している人の割合 (ニーズ調査)	%	平成30				
		令和元	80.0	78.1	97.6%	
		令和2				
介護給付の適正化	出前講座の回数	回	平成30	30	13	43.3%
			令和元	36	10	27.8%
			令和2	42	9	21.4%
	認定調査状況チェック	%	平成30	100	100	100.0%
			令和元	100	100	100.0%
			令和2	100	100	100.0%
	認定調査状況チェック	件	平成30	27,000	24,118	89.3%
			令和元	24,000	21,400	89.2%
			令和2	20,000	17,000	85.0%
	ケアプラン点検数	件	平成30	4,300	5,261	122.3%
			令和元	4,400	5,394	122.6%
			令和2	4,500	2,804	62.3%
	住宅改修の点検事前訪問調 査件数	件	平成30	130	93	71.5%
			令和元	130	80	61.5%
			令和2	130	107	82.3%
	住宅改修の点検事前・事後申 請確認	%	平成30	100	100	100.0%
			令和元	100	100	100.0%
			令和2	100	100	100.0%
住宅改修の点検事前・事後申 請確認	件	平成30	2,500	2,371	94.8%	
		令和元	2,500	2,244	89.8%	
		令和2	2,500	2,268	90.7%	

(令和2(2020)年度は見込み)

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
介護給付の適正化	福祉用具購入調査(受付時の審査)	%	平成30	100	100	100.0%
			令和元	100	100	100.0%
			令和2	100	100	100.0%
	福祉用具購入調査(受付時の審査)	件	平成30	2,200	2,335	106.1%
			令和元	2,200	2,137	97.1%
			令和2	2,200	2,206	100.3%
	福祉用具貸与調査(軽度者貸与の確認審査)	%	平成30	100	100	100.0%
			令和元	100	100	100.0%
			令和2	100	100	100.0%
	福祉用具貸与調査(軽度者貸与の確認審査)	件	平成30	1,100	850	77.3%
			令和元	900	992	110.2%
			令和2	700	944	134.9%
	縦覧点検・医療情報との突合・過誤件数(国保連合会委託分)	件	平成30	850	403	47.4%
			令和元	900	525	58.3%
令和2			950	538	56.6%	
介護給付費通知件数	件	平成30	94,000	90,847	96.6%	
		令和元	97,000	92,847	95.7%	
		令和2	100,000	94,588	94.6%	
認知症施策	認知症カフェか所数	か所	平成30	25	17	68.0%
			令和元	25	17	68.0%
			令和2	26	24	92.3%
	認知症サポーター養成講座受講者数	人	平成30	4,000	3,650	91.3%
			令和元	4,100	3,723	90.8%
			令和2	4,200	3,750	89.3%
	認知症サポーター養成講座受講者の内、認知症サポーターキッズ教室参加者数	人	平成30	500	348	69.6%
			令和元	520	598	115.0%
			令和2	540	200	37.0%
	認知症初期集中支援チームの介入により、在宅生活を継続できている者の割合(引継ぎ時の状況において)	%	平成30	75%以上	80.0	106.7%
			令和元	75%以上	72.7	96.9%
			令和2	75%以上	70.0	93.3%
	認知症マイスターとして活動している割合	%	平成30	60%以上	53.1	88.5%
			令和元	63%以上	68.7	109.0%
令和2			66%以上	40.0	60.6%	
認知症に対するイメージの内、認知症が身近に感じられる病気であると答える人の割合(ニーズ調査)	%	平成30				
		令和元	80%以上	79.0	98.8%	
		令和2				
認知症に対する正しい理解を推進し、認知症に対するイメージの内、地域で見守る必要があると答える人の割合(ニーズ調査)	%	平成30				
		令和元	60%以上	63.4	105.7%	
		令和2				

(令和2(2020)年度は見込み)

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
支え合いの体制を強化するための人材養成	老人クラブ会員数	人	平成30	18,850	17,233	91.4%
			令和元	19,100	16,610	87.0%
			令和2	19,400	16,055	82.8%
	シルバー人材センター会員数	人	平成30	1,600	1,478	92.4%
			令和元	1,700	1,529	89.9%
			令和2	1,750	1,597	91.3%
	生活・介護支援サポーター養成講座受講者延数(累計)	人	平成30	378	357	94.4%
			令和元	423	403	95.3%
			令和2	468	449	95.9%
	三世代交流を行うふれあいサロン(市が援助する住民主体のサロン)数	か所	平成30	30	28	93.3%
			令和元	33	33	100.0%
			令和2	36	28	77.8%
在宅医療・介護連携の取組	在宅医療・介護連携推進会議等の開催回数	回	平成30	2	0	0.0%
			令和元	3	1	33.3%
			令和2	3	1	33.3%
	在宅医療・介護連携推進のための連携シートの作成件数	件	平成30	260	-	-
			令和元	300	438	146.0%
			令和2	340	400	117.6%
	在宅医療・介護を支える地域づくりのための市民に向けた啓発事業への参加者数	人	平成30	500	212	42.4%
			令和元	550	481	87.5%
			令和2	600人以上	100	16.7%
	家族に対して、必要な介護サービスが受けられていると思っている人の割合	%	平成30	85.6	78.5	91.7%
			令和元	/	/	/
			令和2	87.6	79.8	91.1%
尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っている人の割合	%	平成30	84.2	81.5	96.8%	
		令和元	/	/	/	
		令和2	87.0	82.4	94.7%	
最期まで自宅で療養が可能と思える人の割合(ニーズ調査)	%	平成30	/	/	/	
		令和元	10%以上	7.0	70.0%	
		令和2	/	/	/	
介護人材確保と介護サービスの質の向上	介護保険事業者等連絡協議会による介護従事者確保事業の研修参加者数	人	平成30	180	92	51.1%
			令和元	190	130	68.4%
			令和2	195	111	56.9%
	訪問看護師確保定着支援事業の参加者数(学生のインターンシップ)	人	平成30	30	29	96.7%
			令和元	30	22	73.3%
			令和2	30	15	50.0%
	訪問看護師実地研修事業の参加者数(未就業看護師)	人	平成30	10	6	60.0%
			令和元	11	8	72.7%
			令和2	12	8	66.7%
	職に対して適切な社会的評価がなされ、やりがいをもって従事できていると思っている介護サービス従事者の割合	%	平成30	50.0	16.7	33.4%
			令和元	/	/	/
			令和2	54.0	20.2	37.4%

(令和2(2020)年度は見込み)

## ② 一般施策（個別事業）の目標指標

施策(個別事業)	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
心の健康づくりの推進	くらしき心ほっとサポーター数	人	平成30	130	123	94.6%
			令和元	130	111	85.4%
			令和2	130	128	98.5%
健康づくりに関する講座(転倒予防・骨粗しょう症)の開催	介護予防事業参加者延人数(高齢者支援センター関連)	人	平成30	17,000	19,789	116.4%
			令和元	18,000	17,086	94.9%
			令和2	19,000	11,000	57.9%
	介護予防事業参加者延人数(倉敷市総合福祉事業団関連)	人	平成30	24,000	22,375	93.2%
			令和元	25,000	21,738	87.0%
			令和2	26,000	6,116	23.5%
経済的負担に対する助成(予防接種の実施)	高齢者インフルエンザの予防接種者数	人	平成30	72,000	73,432	102.0%
			令和元	72,000	77,155	107.2%
			令和2	72,000	75,000	104.2%
老人福祉センター・憩の家の活用	老人福祉センター延利用者数	人	平成30	81,500	76,862	94.3%
			令和元	81,500	79,956	98.1%
			令和2	81,500	39,000	47.9%
	憩の家延利用者数	人	平成30	331,000	328,004	99.1%
			令和元	331,000	329,799	99.6%
			令和2	331,000	230,000	69.5%
多様なふれあいの場への支援(三世代ふれあい交流事業の支援)	三世代ふれあい交流事業参加人数	人	平成30	5,650	5,065	89.6%
			令和元	5,700	5,583	97.9%
			令和2	5,750	2,800	48.7%
各種講座・催しの実施(生きがいデイサービス事業の実施)	生きがいデイサービス事業延受講者数	人	平成30	6,000	4,978	83.0%
			令和元	6,000	5,218	87.0%
			令和2	6,000	2,400	40.0%
各種講座・催しの実施(シルバー作品展の実施)	シルバー作品展出展者数	人	平成30	380	358	94.2%
			令和元	390	323	82.8%
			令和2	400	273	68.3%
地域活動の意欲向上の支援(倉敷マスターズ制度)	倉敷マスター認定者数	人	平成30	10	5	50.0%
			令和元	10	7	70.0%
			令和2	10	6	60.0%
防災対策の推進(高齢者・障がい者世帯を中心とした住宅防火診断)	高齢者世帯の防火査察件数	件	平成30	150	1,755	1170.0%
			令和元	155	2,088	1347.1%
			令和2	160	1,440	900.0%
交通安全対策の推進(高齢者向け交通安全教室の実施)	高齢者向け交通安全教室受講者数	人	平成30	4,000	1,229	30.7%
			令和元	4,000	677	16.9%
			令和2	4,000	150	3.8%
消費者被害の防止(消費者被害防止のための啓発)	広報紙・マスコミ・出前講座等による啓発活動回数(消費生活センター)	回	平成30	70	68	97.1%
			令和元	80	83	103.8%
			令和2	90	40	44.4%
相談窓口の強化・連携の推進(高齢者支援センターでの相談)	高齢者支援センター相談件数	件	平成30	102,000	104,970	102.9%
			令和元	102,500	101,230	98.8%
			令和2	103,000	101,000	98.1%

(令和2(2020)年度は見込み)

施策(個別事業)	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
相談窓口の強化・連携の推進(くらしき健康福祉プラザ一般の初期相談)	保健福祉相談室利用者数	人	平成30	5,500	4,638	84.3%
			令和元	5,500	4,747	86.3%
			令和2	5,500	3,000	54.5%
交通弱者の移動支援(コミュニティタクシー導入の支援)	コミュニティタクシーの導入を行う地区	地区	平成30	9	9	100.0%
			令和元	9	9	100.0%
			令和2	10	9	90.0%
ノンステップバス等を導入する事業者への支援	市内を運行するノンステップバスの台数	台	平成30	20	23	115.0%
			令和元	21	27	128.6%
			令和2	22	27	122.7%
地域による支援体制の構築(高齢者支援センターによる実態把握調査の推進)	高齢者支援センターによる実態把握調査件数	件	平成30	16,500	17,007	103.1%
			令和元	17,000	18,862	111.0%
			令和2	17,500	17,709	101.2%
日常生活の自立支援	日常生活自立支援事業利用者数	人	平成30	85	77	90.6%
			令和元	85	73	85.9%
			令和2	85	66	77.6%
高齢者等の権利擁護(成年後見制度の利用支援)	成年後見人市長申立件数	件	平成30	50	27	54.0%
			令和元	55	30	54.5%
			令和2	60	50	83.3%
	高齢者虐待相談件数	件	平成30	160	139	86.9%
			令和元	160	143	89.4%
			令和2	160	145	90.6%
介護者への支援(家族介護教室の推進)	家族介護教室延参加者数	人	平成30	6,500	7,833	120.5%
			令和元	6,600	7,087	107.4%
			令和2	6,700	4,300	64.2%

(令和2(2020)年度は見込み)

## 4 介護給付等対象サービスの現状

介護給付サービス及び介護予防サービスについて、給付費及び事業量の実績値とそれぞれの計画値を比較しました。

介護保険料算定の基となる介護給付サービス及び介護予防サービスの総給付費は、各年度とも対計画比が9割を超え、ほぼ計画どおりとなっています。

区分	年度	給付費実績（単位:千円）	対計画比
介護給付サービス及び介護予防サービスの総給付費	平成30	35,878,705	98.4%
	令和元	37,052,839	98.7%
	令和2	38,315,609	99.4%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。（令和2(2020)年度は見込み）

### (1) 介護給付サービス

#### ① 居宅サービス

（給付費単位：千円、事業量単位：回、人、日／年）

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
訪問介護(回数)	平成30	1,549,203	93.9%	635,426	93.6%
	令和元	1,543,400	91.1%	621,172	89.1%
	令和2	1,646,133	95.8%	639,672	90.4%
訪問入浴介護(回数)	平成30	93,768	91.5%	7,949	90.5%
	令和元	100,612	94.5%	8,496	93.2%
	令和2	112,280	99.1%	9,372	96.6%
訪問看護(回数)	平成30	843,765	97.3%	201,195	98.5%
	令和元	875,263	96.6%	210,852	98.9%
	令和2	902,300	96.1%	217,181	98.3%
訪問リハビリテーション(回数)	平成30	105,816	115.3%	37,903	117.5%
	令和元	140,223	146.7%	49,872	148.5%
	令和2	158,696	159.7%	56,440	161.7%
居宅療養管理指導(人数)	平成30	291,963	103.8%	28,013	99.6%
	令和元	314,769	103.4%	29,179	95.9%
	令和2	333,471	102.2%	30,612	93.8%
通所介護(回数)	平成30	4,171,141	100.5%	561,334	100.4%
	令和元	4,452,930	104.4%	600,905	104.3%
	令和2	4,652,859	106.9%	618,614	105.0%
通所リハビリテーション(回数)	平成30	2,124,841	88.0%	269,415	89.5%
	令和元	2,142,766	85.0%	275,225	87.8%
	令和2	1,995,135	76.3%	253,187	78.0%
短期入所生活介護(日数)	平成30	1,853,091	104.6%	222,452	103.3%
	令和元	1,879,618	101.0%	223,171	98.8%
	令和2	1,961,821	101.2%	230,576	98.0%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。（令和2(2020)年度は見込み）

(給付費単位:千円, 事業量単位:人, 日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
短期入所療養介護 (日数)	平成30	80,976	74.0%	7,337	73.3%
	令和元	75,718	65.6%	6,663	63.3%
	令和2	83,483	69.8%	6,980	63.9%
特定施設入居者生活介護 (人数)	平成30	2,212,534	97.3%	12,073	97.6%
	令和元	2,311,534	100.0%	12,633	100.2%
	令和2	2,409,897	97.7%	12,780	94.7%
福祉用具貸与(人数)	平成30	1,063,091	98.3%	77,872	97.5%
	令和元	1,100,541	97.3%	81,061	97.3%
	令和2	1,151,097	98.0%	83,592	96.9%
特定福祉用具販売 (人数)	平成30	45,517	82.1%	1,472	80.2%
	令和元	45,535	79.0%	1,392	73.0%
	令和2	50,284	84.1%	1,452	73.3%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による  
数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

## ② 地域密着型サービス

(給付費単位:千円, 事業量単位:回, 人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
地域密着型通所介護 (回数)	平成30	1,182,614	97.7%	155,312	97.4%
	令和元	1,197,819	94.8%	159,423	96.0%
	令和2	1,155,067	88.5%	154,097	89.9%
認知症対応型通所介護 (回数)	平成30	262,478	91.6%	26,579	91.4%
	令和元	269,452	90.2%	27,415	90.6%
	令和2	249,030	80.0%	23,708	75.2%
小規模多機能型居宅介護 (人数)	平成30	1,434,059	106.0%	7,525	105.2%
	令和元	1,593,551	112.9%	8,176	109.9%
	令和2	1,763,915	120.5%	8,832	114.6%
認知症対応型共同生活介 護(人数)	平成30	3,708,248	100.7%	15,123	101.3%
	令和元	3,748,854	100.9%	15,079	100.0%
	令和2	3,821,792	100.8%	15,120	98.3%
地域密着型特定施設入居 者生活介護(人数)	平成30	126,682	109.7%	669	105.2%
	令和元	125,872	106.8%	664	102.5%
	令和2	135,673	110.0%	684	101.8%
地域密着型介護老人福祉 施設入所者生活介護(人 数)	平成30	1,131,868	84.1%	4,126	80.5%
	令和元	1,308,618	90.9%	4,755	86.9%
	令和2	1,505,785	104.6%	5,256	96.1%
定期巡回・随時対応型訪 問介護看護(人数)	平成30	55,664	84.6%	402	76.1%
	令和元	66,862	75.6%	450	63.6%
	令和2	68,045	60.2%	432	48.0%
看護小規模多機能型居宅 介護(人数)	平成30	199,019	99.4%	688	89.6%
	令和元	229,736	60.3%	790	54.4%
	令和2	365,903	92.0%	1,248	82.5%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による  
数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

## ③ 施設サービス

(給付費単位:千円, 事業量単位:人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護老人福祉施設(人数)	平成30	4,785,199	99.3%	19,099	98.9%
	令和元	4,922,929	102.1%	19,076	98.7%
	令和2	5,085,119	105.5%	19,200	99.4%
介護老人保健施設(人数)	平成30	4,517,869	99.8%	16,371	95.7%
	令和元	4,487,016	99.0%	15,955	93.2%
	令和2	4,552,503	100.5%	15,768	92.1%
介護療養型医療施設(人数)	平成30	800,095	102.4%	2,263	103.1%
	令和元	683,178	87.4%	1,869	85.1%
	令和2	542,880	165.1%	1,488	161.0%
介護医療院(人数)	平成30	75,431	皆増	205	皆増
	令和元	142,557	皆増	411	皆増
	令和2	244,539	42.1%	780	47.8%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

## ④ その他

(給付費単位:千円, 事業量単位:人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
住宅改修(人数)	平成30	104,744	88.3%	1,293	89.8%
	令和元	99,893	80.8%	1,219	81.3%
	令和2	109,815	86.1%	1,284	82.9%
居宅介護支援(人数)	平成30	1,663,392	96.7%	117,943	95.5%
	令和元	1,706,697	95.2%	120,756	94.0%
	令和2	1,729,299	93.3%	121,380	91.4%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

## (2) 予防給付サービス

介護予防訪問介護と介護予防通所介護については、介護予防・日常生活支援総合事業に完全移行しているため、計画値は計上していませんでしたが、月遅れ請求や、請求誤りの処理等の影響で、実績値が生じています。

## ① 居宅サービス

(給付費単位:千円, 事業量単位:回, 人, 日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護予防訪問介護(人数)	平成30	19	-	9	-
	令和元	-15	-	0	-
	令和2	0	-	0	-
介護予防訪問入浴介護(回数)	平成30	1,066	皆増	133	皆増
	令和元	811	皆増	100	皆増
	令和2	0	-	0	-
介護予防訪問看護(回数)	平成30	120,532	100.0%	34,486	104.3%
	令和元	128,226	103.1%	36,420	106.8%
	令和2	157,201	122.8%	44,455	126.7%

(給付費単位:千円, 事業量単位:回, 人, 日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護予防訪問リハビリテーション(回数)	平成30	20,978	104.5%	7,620	105.8%
	令和元	26,548	127.7%	9,284	124.5%
	令和2	28,334	133.7%	9,835	129.4%
介護予防居宅療養管理指導(人数)	平成30	17,124	113.5%	1,826	109.5%
	令和元	20,367	127.4%	2,089	118.4%
	令和2	20,550	128.3%	2,076	117.7%
介護予防通所介護(回数)	平成30	118	-	6	-
	令和元	0	-	0	-
	令和2	0	-	0	-
介護予防通所リハビリテーション(人数)	平成30	449,246	91.8%	13,722	100.9%
	令和元	472,442	93.7%	14,339	102.4%
	令和2	452,795	87.2%	13,608	94.4%
介護予防短期入所生活介護(日数)	平成30	18,938	89.7%	3,290	96.5%
	令和元	16,225	74.8%	2,649	75.8%
	令和2	11,789	53.0%	1,807	50.5%
介護予防短期入所療養介護(日数)	平成30	750	20.4%	86	20.5%
	令和元	561	12.7%	64	12.7%
	令和2	0	0.0%	0	0.0%
介護予防特定施設入居者生活介護(人数)	平成30	134,700	130.4%	1,752	132.7%
	令和元	145,654	139.2%	1,896	141.1%
	令和2	154,566	146.5%	1,956	143.0%
介護予防福祉用具貸与(人数)	平成30	234,341	104.7%	32,624	102.3%
	令和元	260,084	112.8%	35,871	109.3%
	令和2	286,618	120.8%	38,652	114.4%
特定介護予防福祉用具販売(人数)	平成30	21,276	113.6%	863	109.0%
	令和元	18,824	97.5%	745	91.3%
	令和2	18,296	92.1%	744	88.6%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

② 地域密着型サービス

(給付費単位:千円, 事業量単位:回, 人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護予防認知症対応型通所介護(回数)	平成30	774	31.3%	114	37.3%
	令和元	588	19.8%	79	21.5%
	令和2	1,114	37.5%	166	45.2%
介護予防小規模多機能型居宅介護(人数)	平成30	74,313	107.0%	1,089	103.1%
	令和元	83,239	117.3%	1,169	108.2%
	令和2	94,086	128.2%	1,308	117.2%
介護予防認知症対応型共同生活介護(人数)	平成30	16,909	101.9%	73	101.4%
	令和元	17,743	106.9%	80	111.1%
	令和2	8,503	51.2%	36	50.0%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

## ③ その他

(給付費単位:千円, 事業量単位:人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
住宅改修(人数)	平成30	91,943	90.7%	1,078	91.7%
	令和元	89,689	85.8%	1,025	84.6%
	令和2	77,777	72.3%	1,008	80.8%
介護予防支援(人数)	平成30	192,607	118.2%	43,466	118.6%
	令和元	205,908	122.7%	46,701	123.8%
	令和2	217,158	125.7%	49,164	126.6%

※地域包括ケア「見える化」システムの「介護保険事業状況報告」に基づく将来推計機能による数値から算出したもの。(令和2(2020)年度は見込み)

## (3) 介護予防・日常生活支援総合事業

(給付費単位:千円, 事業量単位:回, 人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
訪問型サービス (総合事業訪問介護)	平成30	290,845	88.3%	16,264	89.5%
	令和元	284,710	82.6%	15,708	82.6%
	令和2	280,187	77.7%	15,228	76.6%
通所型サービス (総合事業通所介護)	平成30	795,978	95.5%	28,871	96.4%
	令和元	855,213	98.1%	30,505	97.4%
	令和2	920,990	101.0%	32,292	98.6%
通所型短期集中予防 サービス	平成30	2,456	11.8%	712	11.4%
	令和元	1,863	9.0%	523	8.4%
	令和2	1,504	7.3%	600	9.6%
介護予防ケアマネジメント	平成30	106,778	88.5%	24,270	88.4%
	令和元	103,952	82.4%	23,595	82.1%
	令和2	101,200	76.7%	22,970	76.4%

(令和2(2020)年度は見込み)

## (4) 地域支援事業

(給付費単位:千円)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比
介護予防・日常生活支援 総合事業費	平成30	1,375,317	91.2%
	令和元	1,440,038	90.9%
	令和2	1,512,956	90.9%
包括的支援事業費	平成30	438,530	97.0%
	令和元	440,669	97.2%
	令和2	477,476	105.0%
任意事業費	平成30	197,756	95.8%
	令和元	210,991	102.2%
	令和2	228,909	110.9%

(令和2(2020)年度は見込み)

(3) 介護給付等の主な指標

(ア) 介護保険事業所数推移（過去3年）

本市内の介護保険指定事業所数の各年度の4月1日現在の推移は以下のとおりです。

(単位:事業所,人)

	サービス種別	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)
施設・居住系サービス	介護老人福祉施設	24(1,610)	24(1,665)	24(1,665)	24(1,665)
	地域密着型介護老人福祉施設	13(352)	14(381)	16(439)	17(468)
	介護老人保健施設	17(1,437)	16(1,406)	15(1,350)	15(1,350)
	介護療養型医療施設	3(221)	2(202)	2(202)	1(96)
	介護医療院	0(0)	1(31)	1(31)	3(156)
	認知症対応型共同生活介護	76(1,299)	77(1,326)	77(1,326)	78(1,344)
	特定施設入居者生活介護	32(1,793)	33(1,849)	34(1,863)	35(1,908)
	地域密着型特定施設入居者生活介護	2(58)	2(58)	2(58)	2(58)
	合計	167(6,770)	169(6,918)	171(6,934)	175(7,045)

※施設・居住系サービスの( )内は定員数。

※R3(2021)年度は第7期計画による施設整備中の開設予定分を含む。

	サービス種別	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)
在宅サービス	短期入所生活介護	49	49	51
	短期入所療養介護	18	18	16
	訪問介護	104	103	103
	訪問入浴介護	6	6	6
	訪問看護	33	35	35
	訪問リハビリテーション	5	5	5
	居宅療養管理指導	9	9	6
	通所介護	92	94	97
	地域密着型通所介護	63	65	68
	通所リハビリテーション	42	42	38
	認知症対応型通所介護	15	15	13
	特定福祉用具販売	25	23	23
	福祉用具貸与	23	22	22
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	2	2
	小規模多機能型居宅介護	33	36	36
	看護小規模多機能型居宅介護	2	2	3
	居宅介護支援	116	114	114
介護予防支援	25	25	25	
	合計	662	665	663

(参考) 高齢者向け住まい

区 分	H30(2018)	R 元(2019)	R2(2020)	備考
有料老人ホーム(※サービス付き高齢者向け住宅を除く。)	56(2,222)	55(2,283)	56(2,340)	( )内は定員 ※ただしサービス 付き高齢者向け 住宅は戸数を記載
サービス付き高齢者向け住宅	22(690)	24(727)	27(784)	
養護老人ホーム	2(180)	2(180)	2(180)	
軽費老人ホーム	11(521)	11(521)	11(521)	

※各年度4月1日現在

※サービス付き高齢者向け住宅は基本的に有料老人ホームに該当するが、上記のうち3件(34戸)は有料老人ホームに該当しないサービス付き高齢者向け住宅である。

## (イ) 施設・居住系・在宅の状況について(全国・県との比較)

令和2(2020)年3月の介護サービス受給率(=受給者数/第1号被保険者数)を全国平均と比べると、本市は特に居住系、在宅サービスが充実していることがわかります。

(単位:%)

項目名	全国	岡山県	倉敷市
施設サービス	2.9	3.3	2.6
居住系サービス	1.3	1.8	1.9
在宅サービス	9.8	10.7	11.3

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

※施設サービスとは、以下のサービスを意味します。

介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院

※居住系サービスとは、以下のサービスを意味します。

特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護

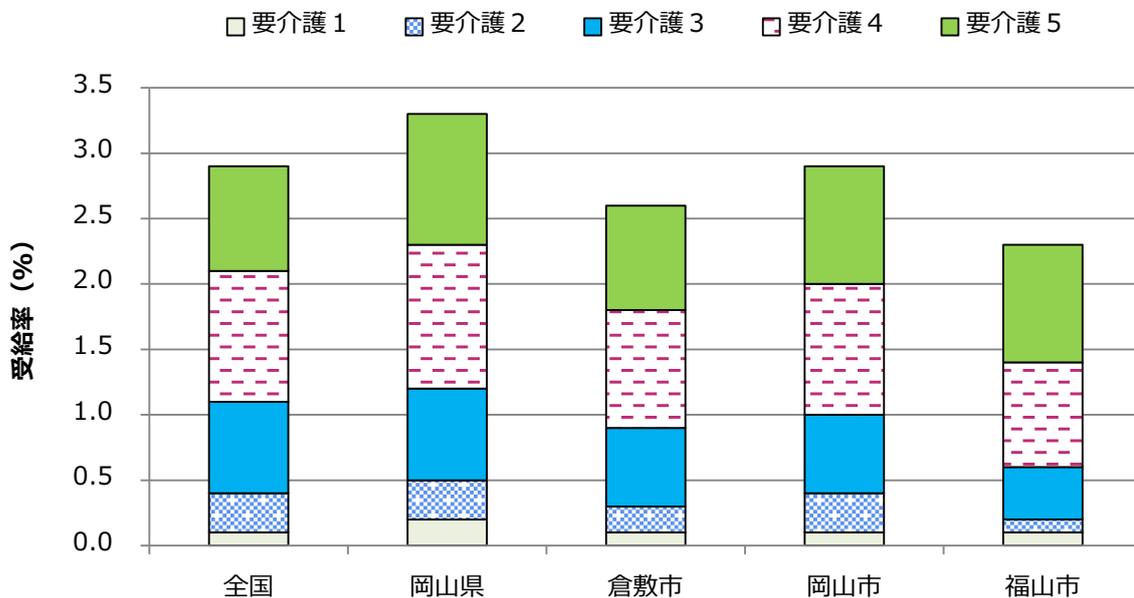
※在宅サービスとは、以下のサービスを意味します。

訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護(介護老人保健施設)、短期入所療養介護(介護療養型医療施設等)、福祉用具貸与、福祉用具購入費、住宅改修費、介護予防支援・居宅介護支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、地域密着型通所介護

(なお、利用者を重複してカウントすることを防ぐため、介護予防支援・居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護の3サービスの受給者総数の総計を概数として利用します。)

(ウ) 受給率（施設サービス）（要介護度別）

施設サービスの受給率をみると、全国、岡山県の平均や岡山市を下回る一方、福山市を上回っています。

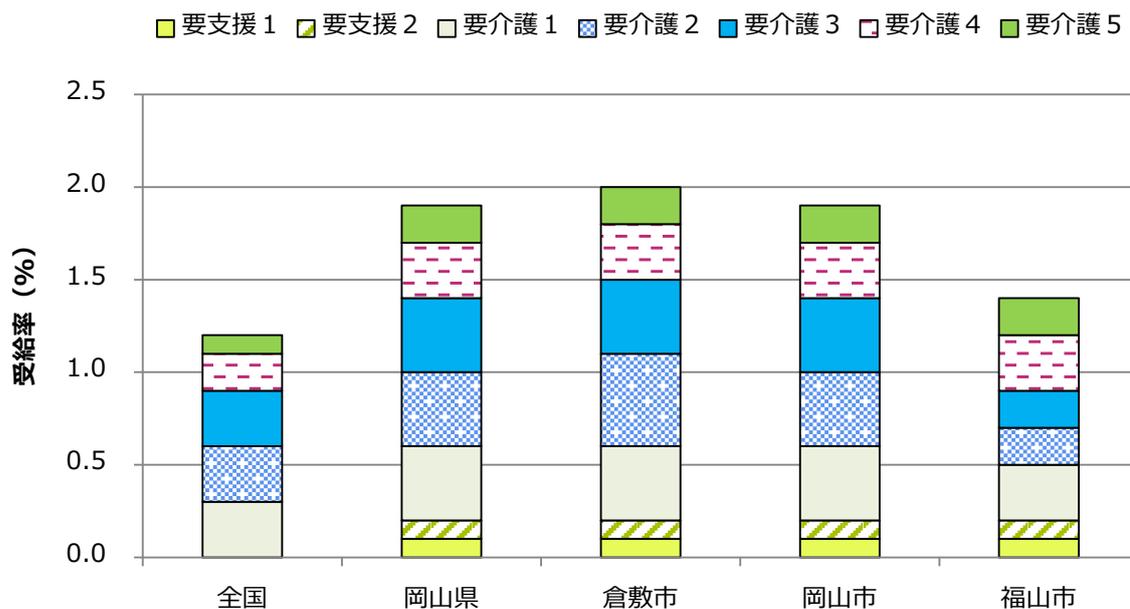


注：令和2(2020)年3月末時点。

資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

(エ) 受給率（居住系サービス）（要介護度別）

居住系サービスの受給率をみると、全国及び岡山県の平均や岡山市、福山市を上回っています。

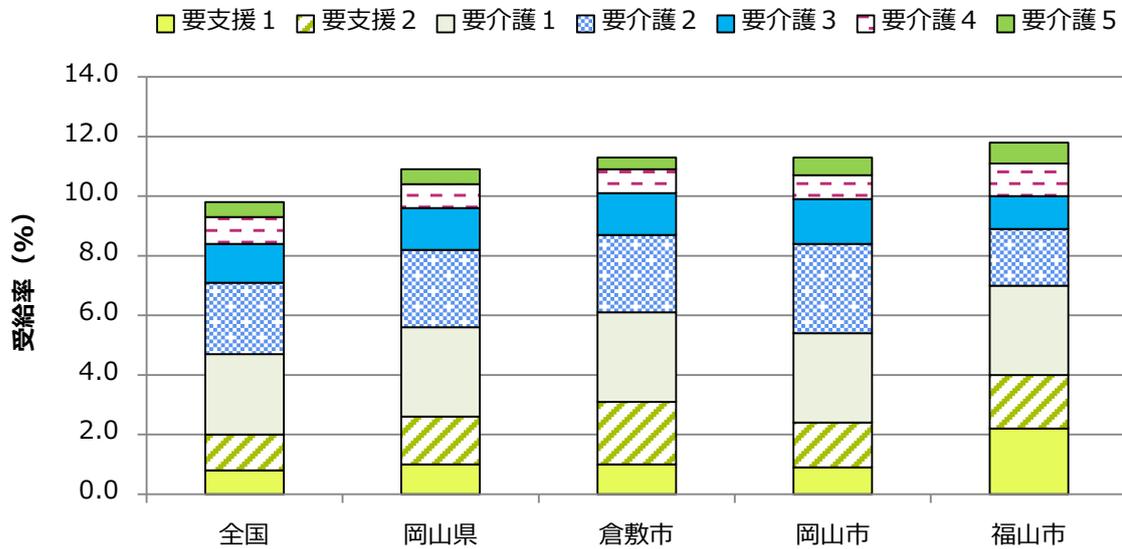


注：令和2(2020)年3月末時点。

資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

(オ) 受給率（在宅サービス）（要介護度別）

在宅サービスの受給率をみると、岡山市とほぼ同水準で、福山市を下回っていますが、全国及び岡山県の平均を上回っています。

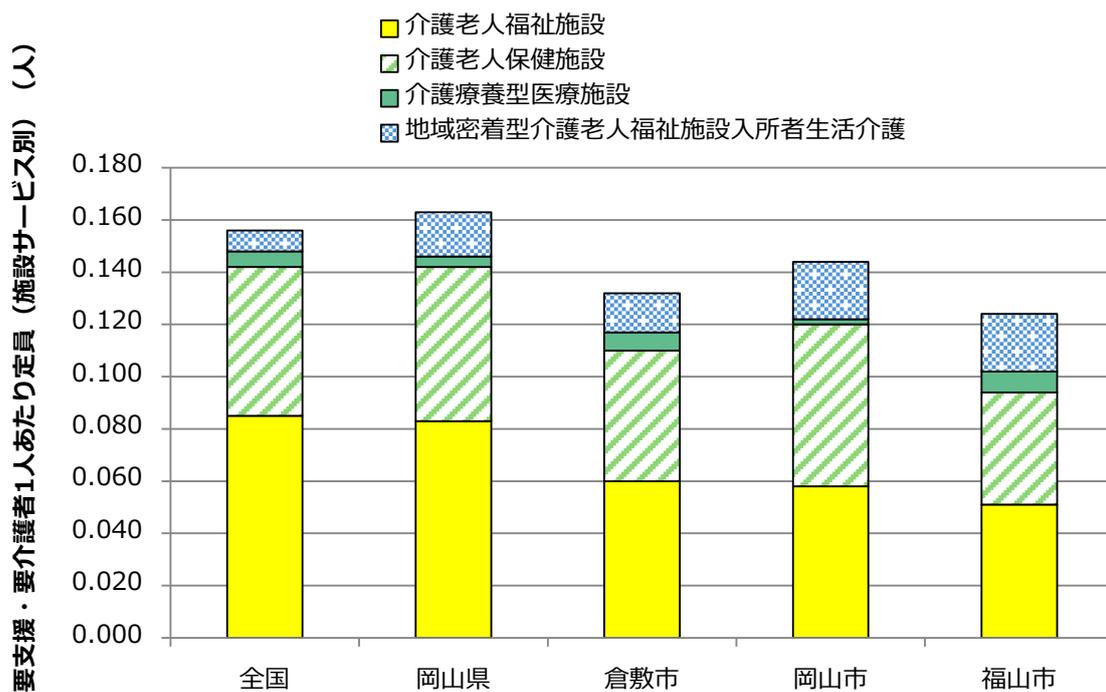


注：令和2(2020)年3月末時点。

資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

(カ) 要支援・要介護者1人あたり定員（施設サービス別）

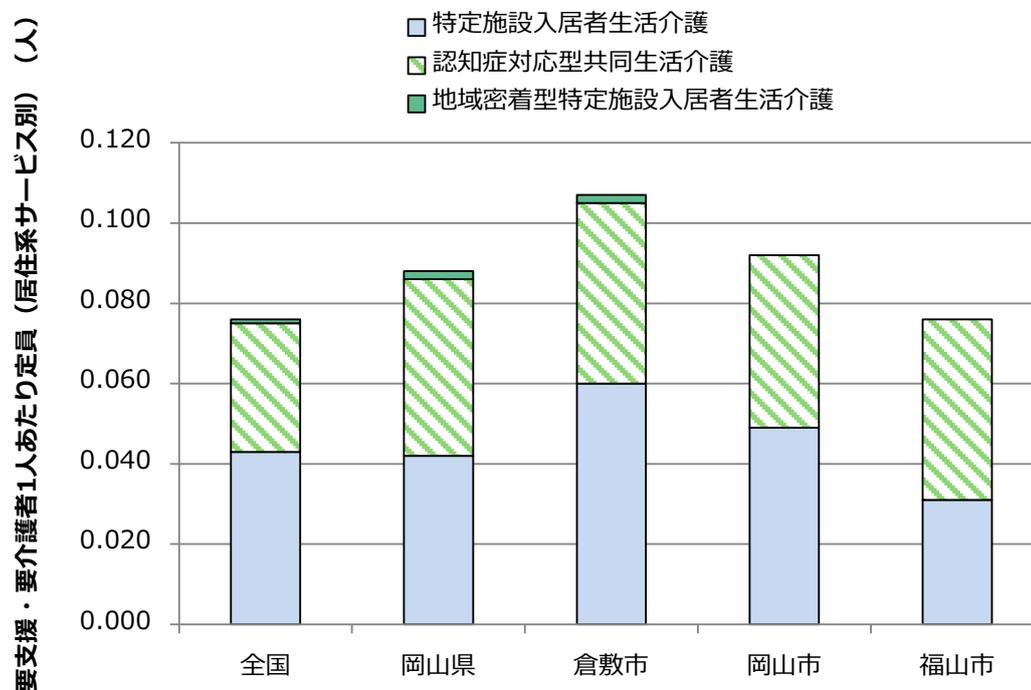
要支援・要介護者1人あたりの施設サービスの定員をみると、本市では、全国、岡山県の平均や岡山市を下回る一方、福山市を上回る水準になっています。



注：令和元(2019)年時点。資料：介護サービス情報公表システム及び厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

(キ) 要支援・要介護者1人あたり定員（居住系サービス別）

要支援・要介護者1人あたりの居住系サービスの定員をみると、本市では、全国及び岡山県の平均や岡山市、福山市を大きく上回っていることがわかります。



注：令和元(2019)年時点。資料：介護サービス情報公表システム及び厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

## (ク) 特別養護老人ホーム入所申込者等の状況

特別養護老人ホーム入所申込者等の状況は、以下のとおりです。

## 1 入所申込者数（入所施設別）

(単位:人)

入所申込者		平成29年6月1日	平成30年6月1日	平成31年4月1日
		実人数	実人数	実人数
		2,354	2,224	2,074
現在の入所施設内訳	在宅その他	1,326	1,268	1,214
	老人保健施設	478	455	420
	介護療養型医療施設 (介護医療院)	77	69	53
	特定施設	188	163	135
	グループホーム	285	269	252

備考1)入所申込者数は、倉敷市の被保険者の数であって重複申込を除く実人数。

2)在宅その他は、在宅のほか医療機関に入院中の人数を含む。

## 2 施設数・定員・入所者数

(単位:人)

区 分	平成29年6月1日	平成30年6月1日	平成31年4月1日
施 設 数	35施設	37施設	38施設
定 員	1,904	1,992	2,046
入 所 者 数	1,879	1,954	1,990

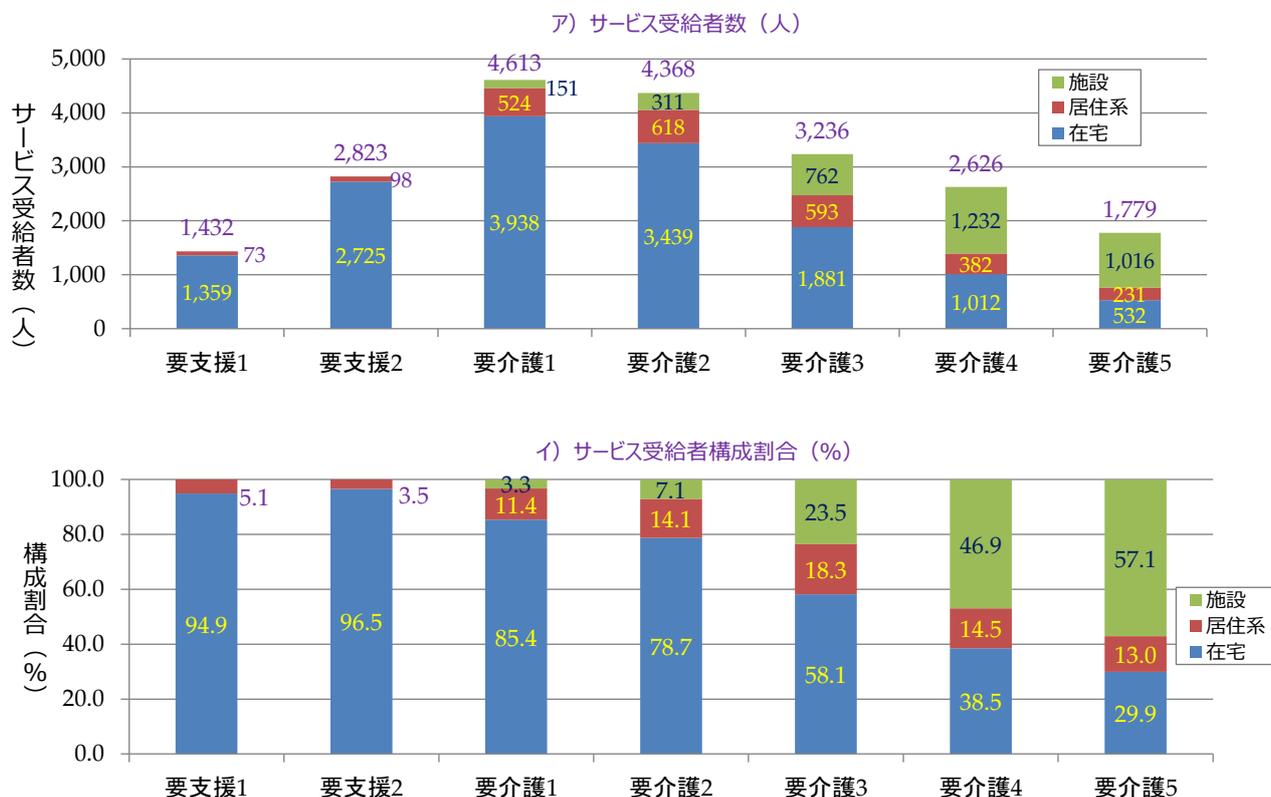
## 3 要介護3～5の入所申込者数

(単位:人)

区 分		平成29年6月1日	平成30年6月1日	平成31年4月1日
		実人数	実人数	実人数
要介護3～5		1,768	1,736	1,674
(内)在宅		698	678	594

(ケ) 要介護度別にみた種類別サービス受給者数及び構成割合

サービス受給者数を要介護度別にみると、要介護1が4,613人と最も多くなっています。また、要介護度が高くなるにつれて、施設サービス受給者の割合が高くなっており、要介護5では57.1%を占めています。

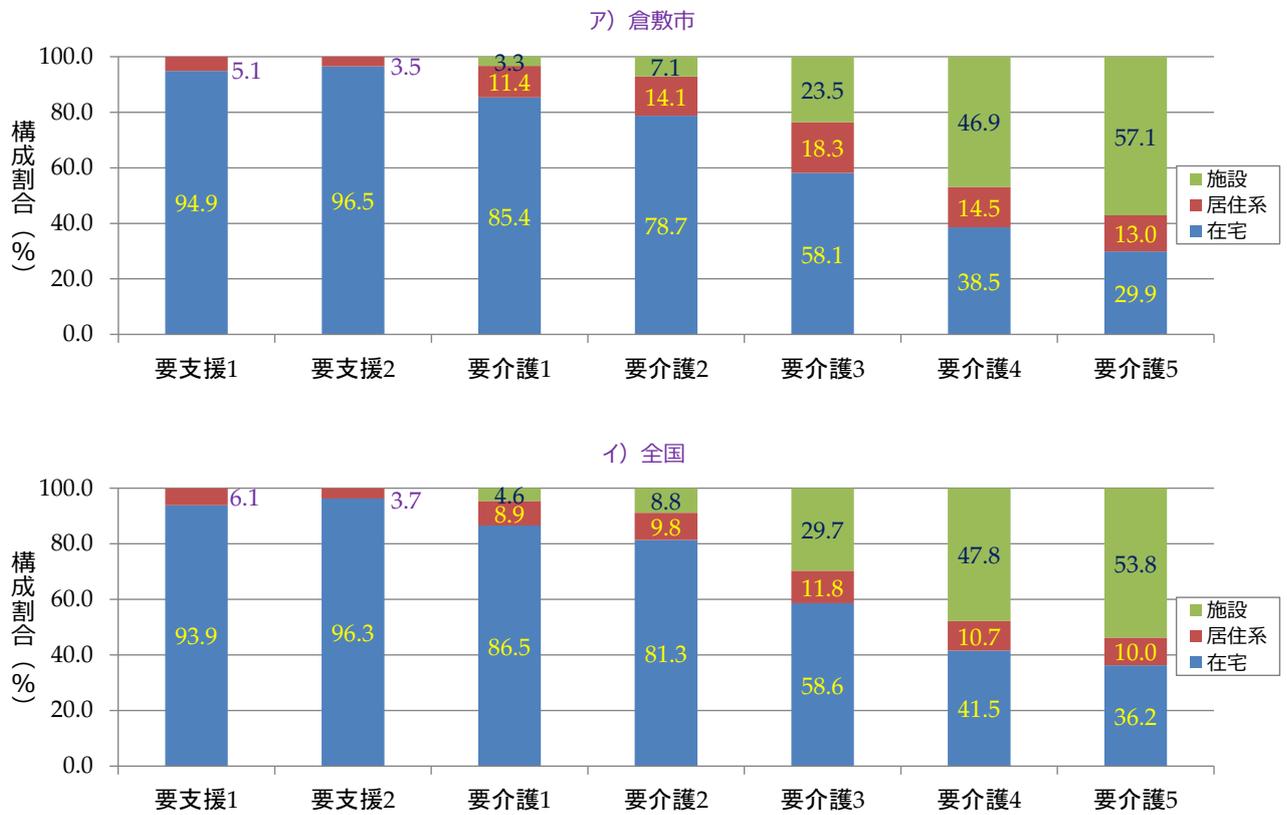


注: 令和2(2020)年2月末時点。認定者には第2号の認定者を含んでいる。

資料: 厚生労働省: 地域包括ケア「見える化」システム

(コ) 要介護度別にみた種別サービス受給者構成割合の比較

本市の要介護度別種別サービス受給者構成割合を全国平均と比較すると、要介護1～5のすべてで居住系サービスの割合が高くなっています。



注：令和 2(2020)年 2 月末時点。認定者には第 2 号の認定者を含んでいる。

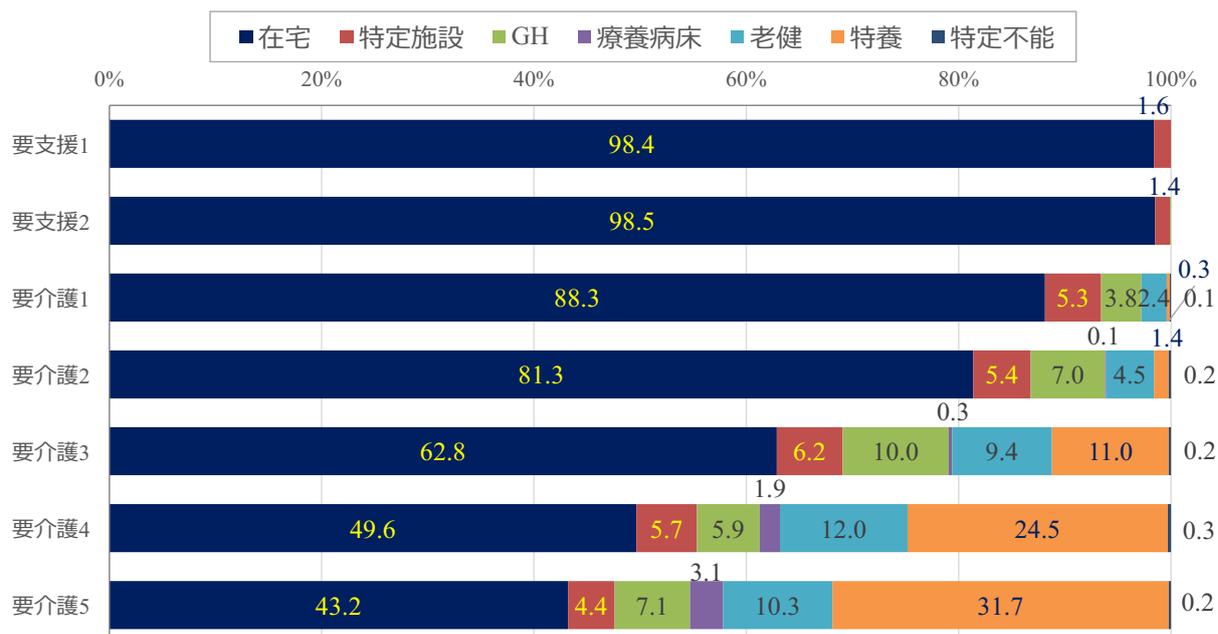
資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

(サ) 要介護度別にみた療養場所の構成割合

要介護度別に療養場所の構成割合をみると、在宅の割合は要介護度が高くなるにつれて低くなっており、要介護4でほぼ半数になっています。

また、特別養護老人ホームの構成割合は要介護3以上で高くなっており、要介護度が高くなるにつれて割合が高くなっています。

グループホームの構成割合が最も高いのは要介護3となっています。

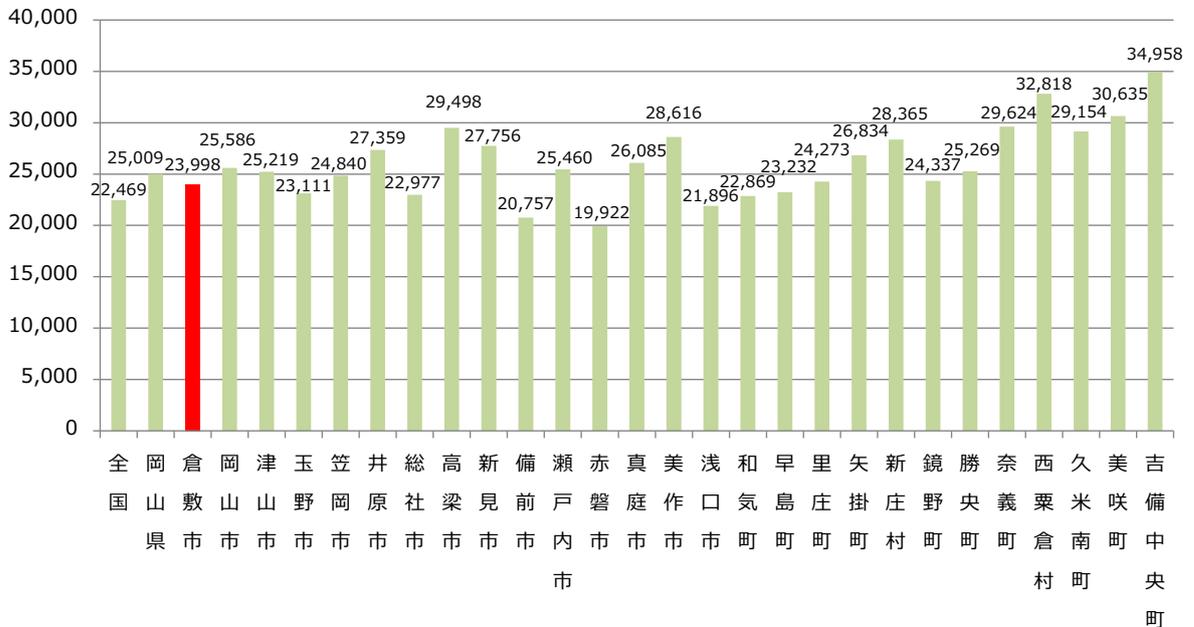


資料：倉敷市要介護認定データ（令和元(2019)年9月），給付データ（令和元(2019)年9月）をもとに作成。

なお、サービス未利用者は在宅に含んでいる。特定不能は同一月内に複数の療養場所が確認された者。

(シ) 第1号被保険者1人あたり給付月額

令和2(2020)年3月末時点の第1号被保険者1人あたり保険給付月額をみると、「吉備中央町」が34,958円と最も高く、次いで「西粟倉村」32,818円、「美咲町」30,635円と続いており、本市は高い方から20番目の23,998円となっています。

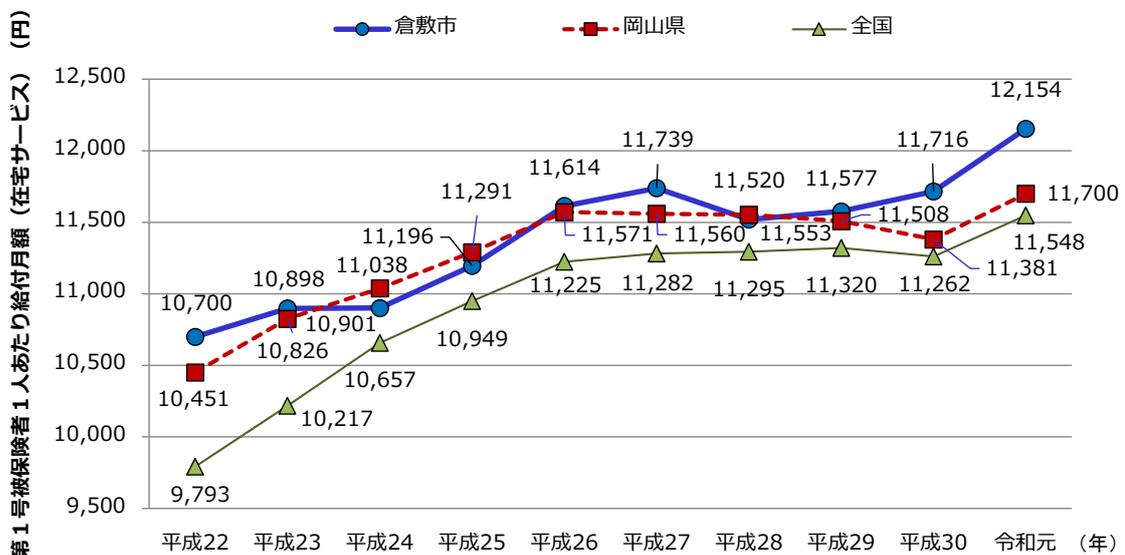


注: 令和2(2020)年3月末時点。

資料: 厚生労働省: 地域包括ケア「見える化」システム

(ス) 第1号被保険者1人あたり給付月額の推移 (在宅サービス)

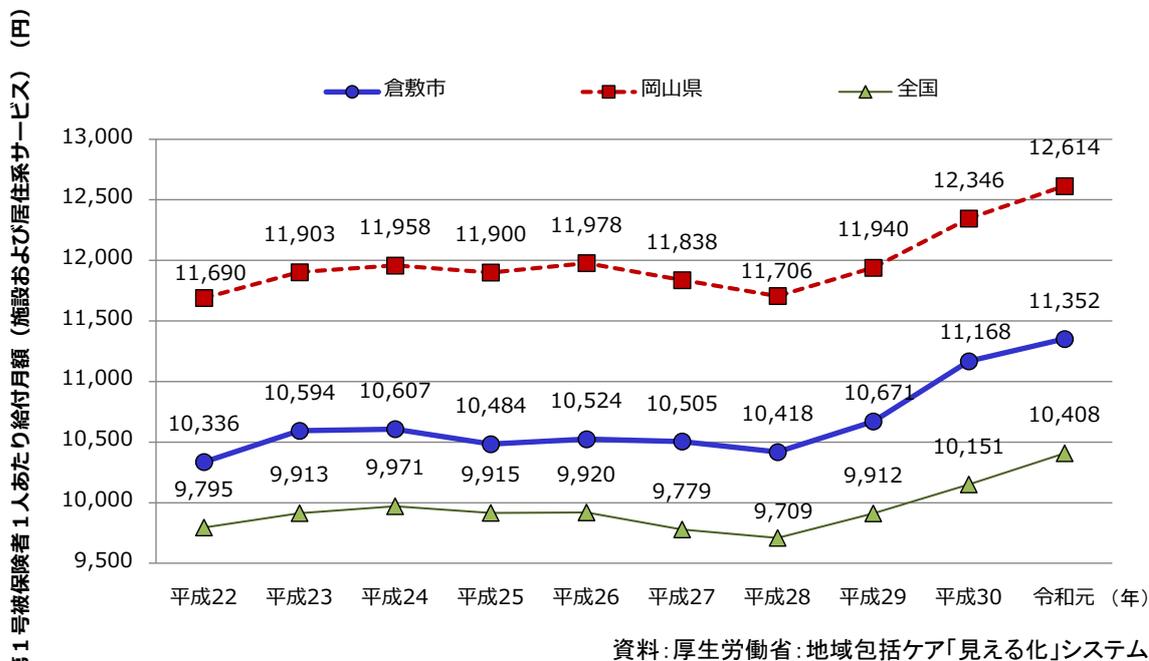
本市の給付月額は、平成28(2016)年3月の介護予防・日常生活支援総合事業への移行の影響があるものの、それ以降は年々増加しており、令和元(2019)年の第1号被保険者1人あたりの在宅サービス給付月額は12,154円となっています(全国: 11,548円, 岡山県: 11,700円)。



資料: 厚生労働省: 地域包括ケア「見える化」システム

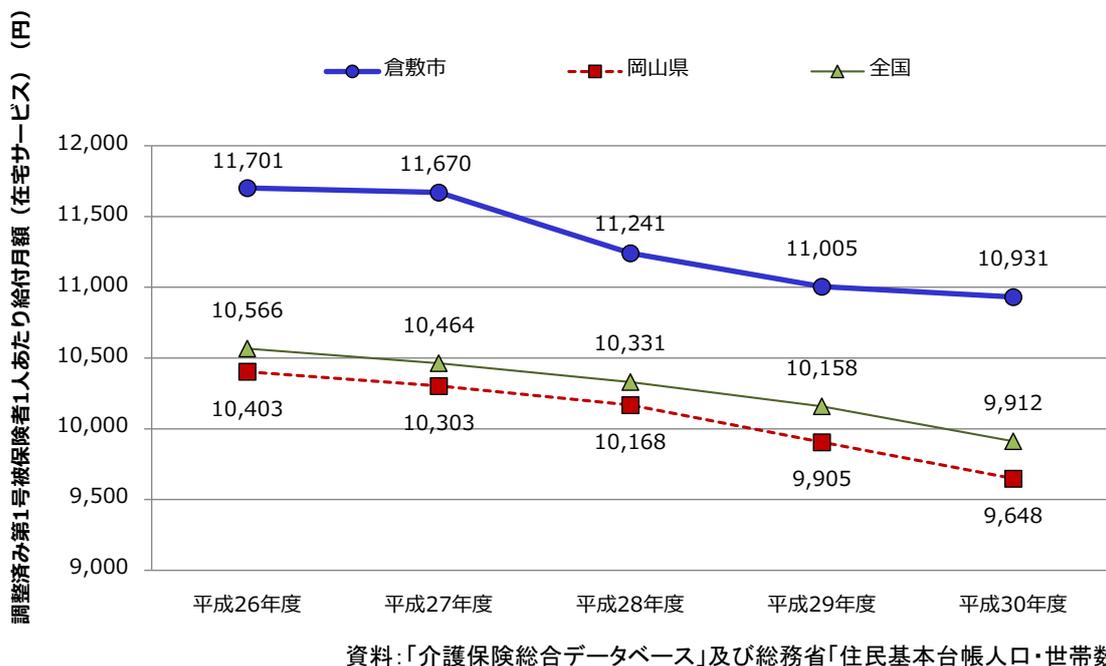
(セ) 第1号被保険者1人あたり給付月額推移（施設・居住系サービス）

本市の第1号被保険者1人あたりの施設・居住系サービス給付月額は、全国や岡山県の平均と同様、平成28(2016)年以降増加傾向となっており、令和元(2019)年時点では11,352円となっています（全国：10,408円、岡山県：12,614円）。



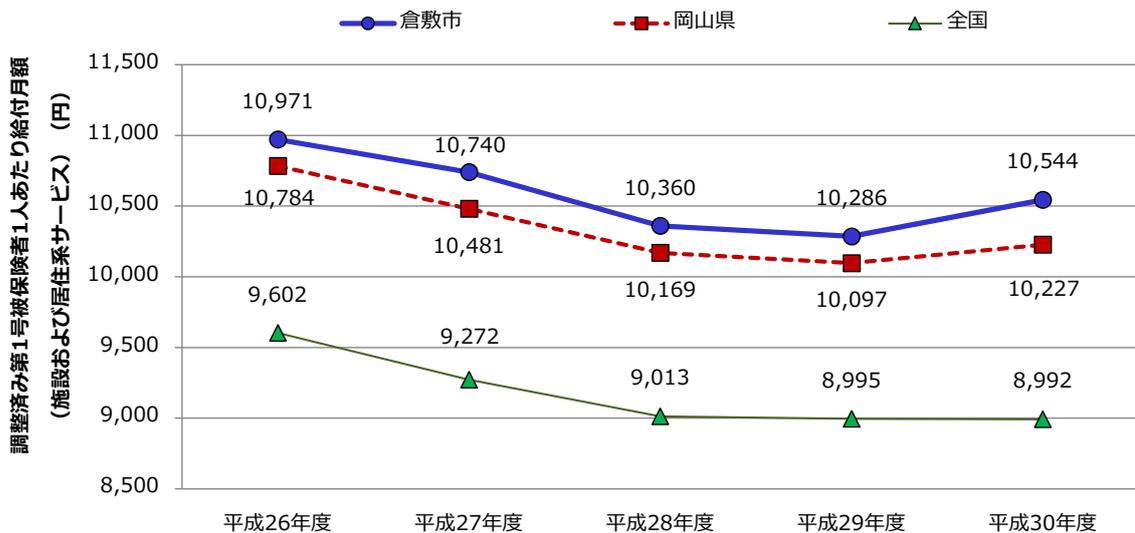
(ソ) 調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額推移（在宅サービス）

本市の調整済み第1号被保険者1人あたり在宅サービス給付月額は、全国や岡山県の平均と同様、平成26(2014)年度以降減少傾向にあり、平成30(2018)年度は10,931円となっています（全国：9,912円、岡山県：9,648円）。



## (タ) 調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額推移（施設・居住系サービス）

本市の調整済み第1号被保険者1人あたり施設・居住系サービス給付月額は、全国や岡山県の平均より高い水準で推移しており、平成27(2015)年度以降は減少傾向にありましたが、平成30(2018)年度はやや増加に転じ、10,544円となっています（全国：8,992円、岡山県：10,227円）。

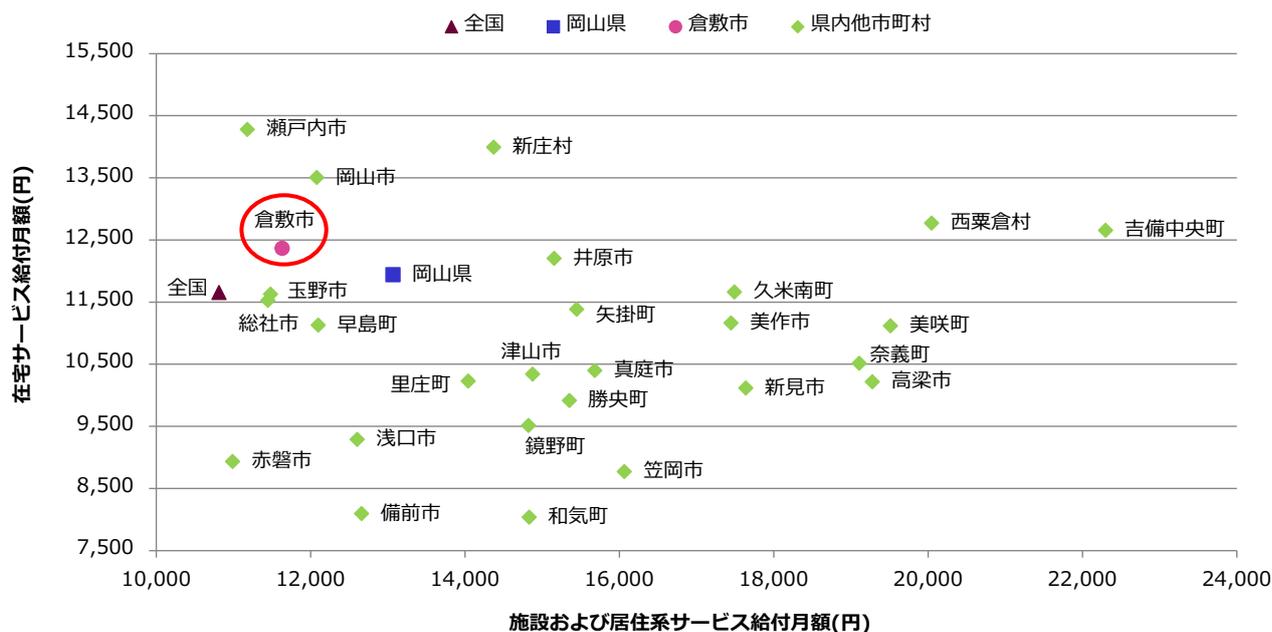


資料:「介護保険総合データベース」及び総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

(チ) 第1号被保険者1人あたり給付月額（令和2(2020)年3月末時点）

令和2(2020)年3月末時点の第1号被保険者1人あたり給付月額を高い方からみると、在宅サービスでは「瀬戸内市」「新庄村」「岡山市」の順、施設・居住系サービスでは「吉備中央町」「西栗倉村」「美咲町」の順となっています。

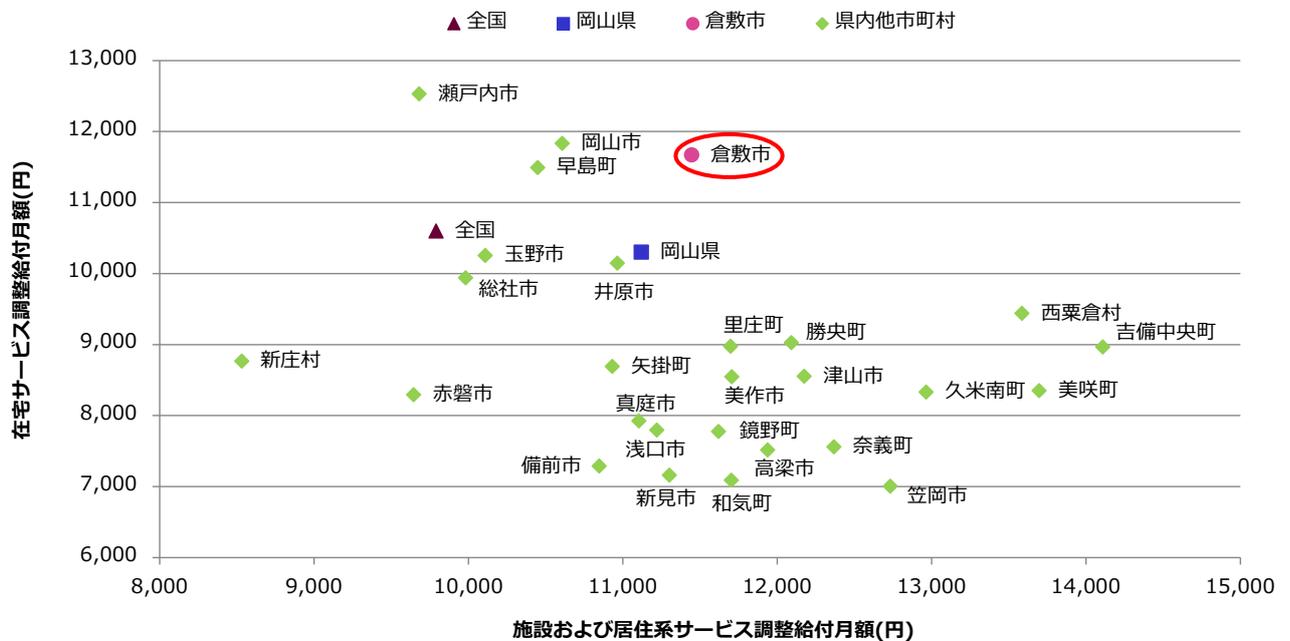
本市の第1号被保険者1人あたり給付月額は、高い方からみて、「在宅」は12,368円で6番目、「施設・居住系」は11,630円で23番目となっています。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

(ツ) 調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額（平成30(2018)年時点）

平成30(2018)年時点の調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額を高い方からみると、在宅サービスでは「瀬戸内市」「岡山市」「倉敷市」の順、施設・居住系サービスでは「吉備中央町」「美咲町」「西粟倉村」の順となっています。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

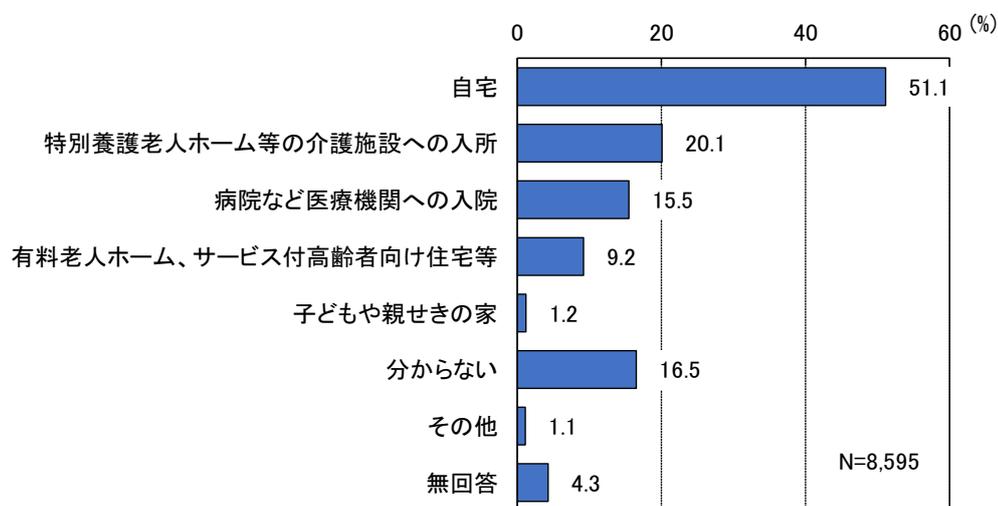
## 5 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果等からみる高齢者の意識や実態

### I 高齢者の意識等について

#### (1) 医療や介護の希望（本人の希望）

自分が医療・介護が必要になった場合の希望として最も多かったのは「自宅」で51.1%、2位は「特別養護老人ホーム等の介護施設への入所」で20.1%、3位は「病院など医療機関への入院」で15.5%となっています。

図1 医療や介護が必要になった時、主にどこで過ごしたいか

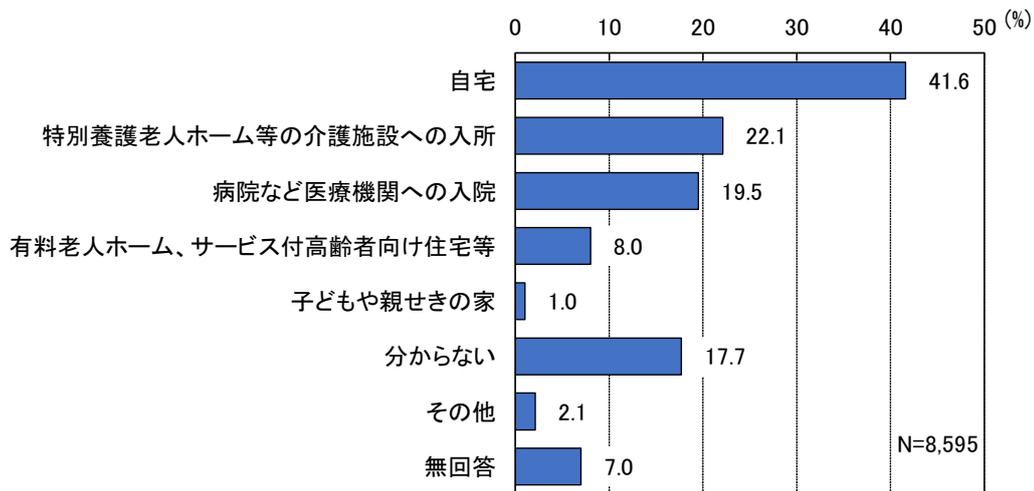


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (2) 医療や介護の希望（家族の希望）

家族が医療・介護が必要になった場合の希望として最も多かったのは「自宅」で41.6%、2位は「特別養護老人ホーム等の介護施設への入所」で22.1%、3位は「病院など医療機関への入院」で19.5%となっています。

図2 家族が医療や介護が必要になった時、主にどこで過ごしてもらいたいのか

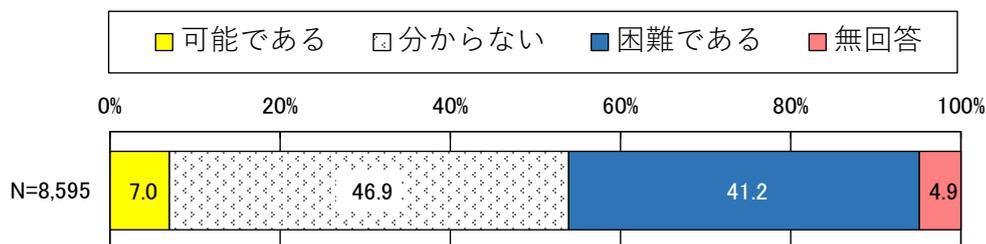


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (3) 最期まで自宅で療養が可能と思えるか

自宅で最期まで療養することは困難であると41.2%の人が回答し、可能であると回答した人は7.0%となっています。

図3 最期まで自宅で療養が可能と思えるか

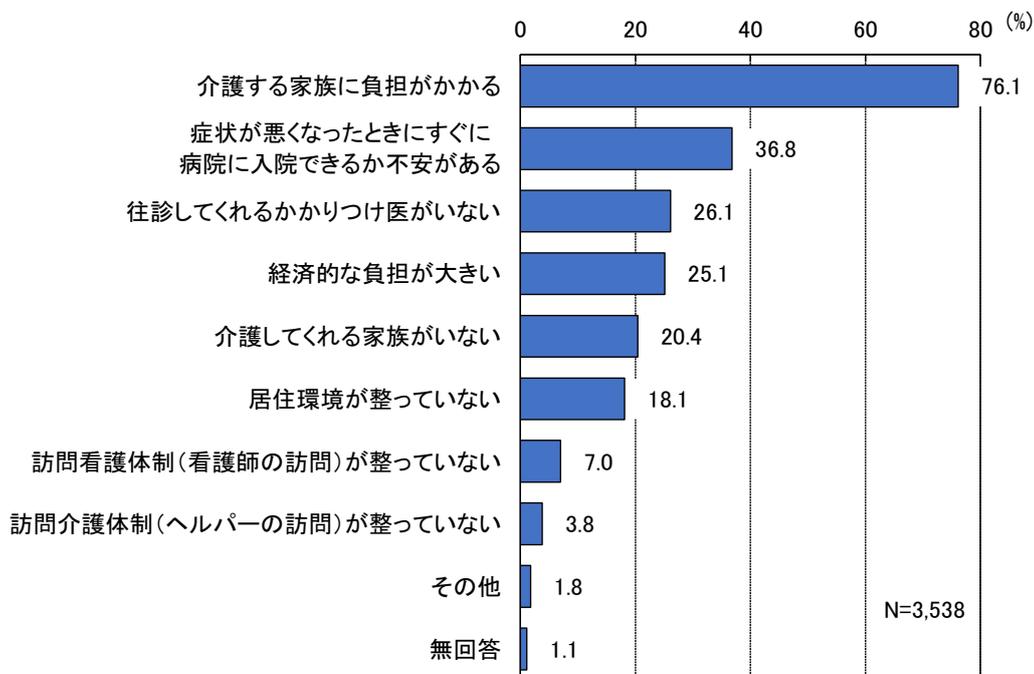


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(4) 自宅で療養することが困難な理由

自宅で最期まで療養することは困難であると回答した人に、その理由を尋ねたところ、「介護する家族に負担がかかる」という回答が76.1%と、最も多くなっています。

図4 自宅で療養することが困難な理由

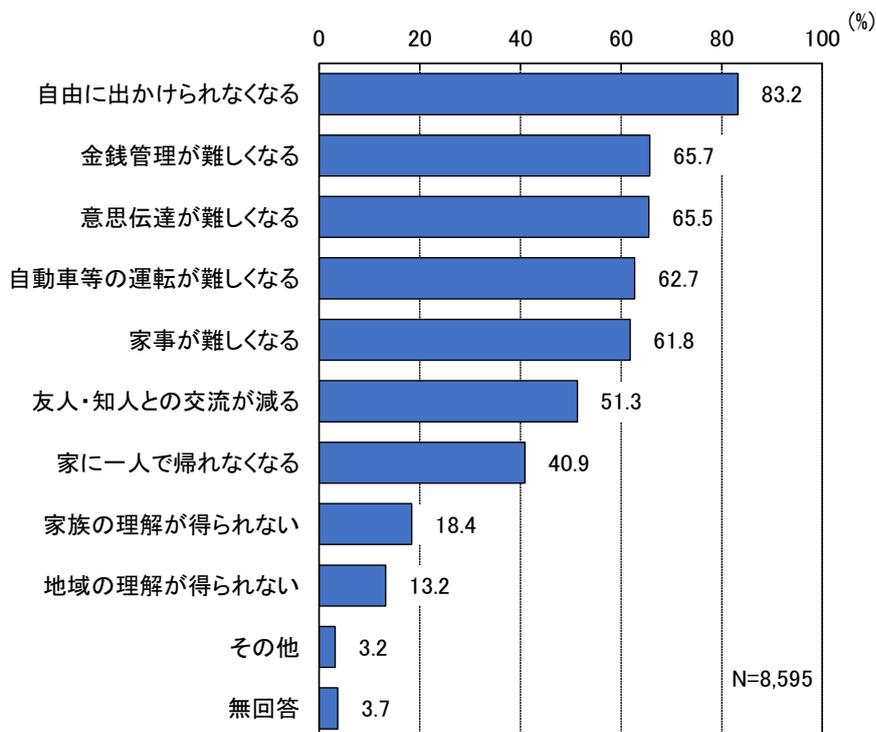


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (5) 自分や家族が認知症になった場合を感じる不安

自分や家族が認知症になったとしたら、どんなことに不安を感じると思うか尋ねたところ、「自由に出かけられなくなる」という回答が83.2%と、最も多くなっています。

図5 自分や家族が認知症になった場合を感じる不安

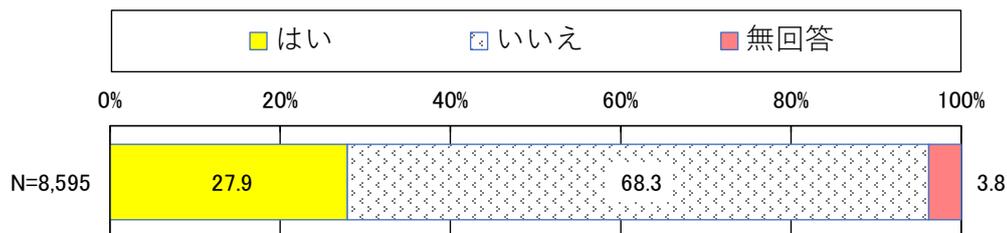


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (6) 認知症の相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人の割合は27.9%、知らないと回答した人の割合は68.3%となっています。

図6 認知症に関する相談窓口を知っているか

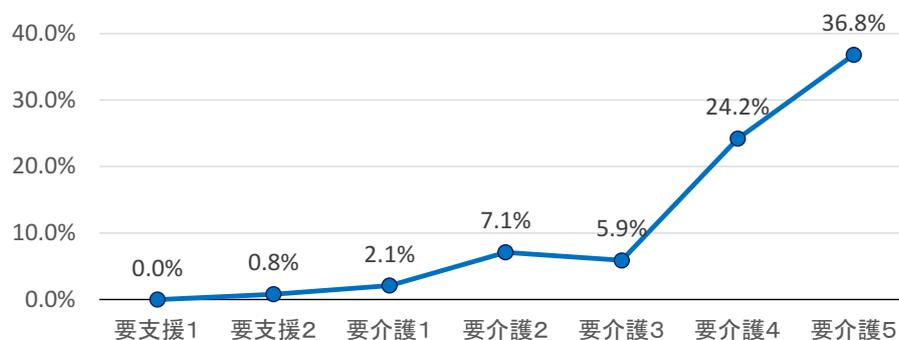


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(7) 要介護度別にみた訪問診療受診率

訪問診療の受診率は、要介護度が重くなるほど高まり、要介護5で 36.8%となっています。

図7 要介護度別訪問診療受診率



	総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
調査対象者数(人)※	613	97	128	142	126	68	33	19
訪問診療受診者数(人)	33	0	1	3	9	4	8	7
訪問診療受診率(%)	5.4	0.0	0.8	2.1	7.1	5.9	24.2	36.8

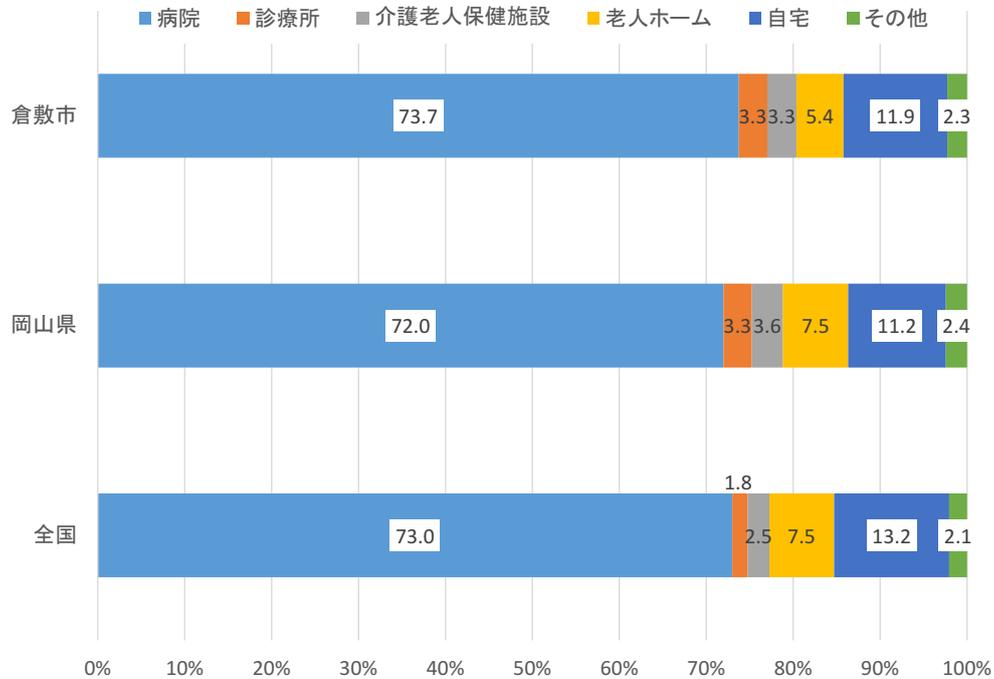
※無回答者・認定結果非該当者、申請中の死亡、転出者等を除く。

資料: 倉敷市在宅介護実態調査結果

## (8) 死亡場所の構成比の比較

本市の死亡場所の構成比をみると、岡山県全体の平均より「病院」(73.7%)と「自宅」(11.9%)の割合がやや高く、「老人ホーム」の割合は低くなっています。

図8 死亡場所の構成比の比較



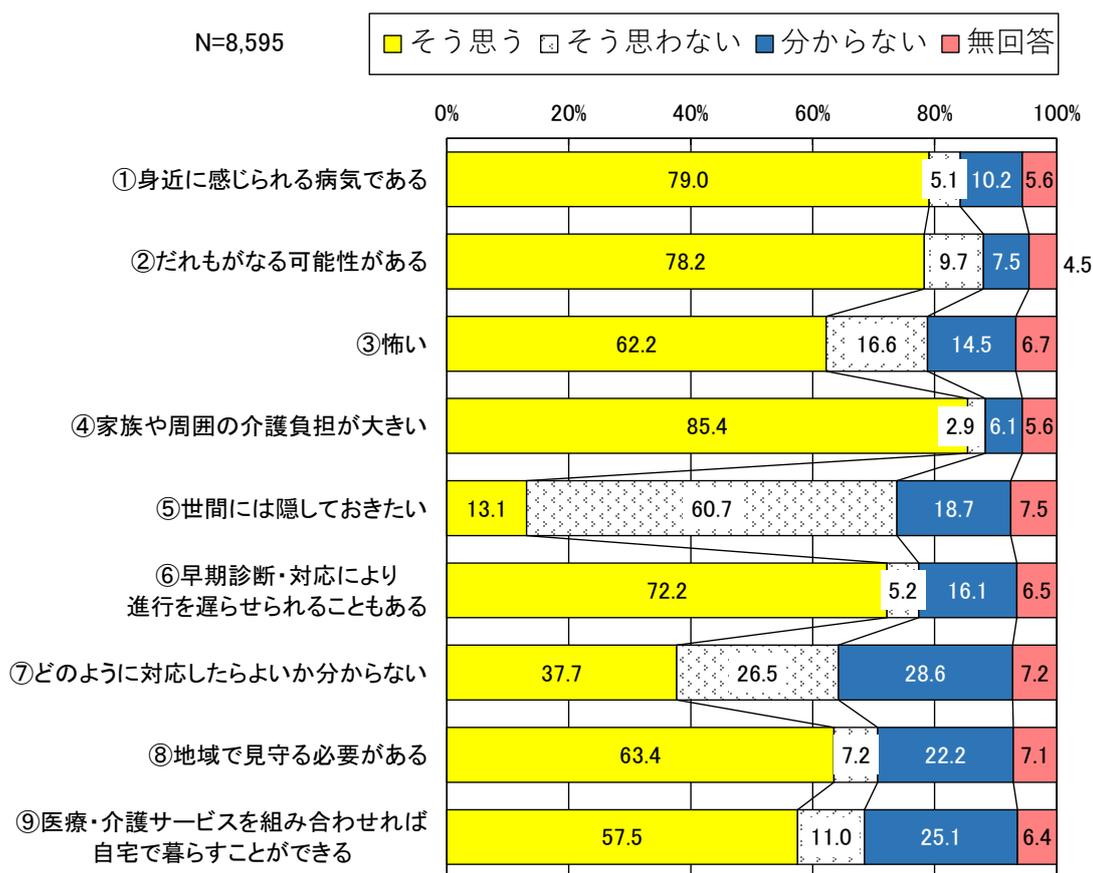
資料：平成 29(2017)年「人口動態統計」(厚生労働省)

(9) 認知症に対するイメージ

認知症に対するイメージとして、「家族や周囲の負担が大きい」と捉えている割合は85.4%となっています。

また、平成28(2016)年の同調査時と同じ項目の「そう思う」と答えた回答の割合を比較すると、「世間には隠しておきたい」(10.9%→13.1%)という意識はやや後退した感がありますが、「だれもがなる可能性がある」(74.8%→78.2%)、「地域で見守る必要がある」(58.7%→63.4%)、「医療・介護サービスを組み合わせれば自宅で暮らすことができる」(49.4%→57.5%)などについてはいずれも今回の方が良い方向(正しいイメージ)に向かっており、市の認知症に対する理解や予防の取り組み、早期発見するための知識の普及啓発の効果などもあり、正しいイメージが浸透しつつあることがうかがえます。

図9 認知症に対してどのようなイメージを持っているか



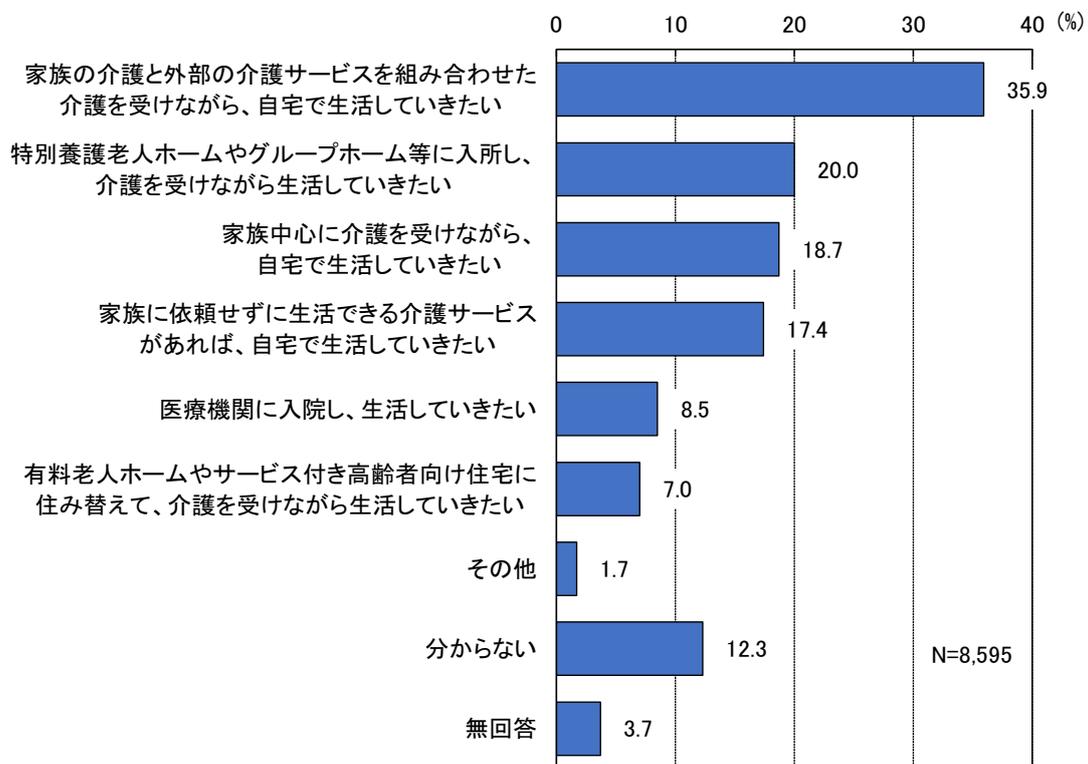
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (10) 認知症になった場合の暮らし方の希望

認知症になった場合の暮らし方の希望について最も多かったのは、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせた介護を受けながら、自宅で生活していきたい」で35.9%、次いで、「特別養護老人ホームやグループホーム等に入所し、介護を受けながら生活していきたい」が20.0%、「家族中心に介護を受けながら、自宅で生活していきたい」が18.7%、「家族に依頼せずに生活できる介護サービスがあれば、自宅で生活していきたい」が17.4%と続いています。

何らかの介護サービスを受けながら認知症になっても自宅で生活したいと希望している人が多いことがわかります。

図10 認知症になったら、どのように暮らしたいと思うか

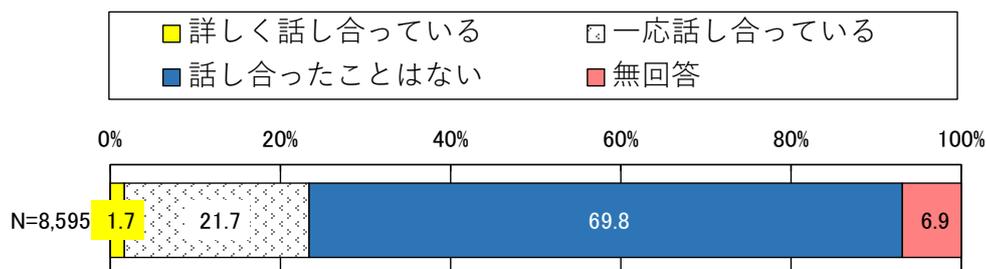


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(11) 終末期における医療・療養についての話し合いの経験の有無

終末期における医療・療養について、家族や医療介護関係者と「詳しく話し合っている」と回答した人の割合は1.7%、「一応話し合っている」と回答した人の割合は21.7%で、「話し合ったことはない」と回答した人が69.8%と多くなっています。

図11 終末期における医療・療養について、家族や医療介護関係者と話し合ったことがあるか

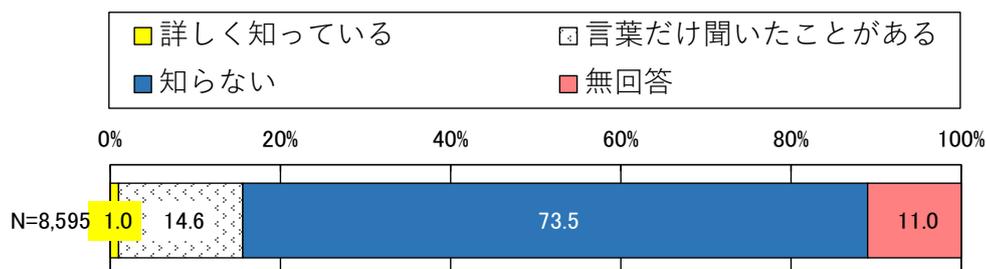


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(12) ACP (アドバンスケアプランニング) や人生会議の認知度

ACP (アドバンスケアプランニング) や人生会議について「詳しく知っている」と回答した人の割合は1.0%、「言葉だけ聞いたことがある」と回答した人の割合は14.6%で、「知らない」と回答した人が73.5%と多くなっています。

図12 ACP(アドバンスケアプランニング)や人生会議の認知度



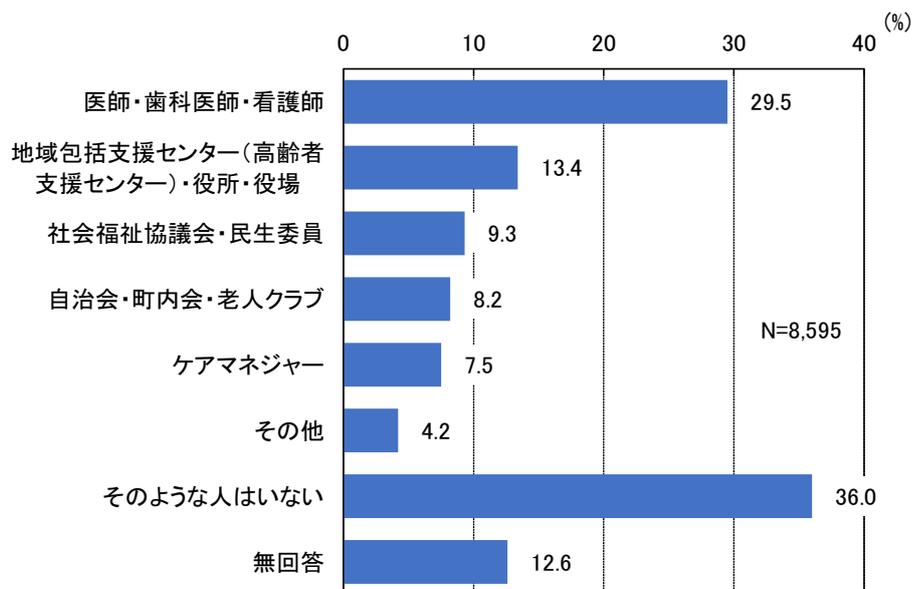
資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

※ACP・人生会議とは、将来に備えて、ご本人やその家族と医療・介護従事者等が前もって具体的に治療・療養について話し合う過程のことをいいます。

## (13) 相談相手・相談先

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が36.0%と最も多くなっており、身近な地域の相談窓口である地域包括支援センター（高齢者支援センター）・役所・役場については、医師・歯科医師・看護師（29.5%）よりも低く、13.4%となっています。

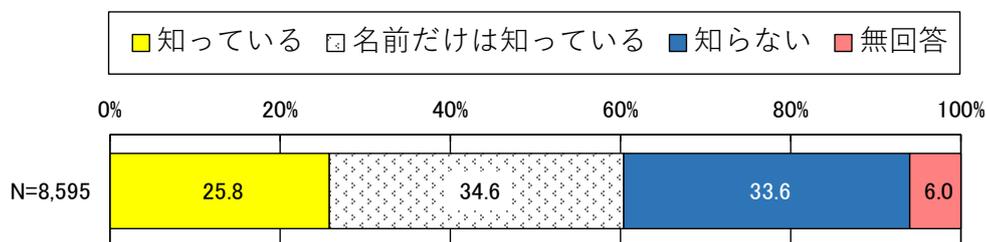
図13 何かあったときに相談する相手



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

なお、高齢者支援センターの認知度は、「知っている」「名前だけは知っている」を合わせると60.4%となっています。

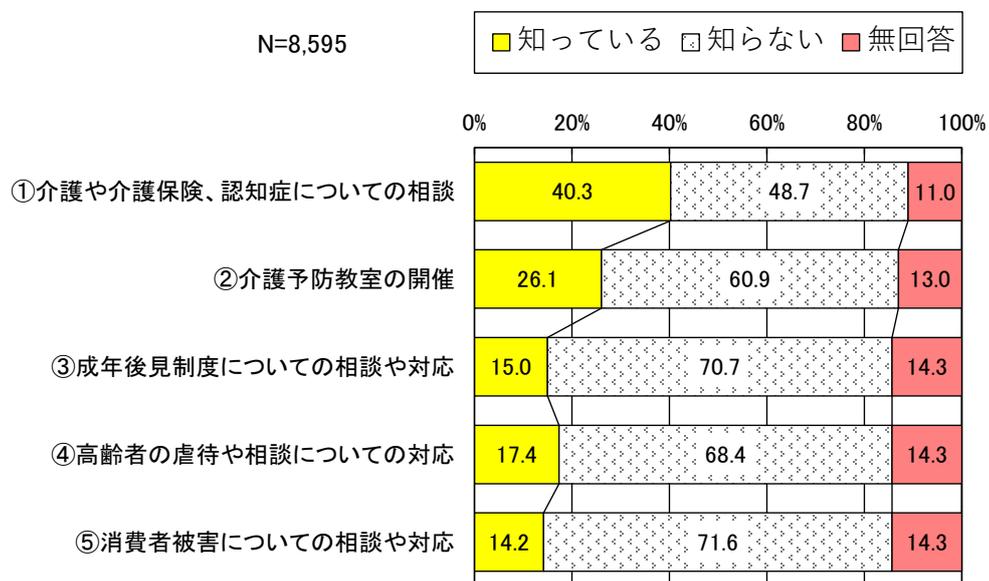
図14 高齢者支援センターを知っているか



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(参考)

図 15 高齢者支援センターは次のことを行っているが、知っているか



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## Ⅱ 高齢者が有するリスクについて

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目のうち、国が必須項目として設定した、「問2 からだを動かすことについて」「問3 食べることについて」「問4 毎日の生活について」「問8 健康について」は、それぞれ要介護度の悪化につながるリスクの有無を判定するための設問となっています。すなわち、「からだを動かすことについて」は運動器機能の低下・転倒リスク、閉じこもり傾向を、「食べることについて」は低栄養の傾向と口腔機能の低下を、「毎日の生活について」は認知機能の低下とIADL<sup>\*</sup>の把握を、「健康について」はうつ傾向の把握をそれぞれ目的としています。

そこで、リスクの発生状況については、上記4つの設問に対応した4つの項目「(1) からだを動かす」「(2) 食べる」「(3) 毎日の生活」「(4) 健康」ごとに分析を行いました。

※IADL(Instrumental Activities of Daily Living)とは、手段的日常生活動作とも言われ、電話の使い方、買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、ADL(Activity of Daily Living:日常生活動作)ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するもので、在宅生活の可能性を検討する場合は、ADLの評価だけでは不十分であり、IADLが重要な指標になるとされています。

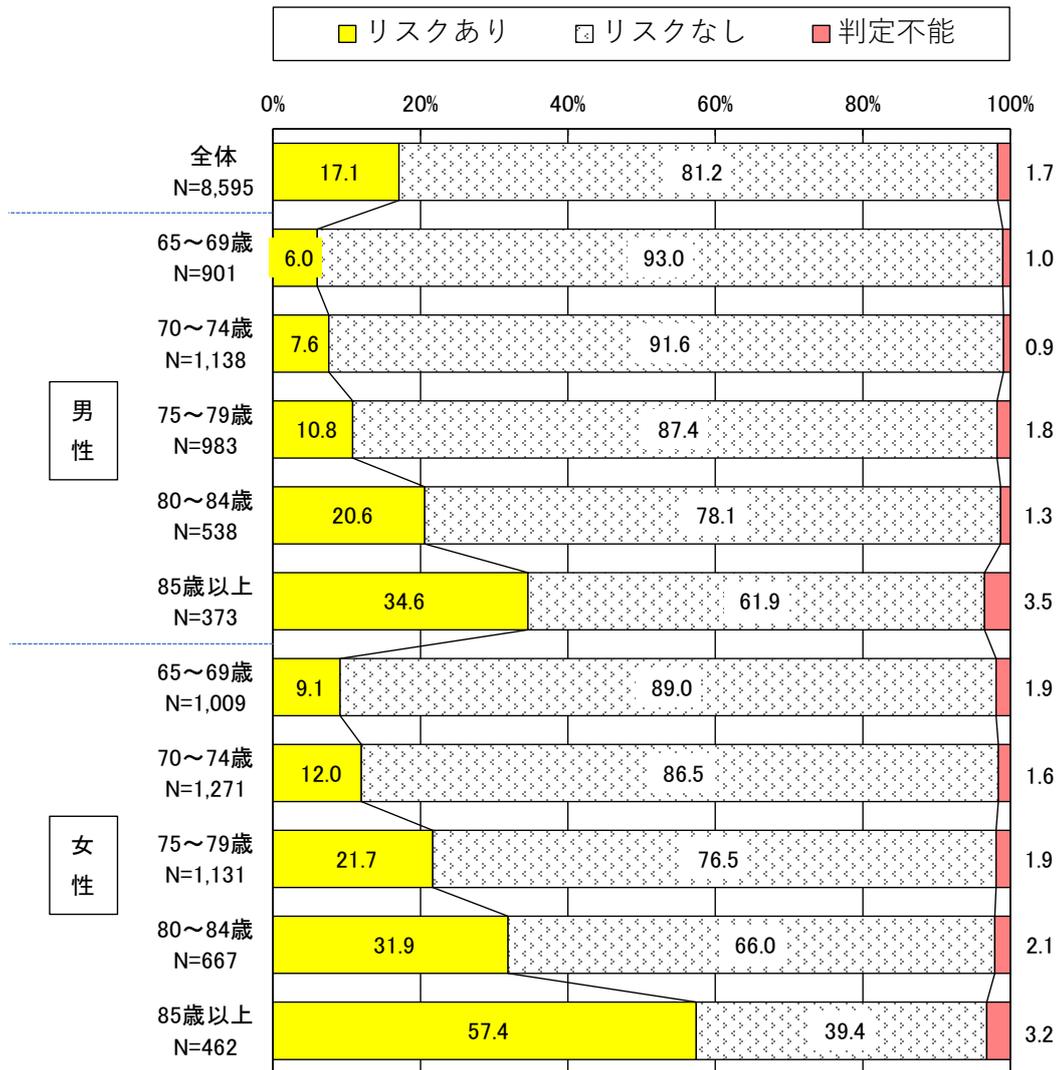
### (1) からだを動かす

#### (ア) 運動器機能リスク

リスク判定の結果は次のとおりで、全体では17.1%がリスクありとの結果でした。男女別・年齢階層別では男女ともに年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっています(図16参照)。

また、女性は男性に比べ全年齢階層でリスク者割合が高くなっています。これは、女性は男性に比べ「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」の有病率が高い(男性の4.4%に対し女性は18.1%)という男女の疾病構造の違いが影響していると思われます。

図 16 男女別・年齢階層別運動器機能リスク判定結果

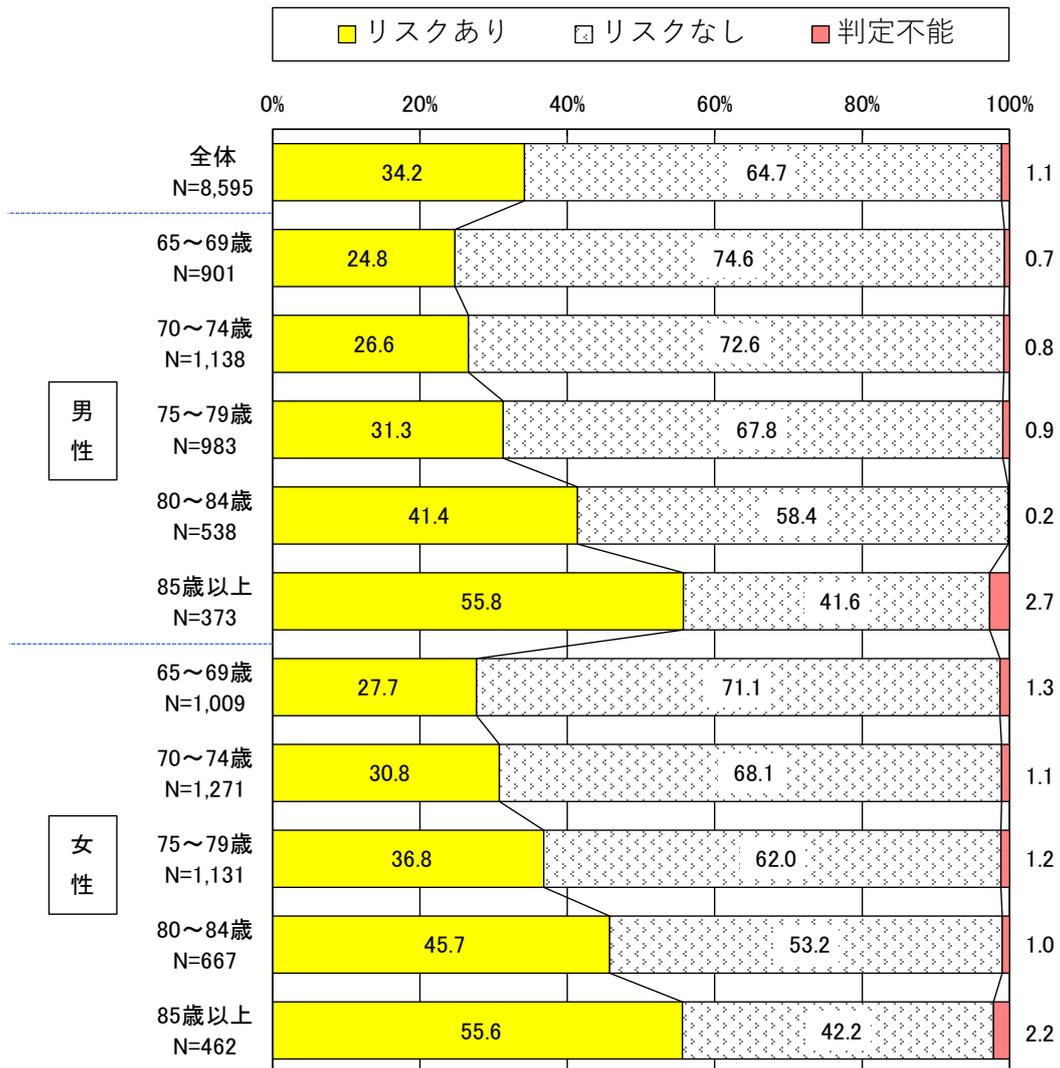


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果

(イ) 転倒リスク

リスク判定の結果は次のとおりで、全体では 34.2%がリスクありとの結果でした。男女別・年齢階層別では、男女ともに年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっていることがわかります。

図 17 男女別・年齢階層別転倒リスク判定結果



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(ウ) 閉じこもりリスク

リスク判定の結果は次のとおりで、全体では 17.0%がリスクありとの結果でした。男女別・年齢階層別では、男女ともに概ね年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっています。また、65～69 歳を除くすべての年齢階層で、男性に比べ女性の方がリスク者割合が高くなっており、前述の運動器機能のリスク者割合の違いが要因の一つと考えられます。

図 18 男女別・年齢階層別閉じこもりリスク判定結果



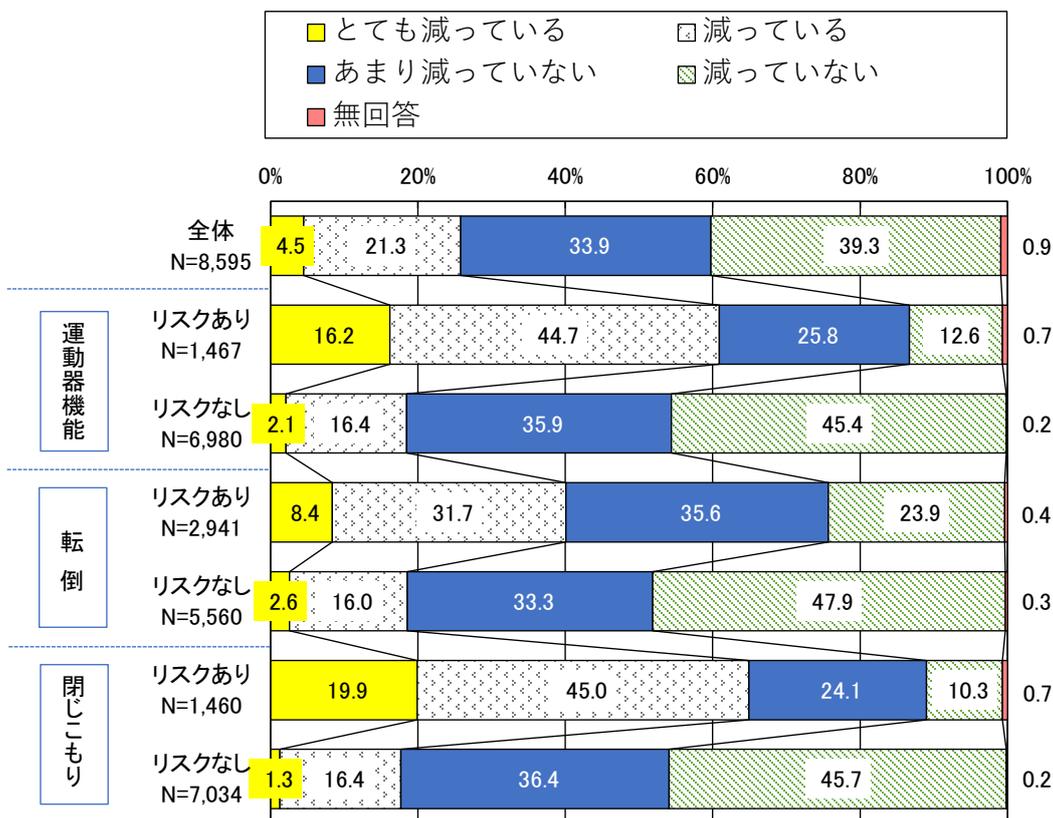
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (エ) 各リスクの有無と外出回数減少との関係

外出回数が「とても減っている」「減っている」と回答した高齢者は、運動器機能低下リスク者（60.9%）、閉じこもりリスク者（64.9%）で半数を大きく超えています（図 19 参照）。

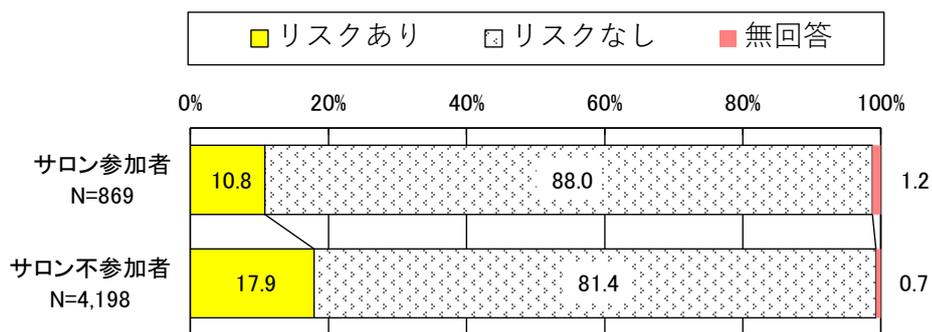
運動器の機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向が外出回数の減少につながっているのか、それとも、外出回数の減少が運動器機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向の要因となっているのかは本調査結果のみでは検証できませんが、サロンに参加している人の方が閉じこもりリスク者の割合が低くなっている（図 20 参照）ことも考えると、例えば、サロンなど地域の通いの場の充実等を通じて地域で外出を促す取組につなげていくこと等はできると考えられます。

図 19 各リスクの有無と外出回数減少との関係



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図 20 サロン参加の有無と閉じこもりリスクの有無との関係



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

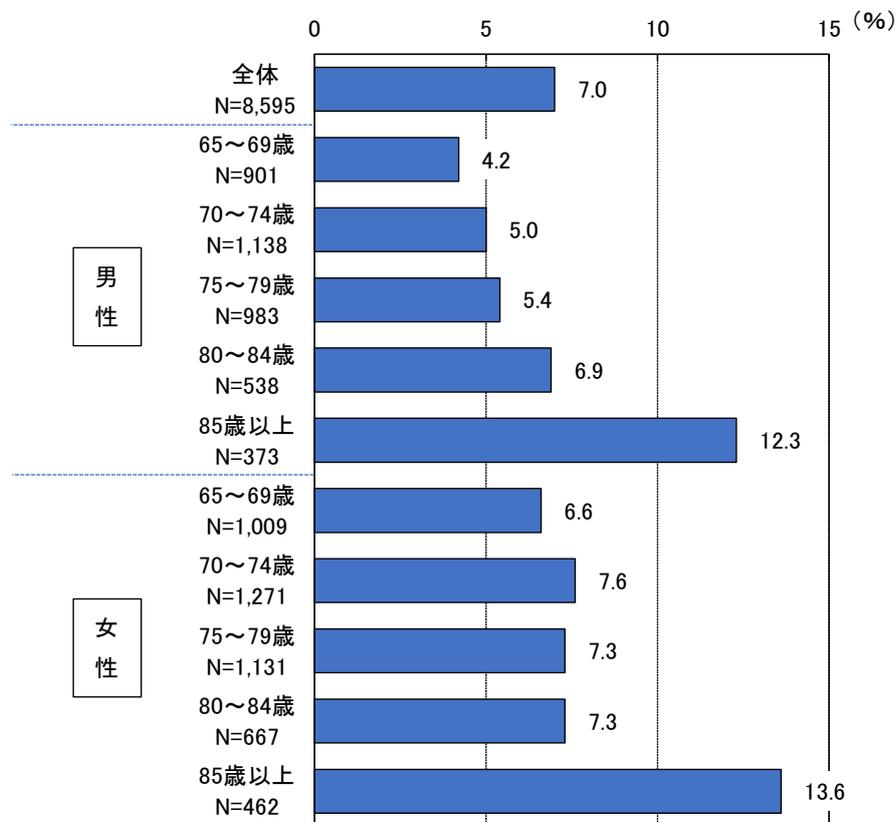
## (2) 食べる

## (ア) 低栄養リスク

国の判定基準によれば、身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷{身長（m）×身長（m）}）が18.5以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。

全体で低栄養の疑いのある人（BMI18.5以下）の割合は図21のとおりで7.0%となっています。男女別・年齢階層別では、男性は年齢階層が高くなるにつれて徐々に割合が高くなっていくのに対し、女性は85歳以上で割合が高くなっています。

図21 男女別・年齢階層別低栄養の疑いのある人(BMI18.5以下)の割合

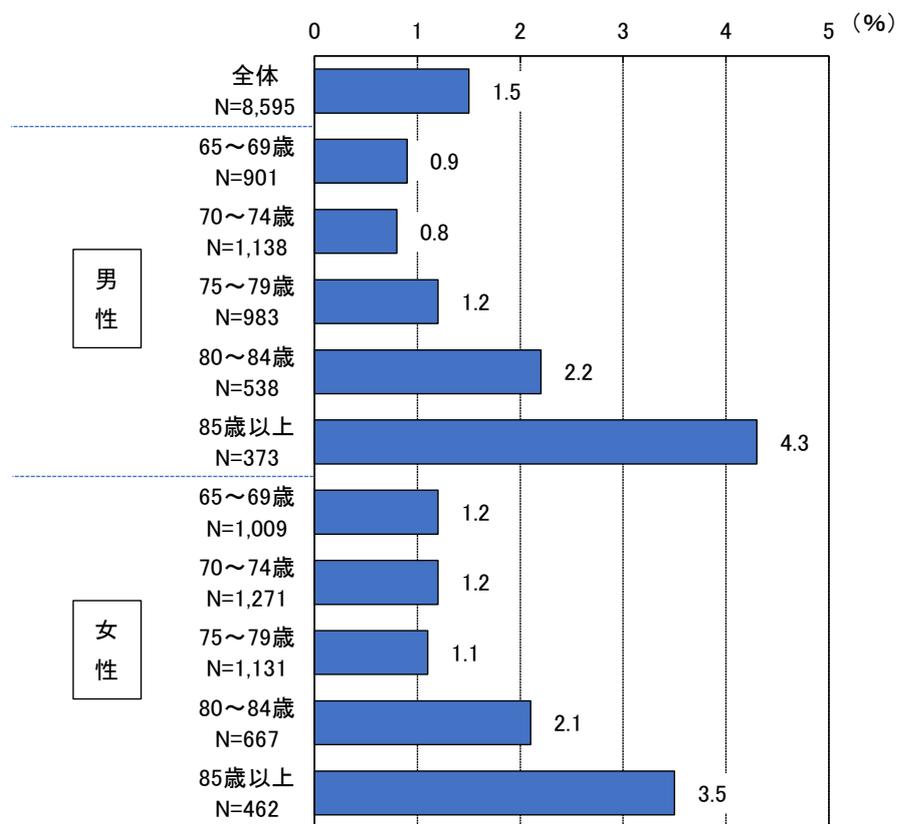


資料:倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

また、今回の調査においては、国が示す必須項目（身長・体重を問う設問）に加え、本市では、別途示された「6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか」という説明を追加して調査し、より正確に低栄養のリスクを把握することにしました。

その結果は図22のとおりで、全体では1.5%がリスク者割合で、男女別・年齢階層別の低栄養リスク者割合は、年齢階層別に見ると、男女ともに80歳以上でリスク者割合が高くなる結果となっています。

図 22 男女別・年齢階層別低栄養リスク者割合

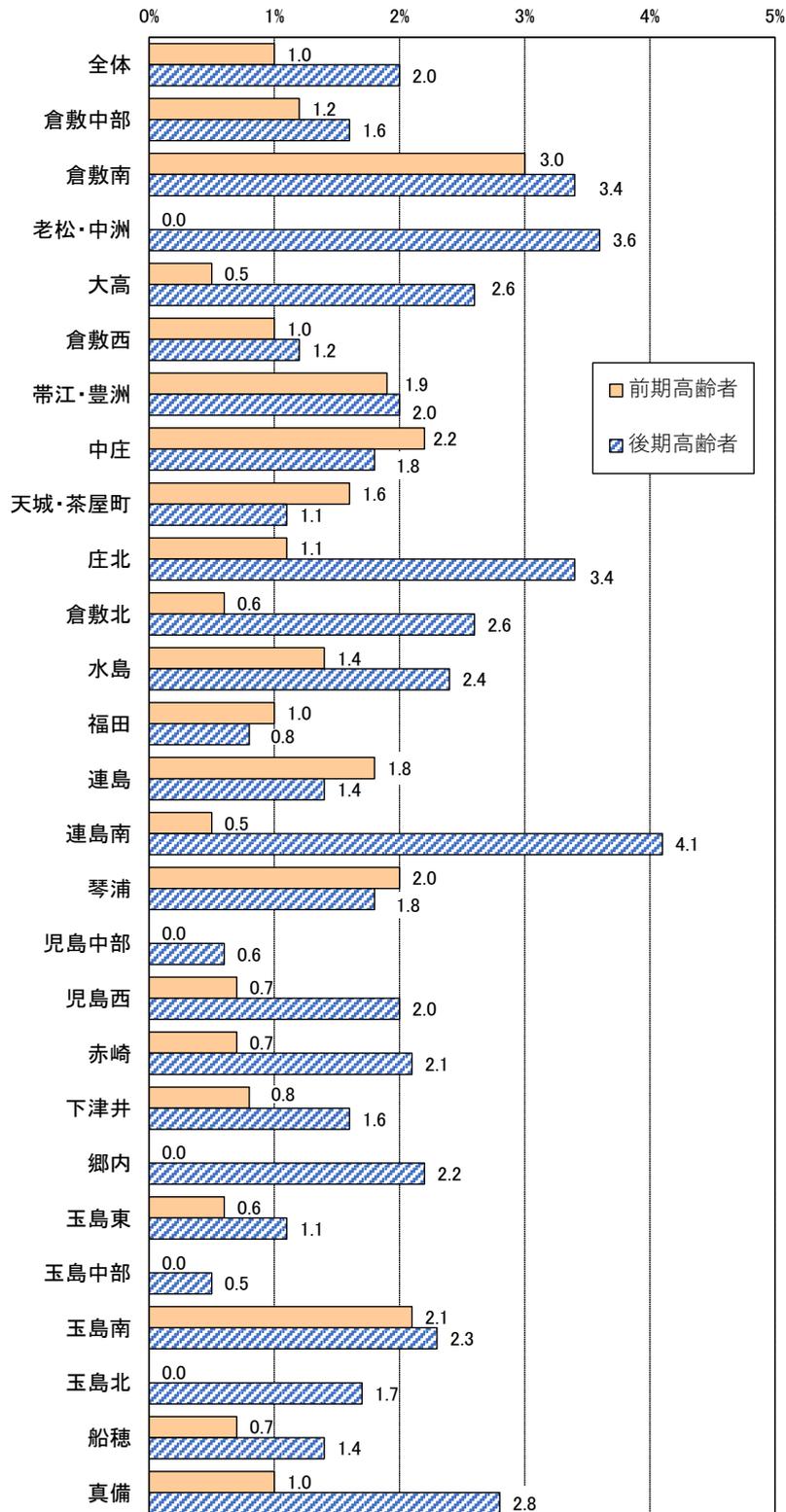


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(参考1) 低栄養リスク者の状況—日常生活圏域別

日常生活圏域別に低栄養リスク者の割合をみると、前期高齢者（平均 1.0%）については「倉敷南」圏域（3.0%）,「中庄」圏域（2.2%）が高く、後期高齢者（平均 2.0%）については「連島南」圏域（4.1%）,「老松・中洲」圏域（3.6%）,「倉敷南」「庄北」圏域（ともに 3.4%）が高くなっています。

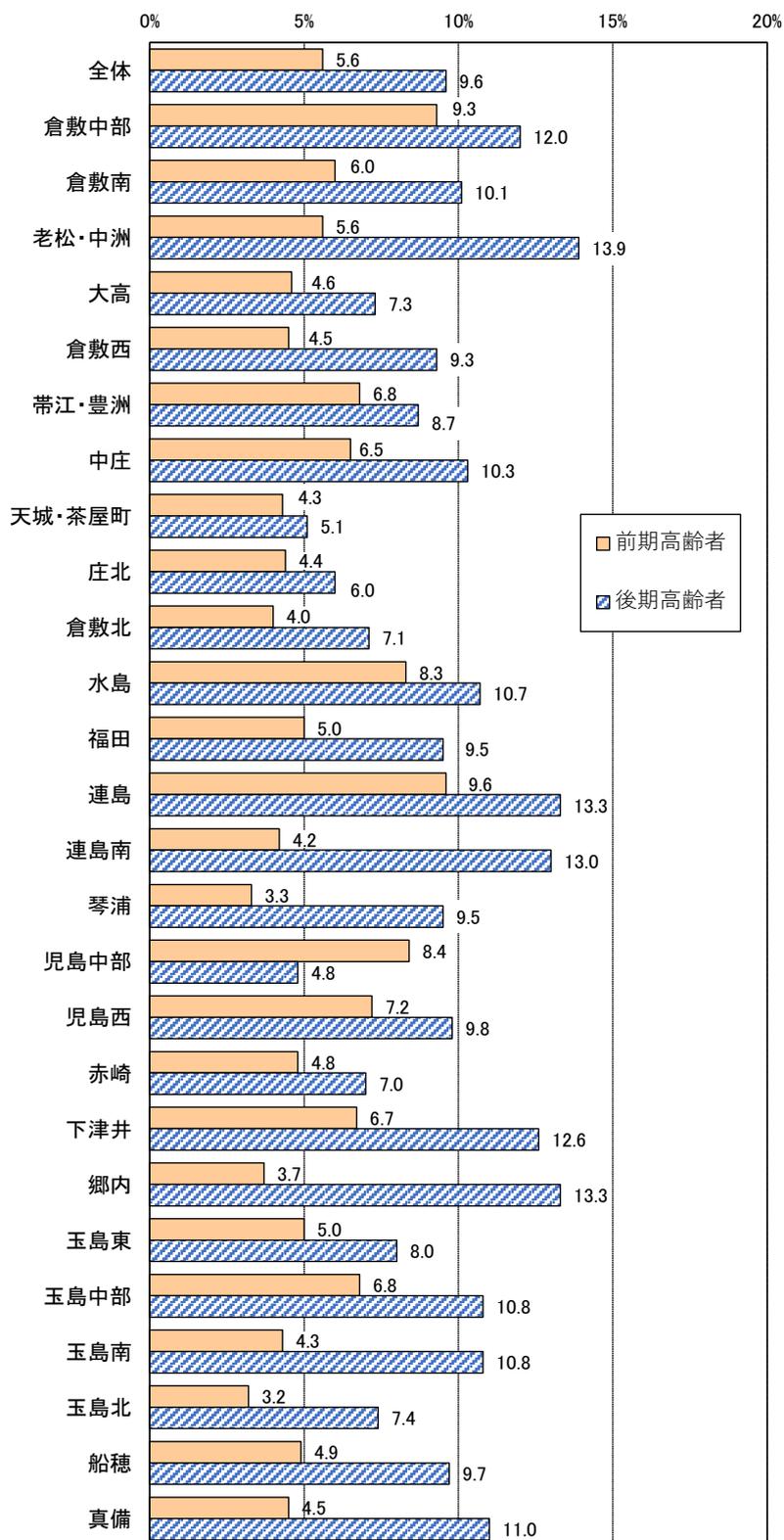
図 23 日常生活圏域別・年齢2階層別低栄養リスク者の割合



(参考2) 孤食の状況—日常生活圏域別

誰かと食事を共にする機会がほとんどない人の割合は、前期高齢者（平均 5.6%）については「連島」圏域（9.6%）,「倉敷中部」圏域（9.3%）が高く、後期高齢者（平均 9.6%）については「老松・中洲」圏域（13.9%）,「連島」「郷内」圏域（ともに 13.3%）が高くなっています。

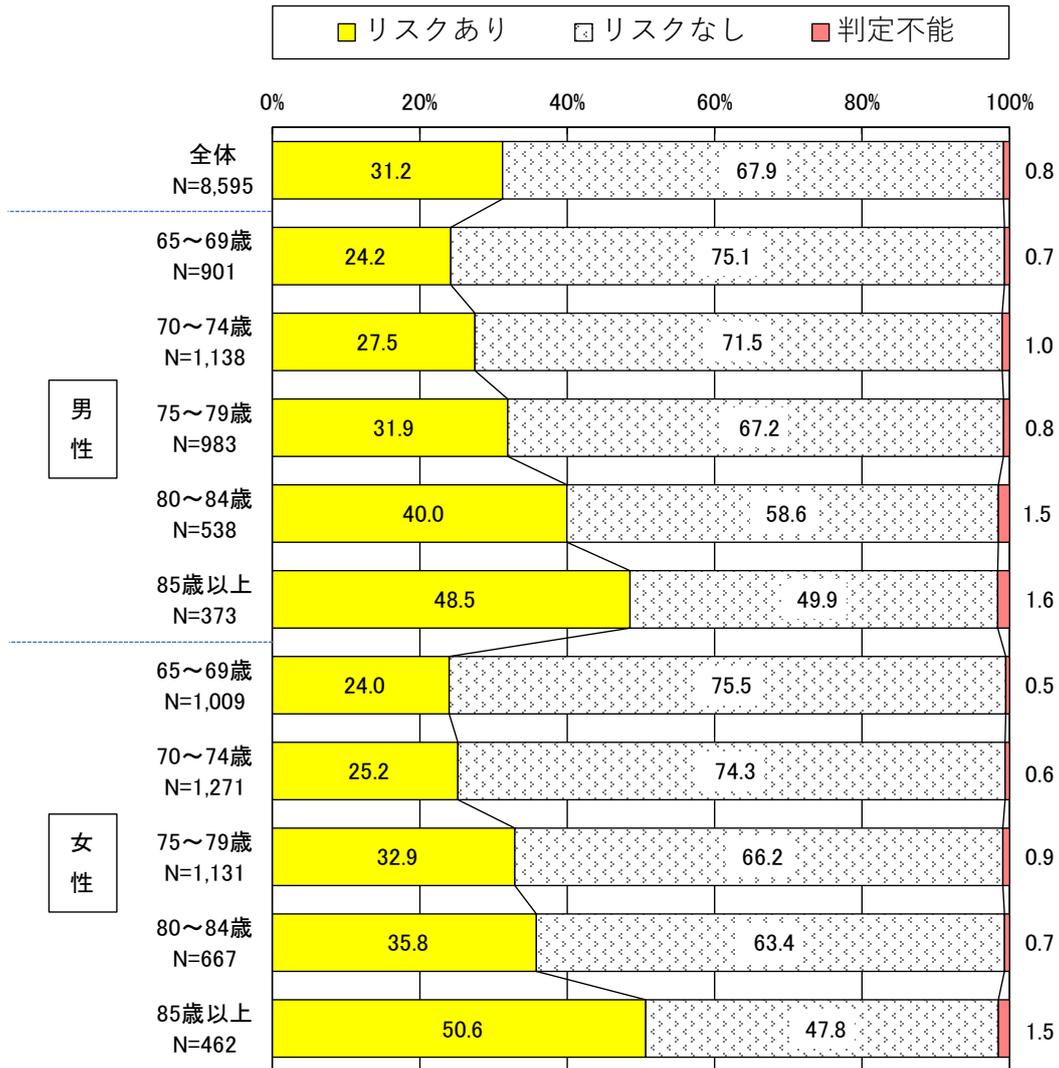
図 24 日常生活圏域別・年齢2階層別孤食の割合



(イ) 咀嚼機能低下リスク

咀嚼機能低下の疑いのある人の割合は次のとおりで、全体では 31.2%がリスクありとの結果でした。男女別・年齢階層別の咀嚼機能低下の疑いのある人の割合は次のとおりで、男女ともに年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっています。

図 25 男女別・年齢階層別咀嚼機能低下リスク判定結果



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(3) 毎日の生活

(ア) 認知機能の低下リスク

リスク判定の結果は次のとおりで、全体で 45.1%がリスクありの結果でした。男女別・年齢階層別では、男女ともに年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっています。なお、物忘れが多いと感じるかどうかといった設問項目で判定されるため、認知機能の低下が見られるといっても必ずしも認知症の状態であるとは限りません。

図 26 男女別・年齢階層別認知機能低下リスク判定結果



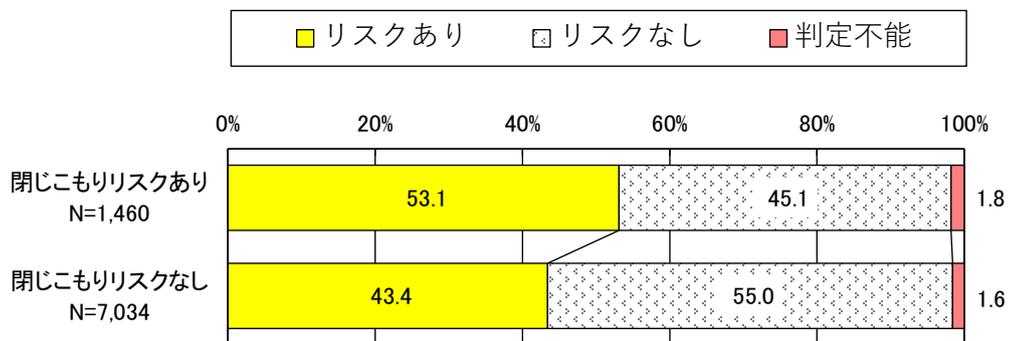
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

## (イ) 閉じこもりリスクの有無と認知機能低下リスクとの関係

閉じこもりのリスクの有無別に認知機能低下のリスク者割合をみると、閉じこもりリスクのある人は、ない人に比べて認知機能低下のリスク者割合が高くなっています(図27参照)。

この結果を踏まえると、地域でサロンへの参加を促すなど外出の機会を増やすことや、必要に応じて、高齢者支援センターがひとり暮らし高齢者のお宅を訪問するなどの対応が、認知機能低下のリスク低減につながると考えられます。

図 27 閉じこもりリスクの有無別認知機能低下リスク判定結果



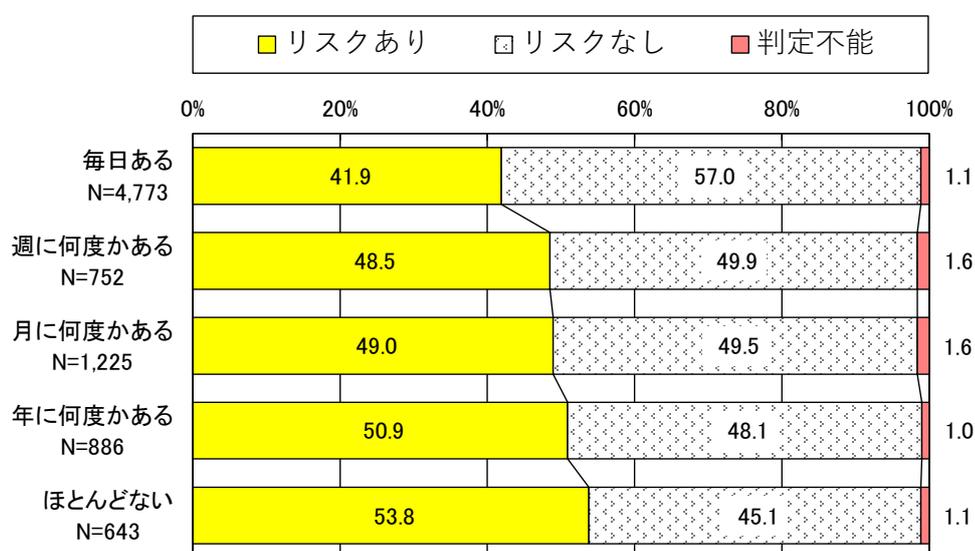
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(ウ) 食事の状況と認知機能低下リスクとの関係

誰かと食事を共にする機会が多い人の方が認知機能低下のリスク者割合が低くなっており、誰かと食事を共にする機会が「ほとんどない」と回答した人の認知機能のリスク者割合は53.8%と、「毎日ある」と回答した人の割合（41.9%）に比べ11.9ポイント高くなっています（図28参照）。

ひとり暮らし等で、ふだん孤食状態にある人も、誰かと食事を共にする機会を持つことで認知機能低下リスクの低減効果をもたらすことが期待できます。

図28 食事の状況別認知機能低下リスク判定結果

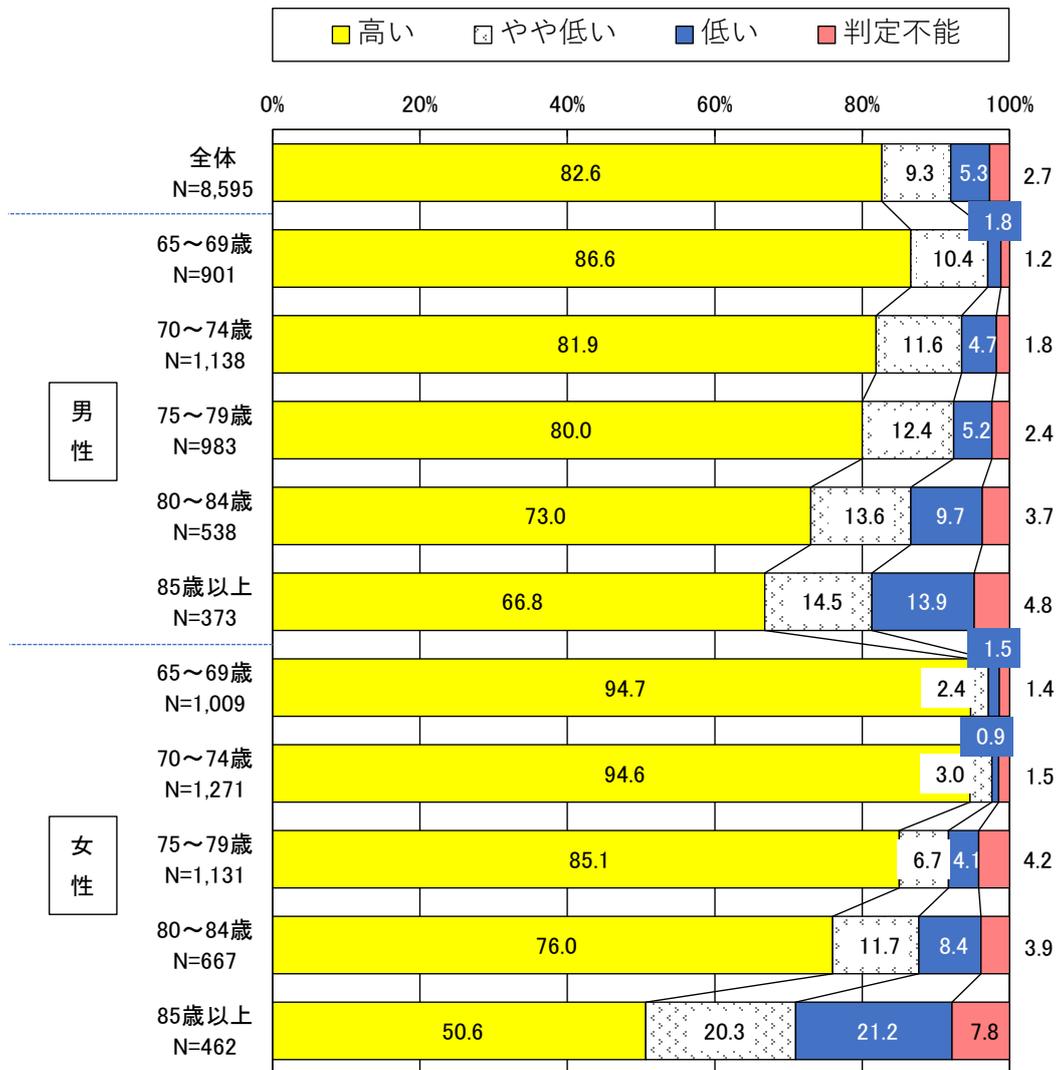


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(エ) IADLの低下リスク

リスク判定の結果は次のとおりで、IADLが「やや低い」「低い」人の割合は、男女ともに年齢階層が高くなるにつれて高くなっています。

図 29 男女別・年齢階層別IADL低下リスク判定結果



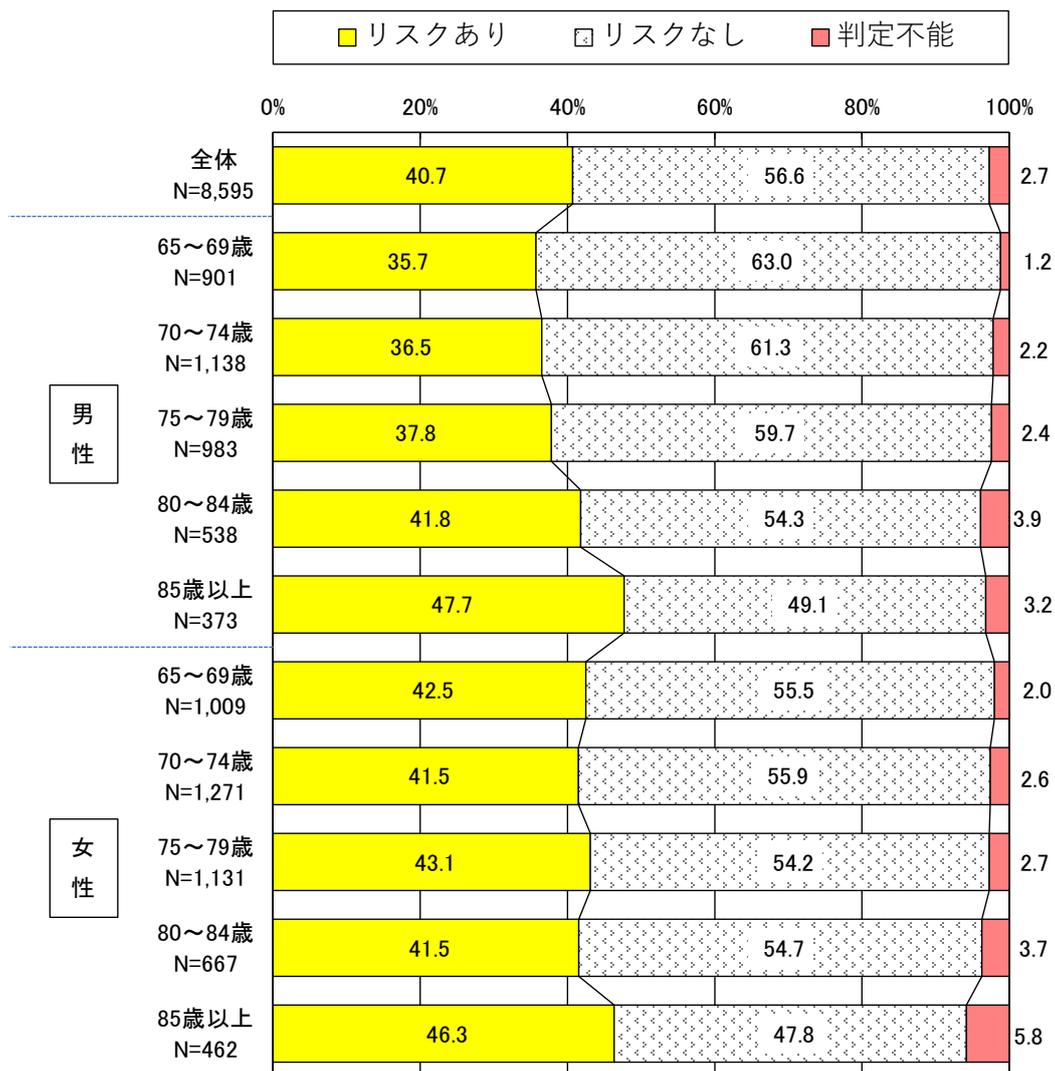
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(4) 健康

(ア) うつのリスク

リスク判定の結果は次のとおりで、男女とも年齢階層によるばらつきは見られますが、年齢による分布特性は把握しづらい結果となっています（図 30 参照）。

図 30 男女別・年齢階層別うつリスク判定結果

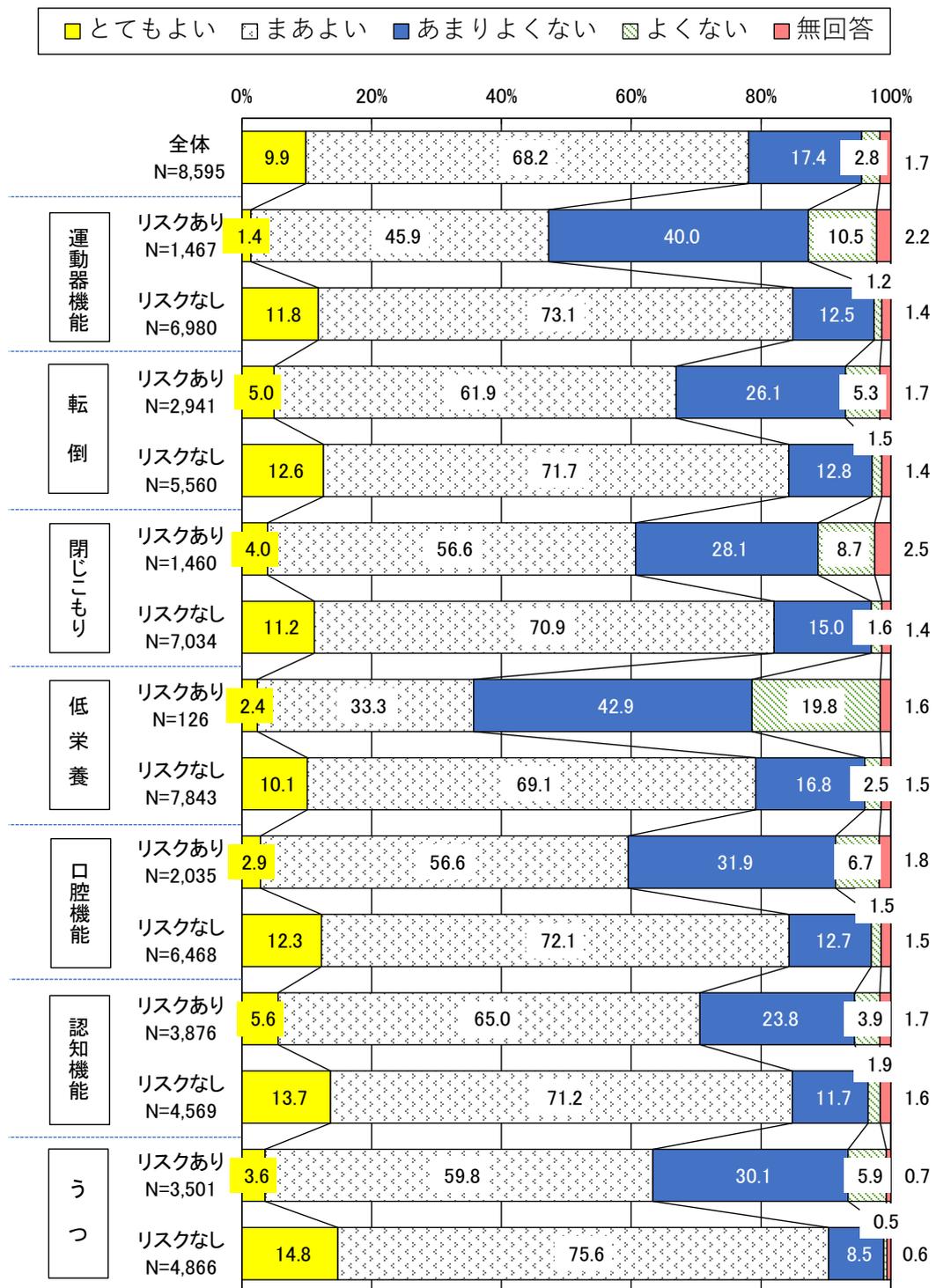


資料:倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(5) 各リスクの有無と主観的健康感との関係

これまで見てきた各リスクの有無別に主観的健康感の状況を見ると、すべての分野について、リスクのある人に比べリスクのない人の方が主観的健康感がよい人の割合が高いという結果となっています（図31参照）。

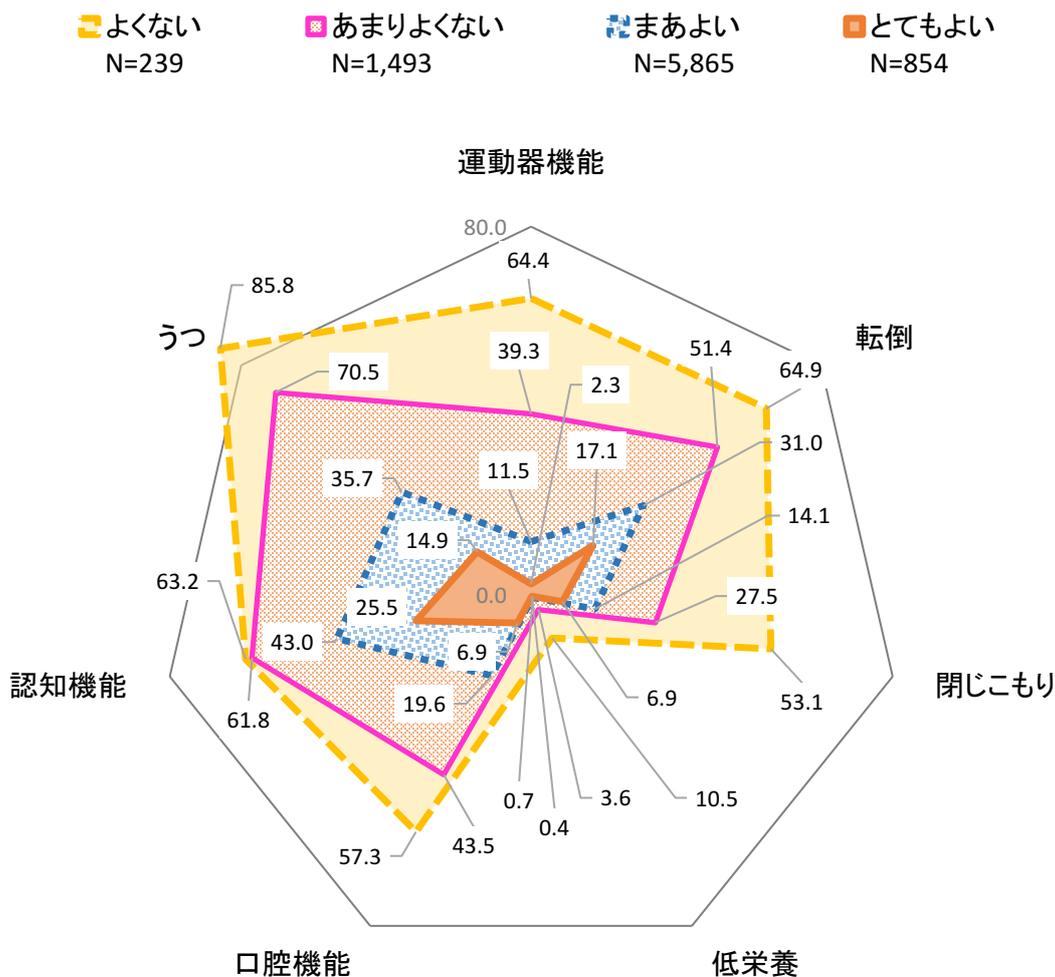
図31 各リスクの有無別主観的健康感



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

また、主観的健康感と各リスク者割合との関係を見ると、主観的健康感がよい人ほど、リスク者の割合が低くなる傾向にあることが分かります。例えば、「運動器機能」のリスク者の割合は、主観的健康感が「よくない」人では 64.4%になりますが、「とてもよい」人では 2.3%であり、実に 28 倍という大きな差が見られます（図 32 参照）。

図 32 主観的健康感と各リスク者割合との関係

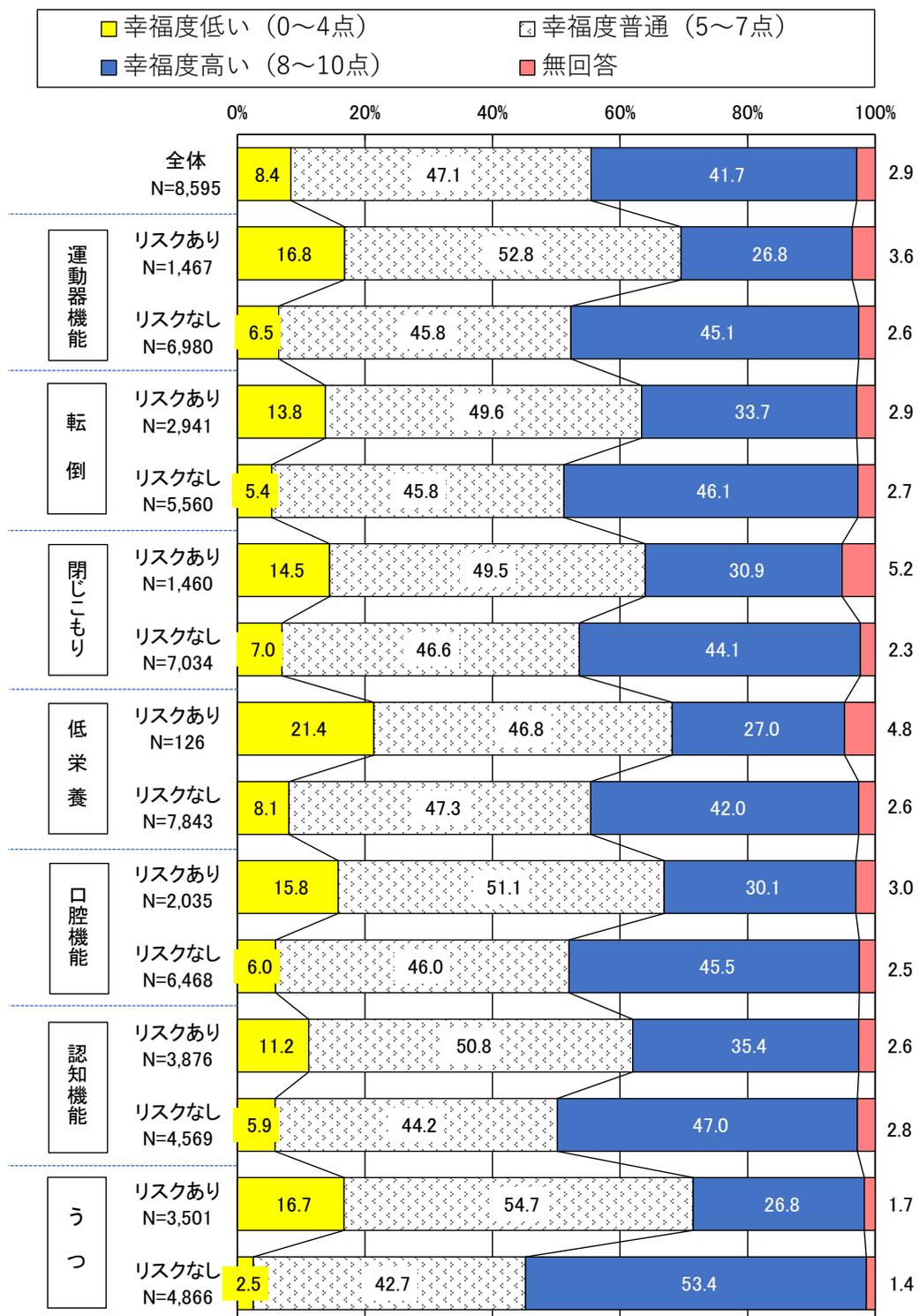


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(6) 各リスクの有無と主観的幸福感との関係

これまで見てきた各リスクの有無別に主観的幸福感の状況をみると、すべての分野について、リスクのある人に比べリスクのない人の方が主観的幸福感が高い人の割合が高いという結果となっています（図33参照）。

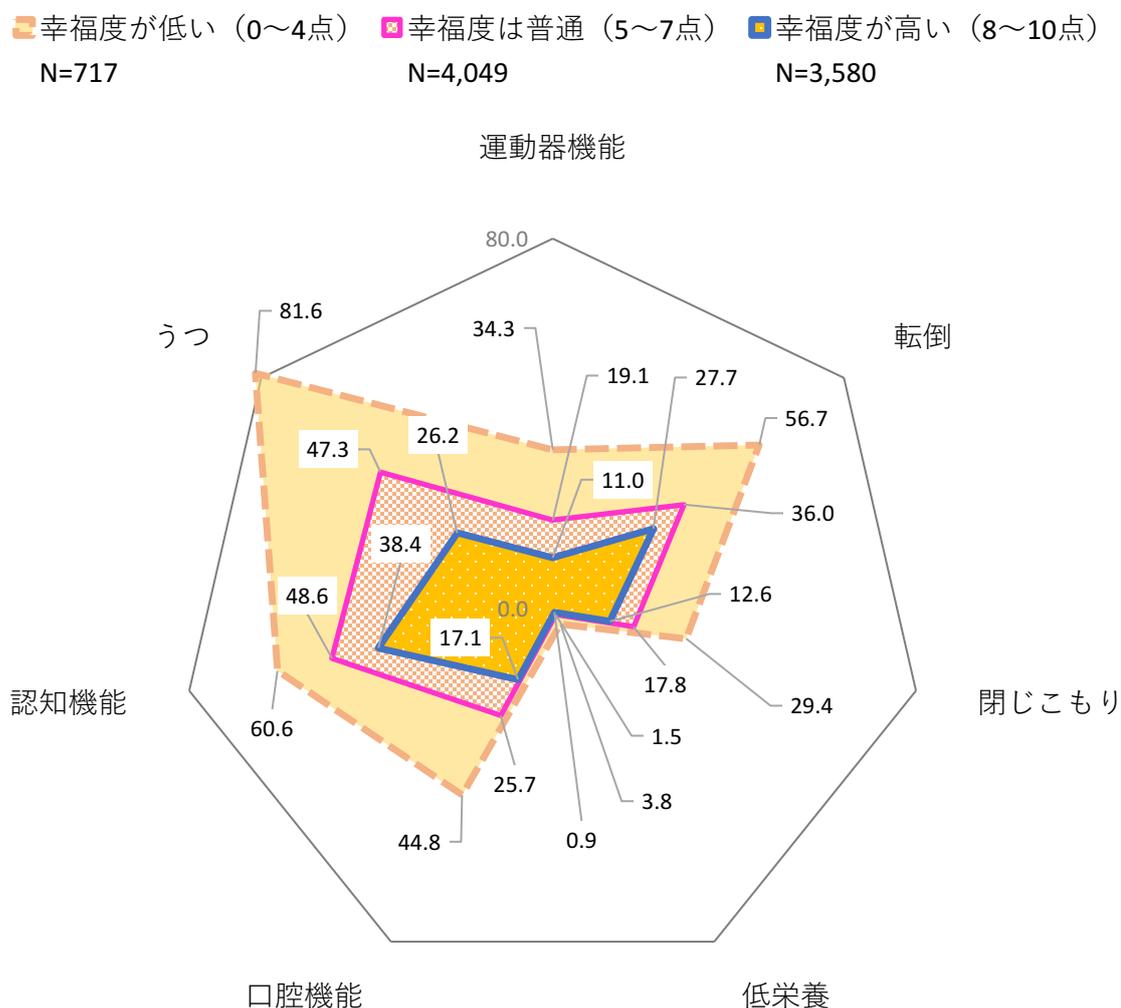
図33 各リスクの有無別主観的幸福感



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

また、主観的幸福感と各リスク者割合との関係を見ると、主観的幸福感が高い人ほど、リスク者の割合が低くなる傾向にあることが分かります。例えば、主観的幸福感が高い人では認知機能の低下が見られる割合は38.4%である一方、主観的幸福感が低い人では認知機能の低下が見られる割合は60.6%で大きな差があるなど、認知機能や口腔機能、運動器、転倒、閉じこもりなど、ほとんどの分野で主観的幸福感との関連が見られます（図34参照）。

図34 主観的幸福感と各リスク者割合との関係



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

### Ⅲ 社会参加の状況について

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目のうち、「問6 地域での活動について」は、高齢者の社会参加の状況と地域活動への参加意向を把握するための設問です。

新しい介護予防・日常生活支援総合事業の展開にあたっては、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援等を目指すこととなりますが、その前提として、高齢者の社会参加の状況と地域活動への参加意向を把握しておくことが必要となります。

そこで、社会参加等の状況については、国が設定したオプション項目も含めた8つの地域での活動（①ボランティアのグループ、②スポーツ関係のグループやクラブ、③趣味関係のグループ、④学習・教養サークル、⑤（ふれあいサロン・健康いきいきサロンなど）介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事）への参加状況と、地域づくりに対して「参加者として」「お世話役として」の両方の立場における参加の意向を分析しました。

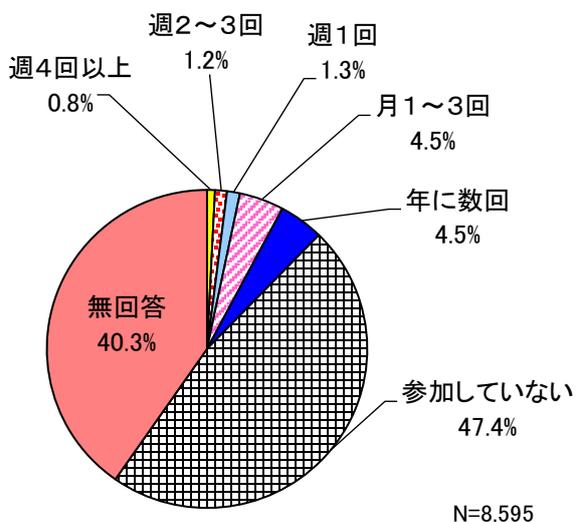
さらに本市では、地域包括ケアシステム構築に向け、介護予防につながる社会参加の場としてのサロン等の充実を図ってきました。今回の調査では、そのことを踏まえ、サロンに関する独自の設問項目を設け、サロンをめぐる現状等をより正確に把握することを目指して、回答結果の分析を行いました。

(1) 地域での活動への参加状況

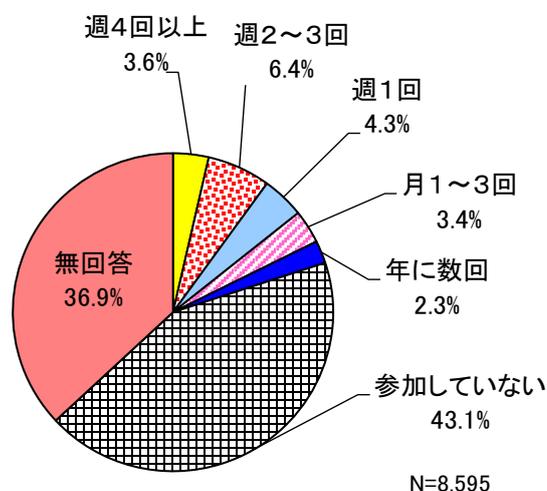
地域での活動への参加状況を市全体で見ると、町内会・自治会（30.1%）や趣味関係のグループ（24.8%）への参加割合が比較的高く、スポーツ関係のグループやクラブ、収入のある仕事、ボランティアのグループ、介護予防のための通いの場、老人クラブ、学習・教養サークルといった順になっていることがわかります（図35①～⑧参照）。

図35 地域での活動への参加状況(①～⑧)

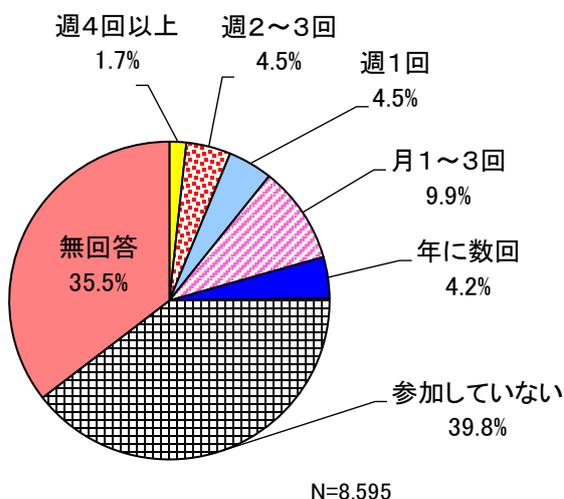
①ボランティアのグループ



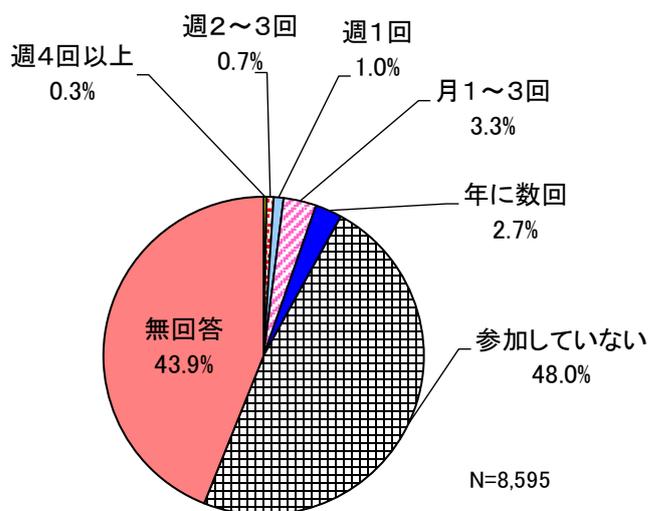
②スポーツ関係のグループやクラブ



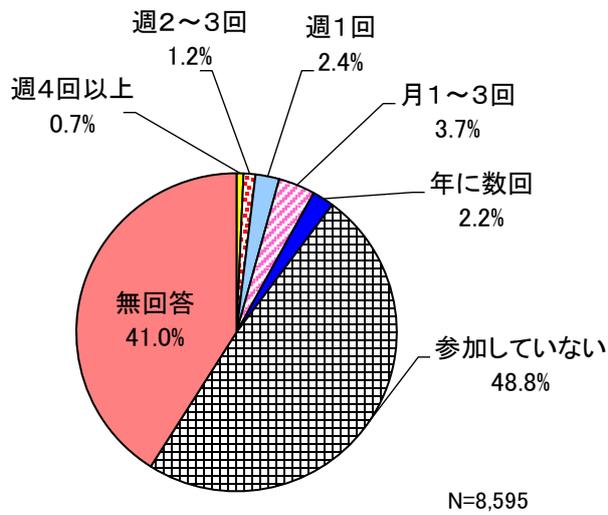
③趣味関係のグループ



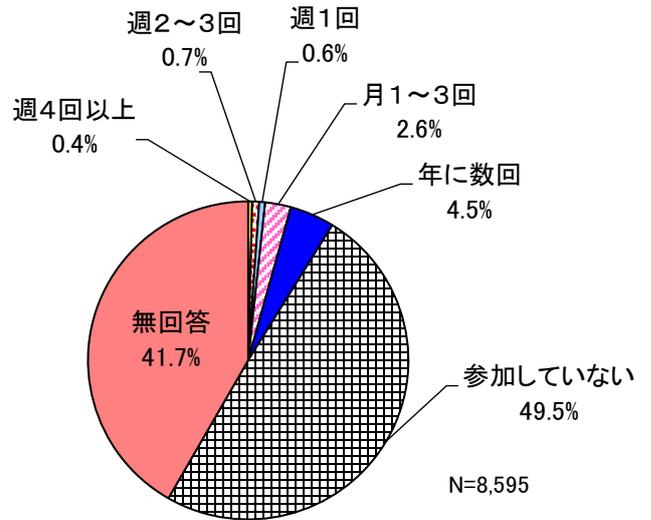
④学習・教養サークル



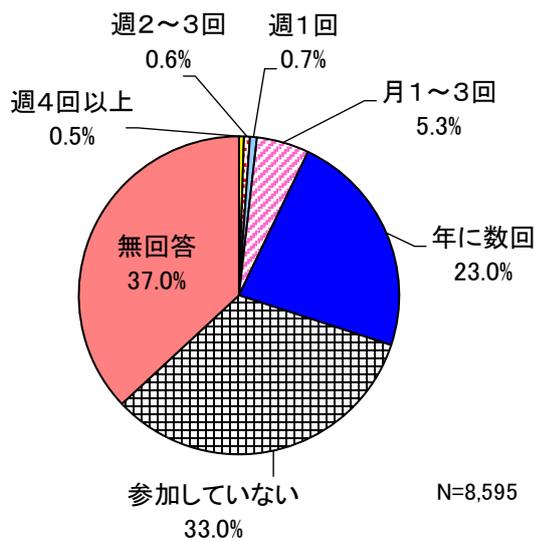
⑤介護予防のための通いの場



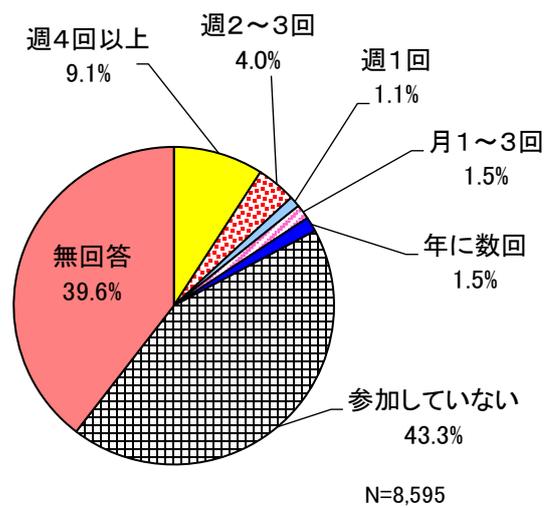
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事

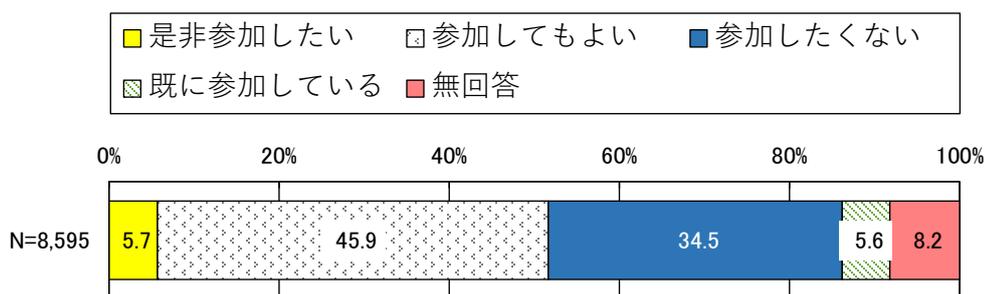


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(2) 地域づくりの場への参加意向

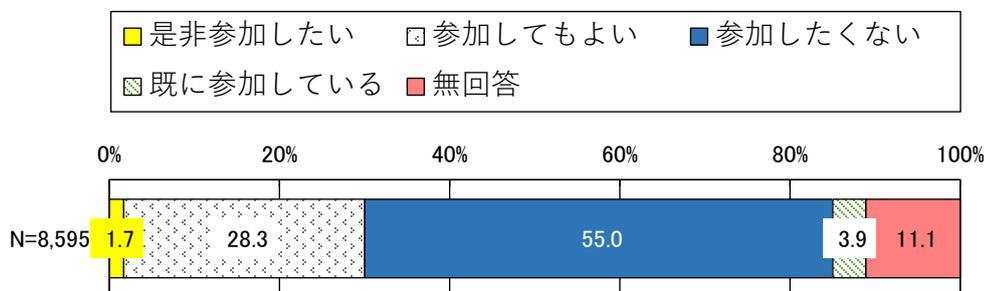
地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動など、地域づくりについて、参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は51.6%（図36参照）、お世話役としての参加意向で30.0%（図37参照）と一定程度いるため、地域づくりに向けて行政として生活支援コーディネーターや関係機関と連携してこれらの層に働きかけていくことが重要です。

図36 地域づくりの場への参加者としての参加意向



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図37 地域づくりの場へのお世話役としての参加意向



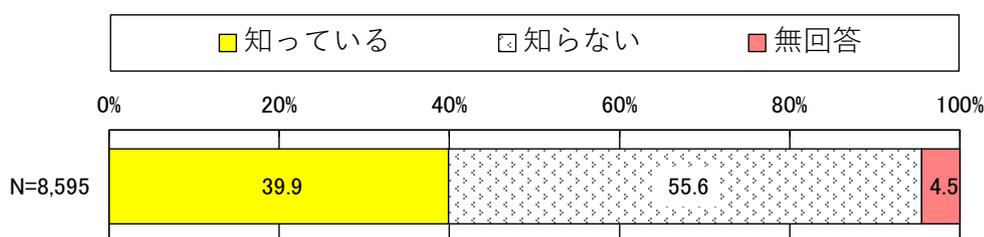
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(3) サロン等の“通いの場”の認知度・参加状況・参加希望

サロン等の“通いの場”が地域にあることを知っているという回答した人の割合は39.9%となっており（図38参照）、前回（平成28年度）調査結果（図39参照）におけるサロンの認知度（35.1%）に比べ4.8ポイント高くなっています。

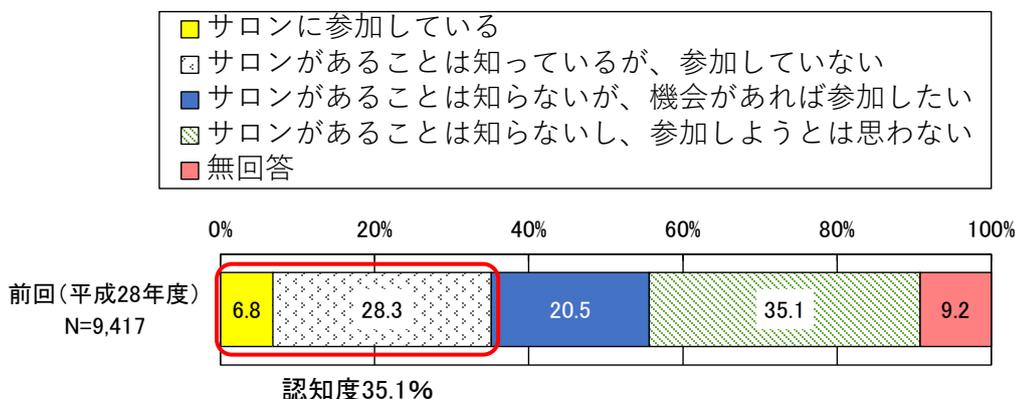
また、サロン等の“通いの場”への参加率は10.8%となっており（図40参照）、前回（平成28年度）調査結果（図39参照）におけるサロンの参加率（6.8%）に比べ4.0ポイント高くなっています。

図38 サロン等の“通いの場”の認知度



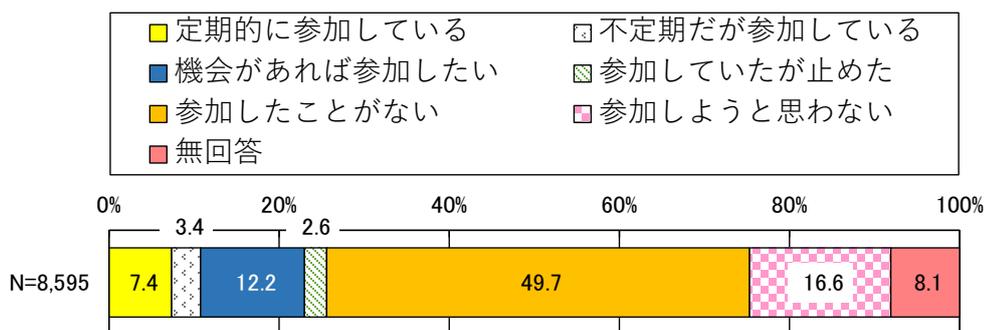
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図39 サロンの認知度及び参加状況・参加希望（前回調査結果）



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（平成28年）結果

図40 サロン等の“通いの場”の参加状況・参加希望



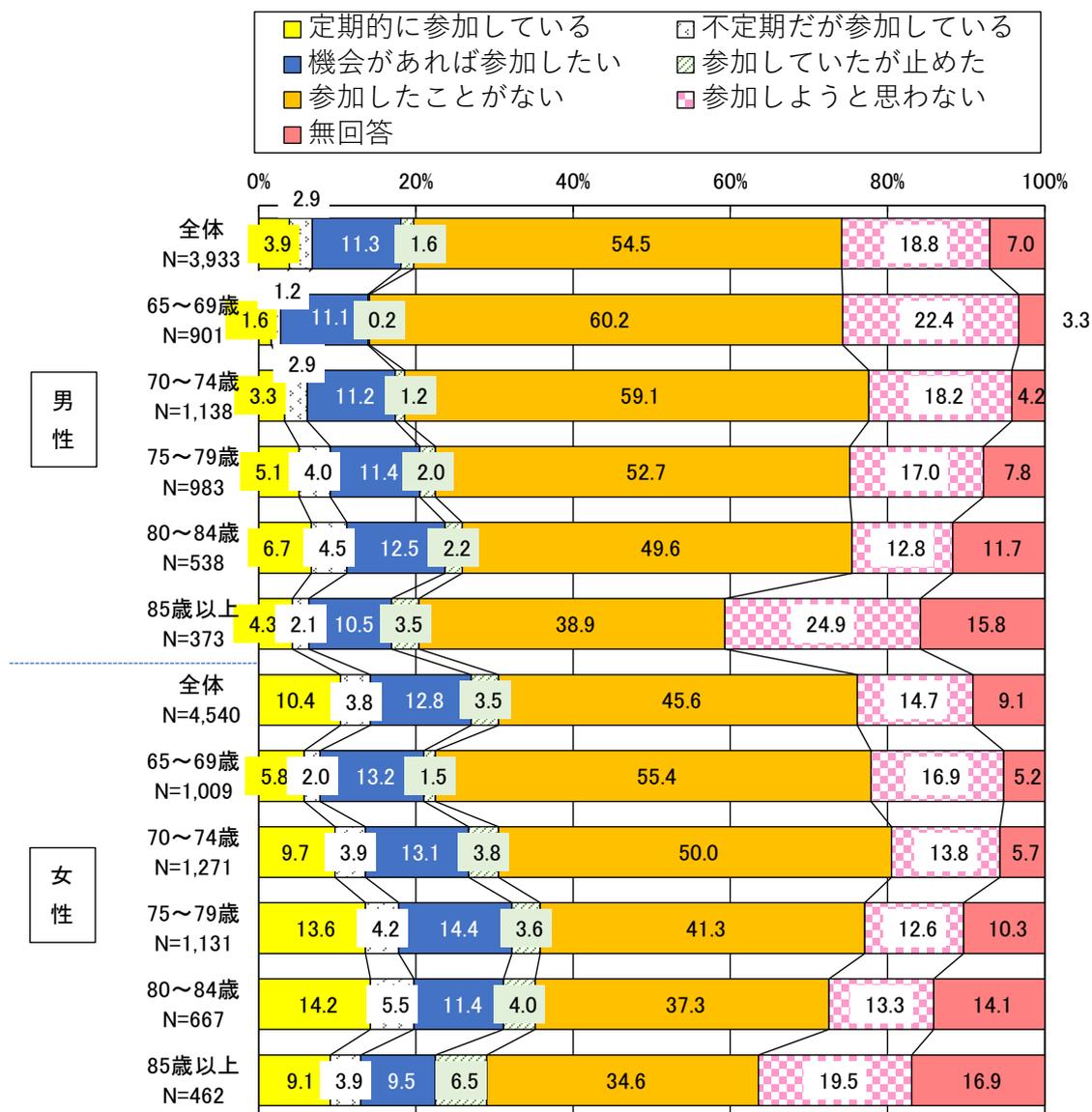
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(4) 男女・年齢階層別に見たサロン等の“通いの場”の参加状況・参加希望

男女・年齢階層別に“通いの場”への参加率を見ると、男性（6.8%）に比べ女性（14.2%）の方が7.4ポイント高く、男女とも「80～84歳」（男性11.2%、女性19.7%）が最も高くなっています（図41参照）。

また、参加希望は男性では「80～84歳」（12.5%）、女性では「75～79歳」（14.4%）がそれぞれ最も高い割合となっています（図41参照）。

図41 男女・年齢階層別サロン等の“通いの場”の参加状況・参加希望



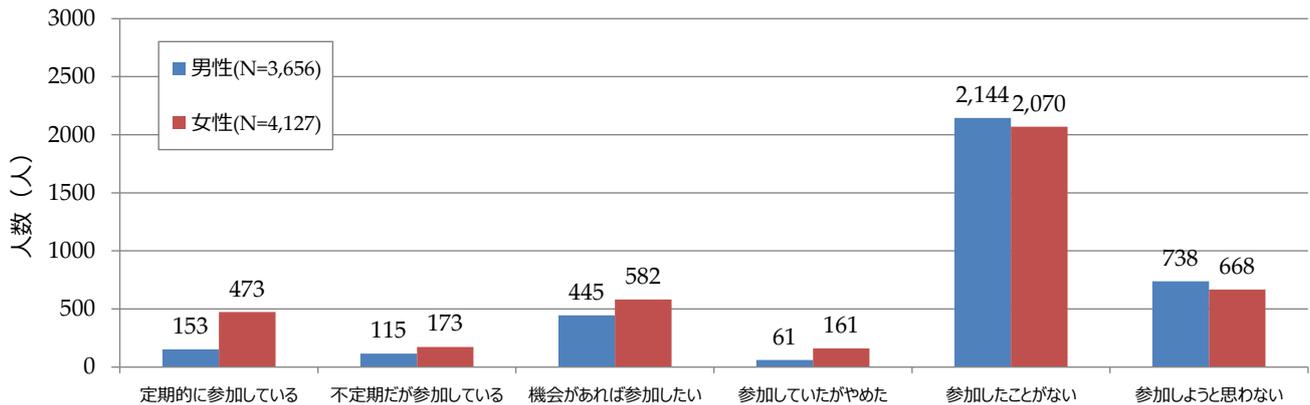
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(5) 男女別にみたサロン参加・参加希望の状況

サロンへの定期的な参加者数及び参加率をみると、男性では 153 人（4.2%）、女性では 473 人（11.5%）となっています（図 42、43 参照）。

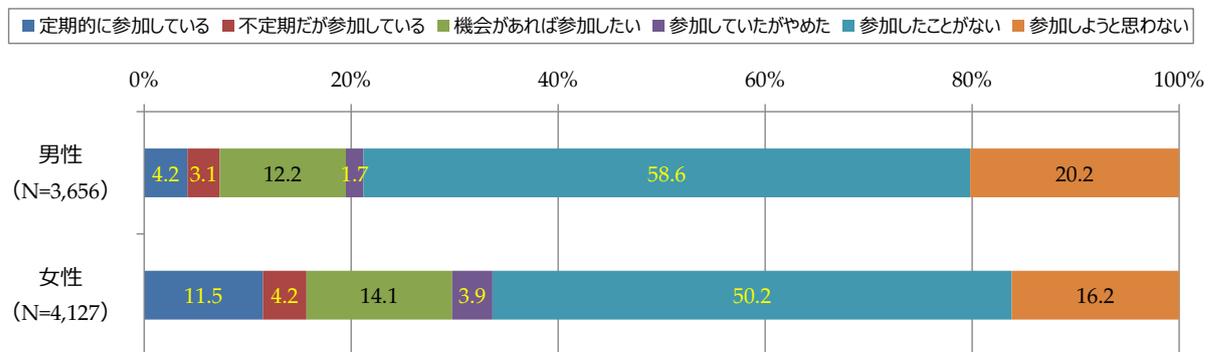
機会があれば参加したいと回答した人は、男性 445 人（12.2%）、女性 582 人（14.1%）となっています（図 42、43 参照）。

図 42 男女別にみたサロン参加者・参加希望者数(除無回答)



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図 43 男女別にみたサロン参加者・参加希望者割合(除無回答)



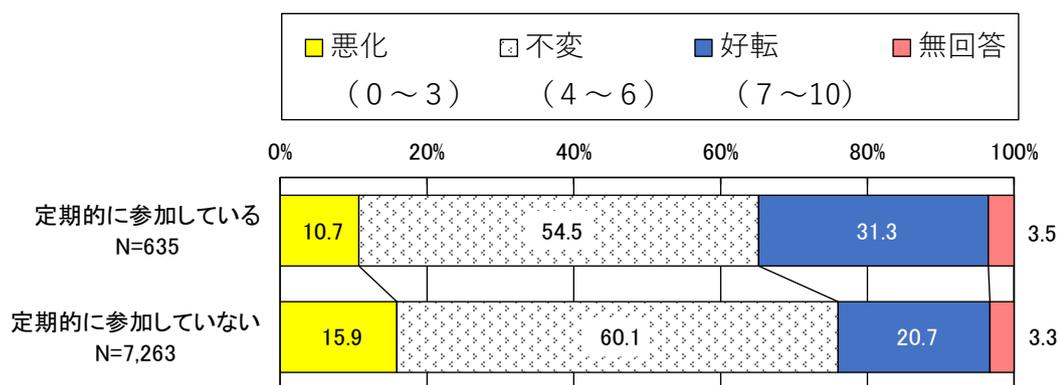
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(6) “通いの場” への定期的な参加の有無と身体状態・生活状況等との関係

“通いの場” への定期的な参加の有無と3年前からの身体状態の変化との関係を見ると、定期的に参加している人の方が参加していない人に比べ、身体状態がよくなったと回答した人の割合が高くなっています（図44参照）。

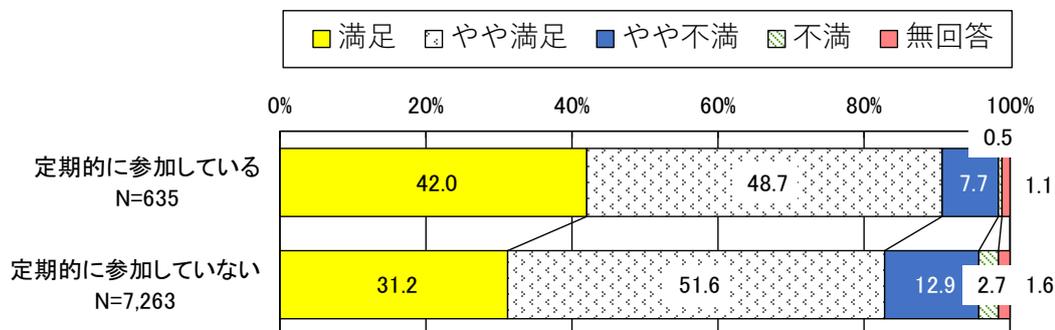
また、定期的に参加している人の方が参加していない人に比べ、生活の満足度や幸福度が高い人の割合が高くなっています（図45、46参照）。

図44 “通いの場” への定期的な参加の有無別3年前からの身体状態の変化



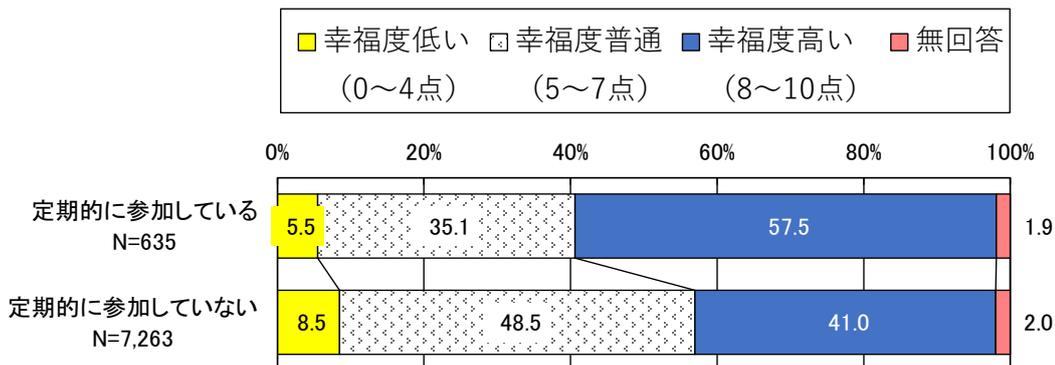
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図45 “通いの場” への定期的な参加の有無別生活の満足度



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図46 “通いの場” への定期的な参加の有無別幸福度

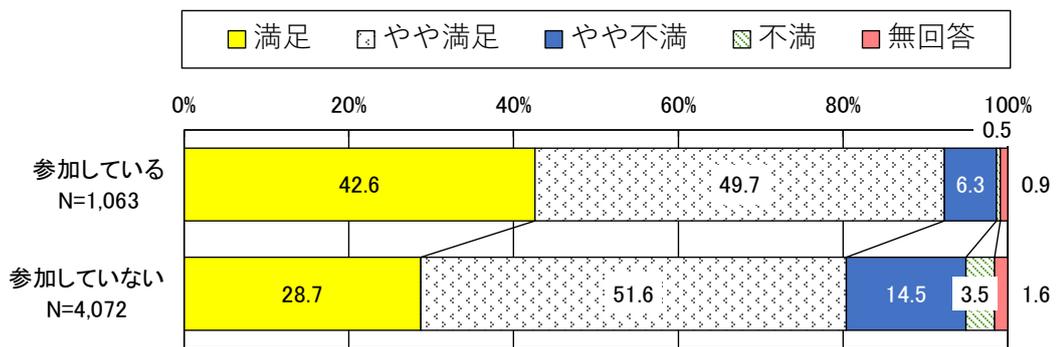


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(7) ボランティア活動と生活の満足度・幸福度

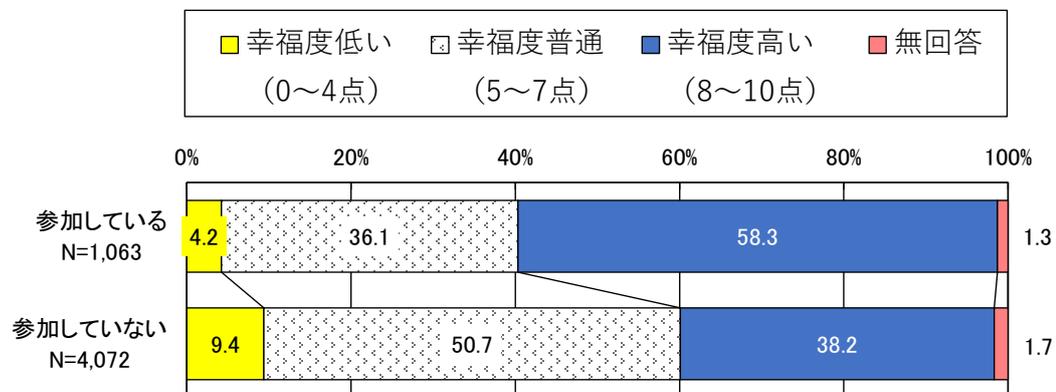
ボランティア活動への参加状況と生活の満足度や幸福度との関係を見ると、ボランティア活動に参加していると回答した人は、参加していないと回答した人に比べ生活の満足度・幸福度ともに高くなっています(図47, 48参照)。ボランティア活動に参加することでやりがいや生きがいを感じ、それが生活の満足度や幸福度を高めることにつながる様子がうかがえます。

図47 ボランティア活動への参加の有無別生活の満足度



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図48 ボランティア活動への参加の有無別幸福度

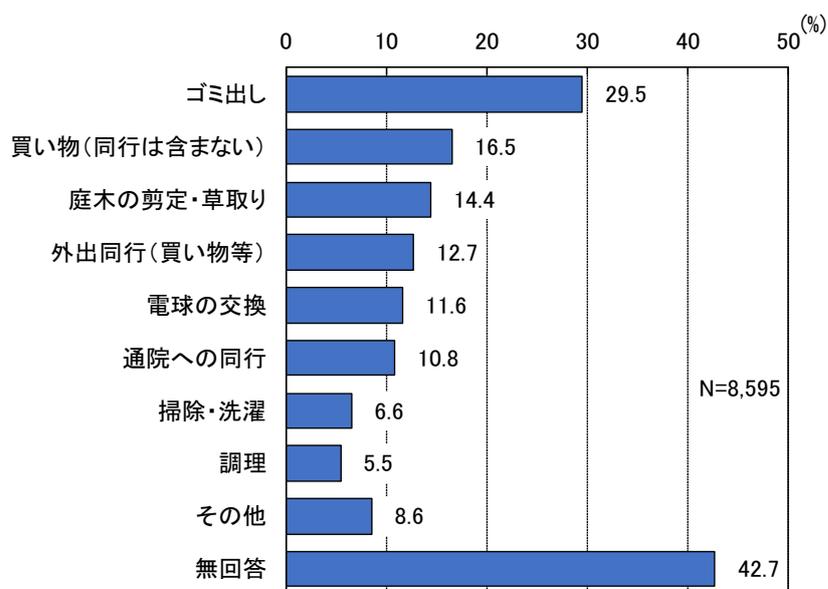


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(9) 手助けできること

近所の高齢者の方の困りごとで手助けできる（有償も含めて）ことについて聞いたところ、「ゴミ出し」が29.5%と最も多く、以下、「買い物（同行は含まない）」（16.5%）、「庭木の剪定・草取り」（14.4%）「外出同行（買い物等）」（12.7%）と続いています。

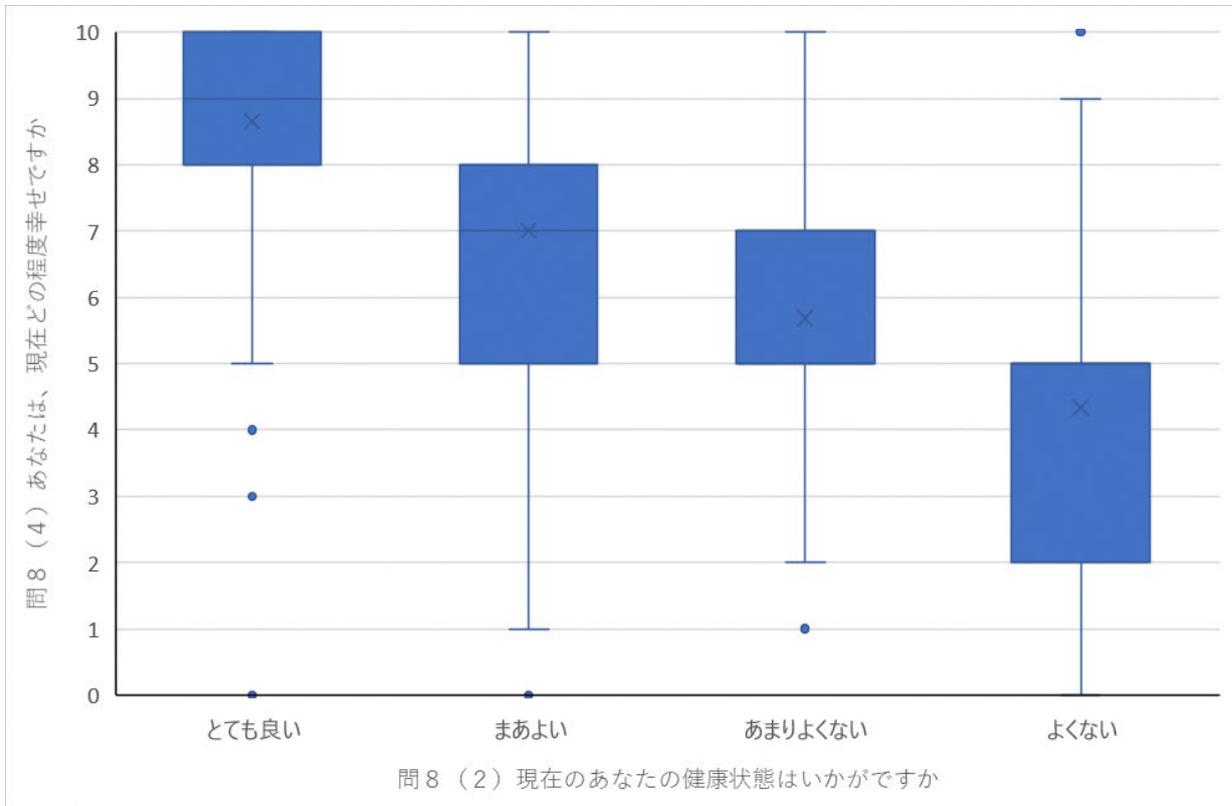
図 49 近所の高齢者の方の困りごとで、手伝ってもよいと思う（有償も含めて）こと



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(参考1) 幸福度と主観的健康感の関係

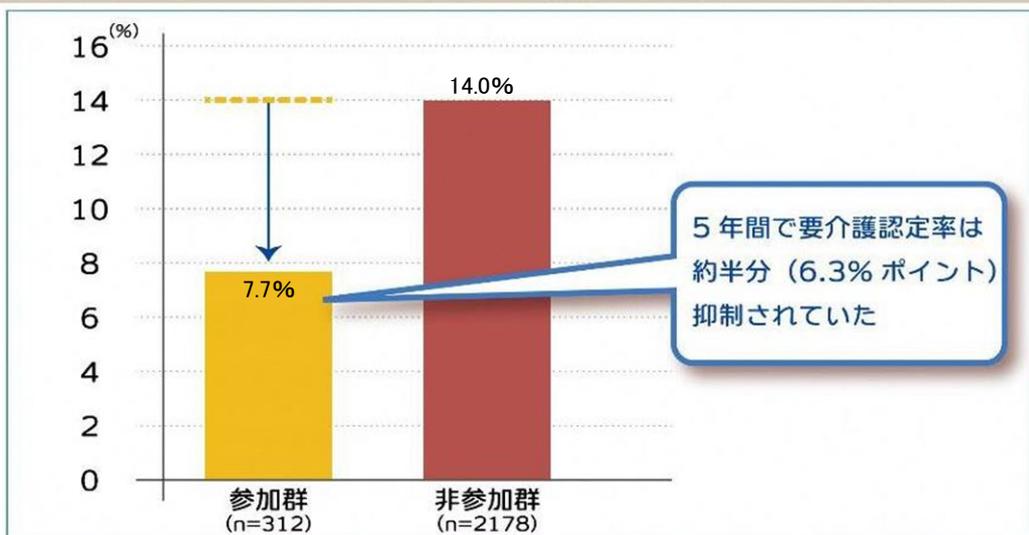
幸福度と主観的健康感の関係をみると、主観的健康感が高いほど、幸福度も有意に高くなっていました ( $p < 0.01$ )。



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(参考2) サロン参加群で要介護認定率が低い～5年間を追跡した結果～

2007年から2012年までの5年間の要介護認定率を参加群と非参加群で比較した



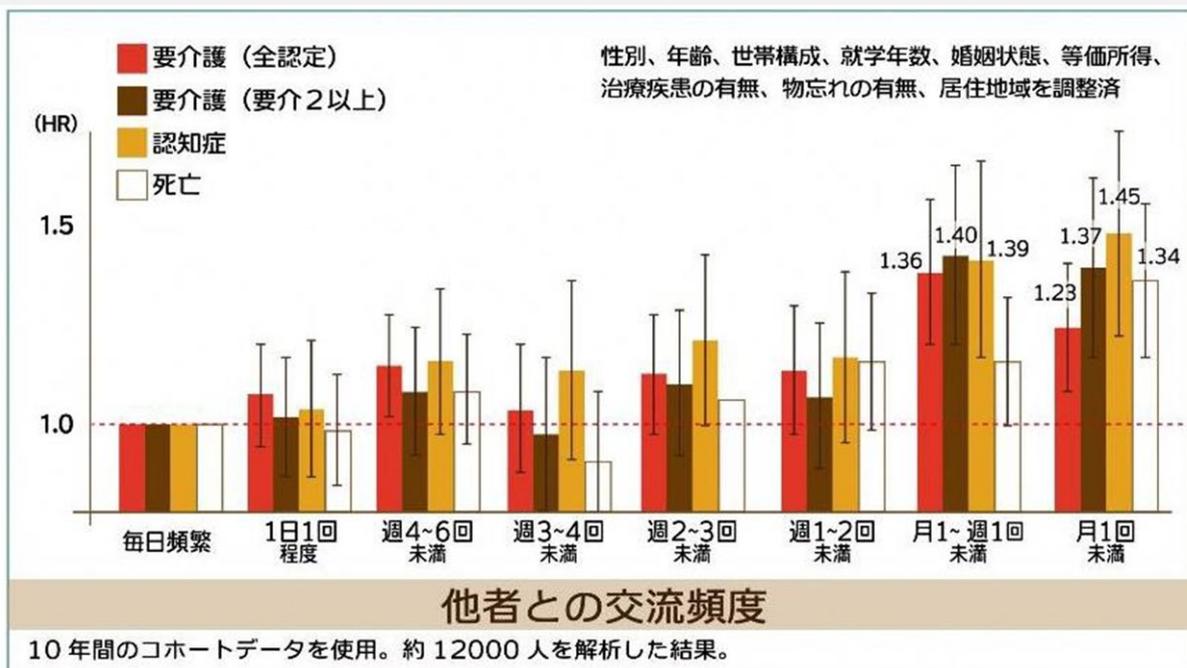
5年間のコホートデータを使用。約2400人を解析した結果。

資料: 厚生労働省「地域づくりによる介護予防を推進するための研究 (27410101)」

Hikichi H., Kondo N., Kondo K., et al. (2015) Journal of Epidemiology and Community Health (doi:10.1136/jech-2014-205345)

(参考3) 社会参加と介護予防効果の関係について

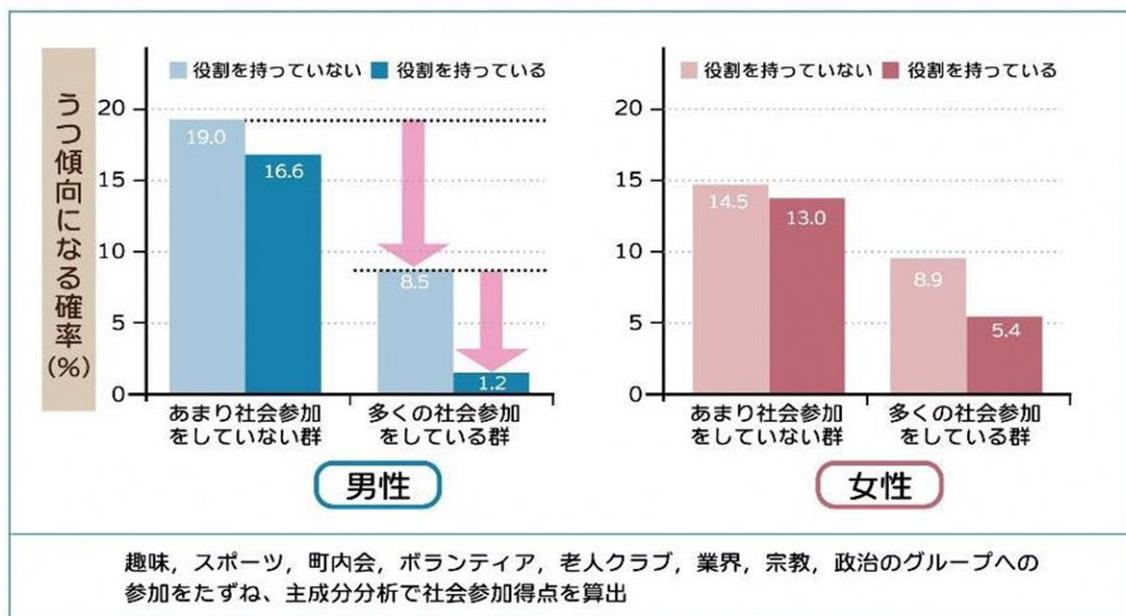
## 人との交流は週1回未満から健康リスクに ~月1回未満では1.3倍、早期死亡に至りやすい~



資料:厚生労働省「地域づくりによる介護予防を推進するための研究 (27410101)」  
齊藤雅茂・近藤克典・尾島俊之ほか(2015)日本公衆衛生雑誌, 62(3),より

## 役割を担って社会参加している男性はうつ発症リスクが7分の1

AGES 2003年調査時点でうつ傾向が無く、2006年調査にも回答した65歳以上の2728人



資料:厚生労働省「地域づくりによる介護予防を推進するための研究 (27410101)」  
Takagi, D., & Kawachi, I. (2013). BMC Public Health, 13:701, doi:10.1186/1471-2458-13-701.